資料

（平成七年十月）

# 第四十回「合宿教室」（厚木）感想文集

## ――日本人としての自覚をもとめて――

社団法人　国民文化研究会

— “合宿教室” 40年の歩み —

| 回数 | 年　度 | 開催地 | 参加人員 | 主　　要　　講　　師 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 昭和31年 | 霧　島 | 92 | 広田洋二・日下藤吾・川井修治 |
| 2 | 〃 32年 | 福　岡 | 127 | 竹山道雄・高山岩男・浅野晃 |
| 3 | 〃 33年 | 佐　賀 | 72 | 勝部真長・木下彪・森三十郎 |
| 4 | 〃 34年 | 阿　蘇 | 160 | 花田大五郎・中山優・野口恒雄 |
| 5 | 〃 35年 | 雲　仙 | 200 | 木内信胤・花田大五郎・佐藤慎一郎 |
| 6 | 〃 36年 | 雲　仙 | 203 | 小林秀雄・木内信胤・津下正章 |
| 7 | 〃 37年 | 阿　蘇 | 215 | 福田恆存・木内信胤・黒岩一郎 |
| 8 | 〃 38年 | 雲　仙 | 202 | 竹山道雄・木内信胤・木下広居 |
| 9 | 〃 39年 | 桜　島 | 202 | 小林秀雄・広田洋二・木内信胤 |
| 10 | 〃 40年 | 大　分 | 215 | 岡潔・花見達二・木内信胤・夜久正雄 |
| 11 | 〃 41年 | 雲　仙 | 240 | 福田恆存・木内信胤・戸川尚 |
| 12 | 〃 42年 | 阿　蘇 | 336 | 林房雄・太田耕造・木内信胤 |
| 13 | 〃 43年 | 霧　島 | 353 | 竹山道雄・高谷覚蔵・木内信胤 |
| 14 | 〃 44年 | 阿　蘇 | 403 | 岡潔・木内信胤・木下道雄・奥田克巳 |
| 15 | 〃 45年 | 雲　仙 | 491 | 小林秀雄・木内信胤・桑原暁一 |
| 16 | 〃 46年 | 霧　島 | 302 | 村松剛・木内信胤・戸田義雄 |
| 17 | 〃 47年 | 阿　蘇 | 402 | 木内信胤・山本勝市・胡蘭成 |
| 18 | 〃 48年 | 雲　仙 | 433 | 村松剛・木内信胤・山口宗之 |
| 19 | 〃 49年 | 霧　島 | 528 | 小林秀雄・木内信胤・戸田義雄 |
| 20 | 〃 50年 | 阿　蘇 | 435 | 福田恆存・木内信胤・夜久正雄 |
| 21 | 〃 51年 | 佐世保 | 372 | 長谷川才次・村松剛・木内信胤 |
| 22 | 〃 52年 | 雲　仙 | 332 | 木内信胤・衛藤瀋吉・高木尚一 |
| 23 | 〃 53年 | 阿　蘇 | 440 | 小林秀雄・木内信胤・松本唯一 |
| 24 | 〃 54年 | 霧　島 | 268 | 木内信胤・高山岩男・山田輝彦 |
| 25 | 〃 55年 | 雲　仙 | 431 | 福田恆存・法眼晋作・宝辺正久 |
| 26 | 〃 56年 | 阿　蘇 | 353 | 齋藤忠・村松剛・青砥宏一 |
| 27 | 〃 57年 | 霧　島 | 321 | 齋藤忠・黛敏郎・幡掛正浩 |
| 28 | 〃 58年 | 雲　仙 | 327 | 齋藤忠・小堀桂一郎・長内俊平 |
| 29 | 〃 59年 | 阿　蘇 | 302 | 吉岡一郎・小堀桂一郎・加納祐五 |
| 30 | 〃 60年 | 阿　蘇 | 249 | 市原豊太・高村坂彦・小田村四郎 |
| 31 | 〃 61年 | 島　原 | 294 | 江藤淳・村松剛・小柳陽太郎 |
| 32 | 〃 62年 | 阿　蘇 | 269 | 小堀桂一郎・鈴木一・関正臣 |
| 33 | 〃 63年 | 島　原 | 227 | 児島襄・小堀桂一郎・加納祐五 |
| 34 | 平成元年 | 島　原 | 204 | 村松剛・山田輝彦・国武忠彦 |
| 35 | 〃 2年 | 阿　蘇 | 204 | 黛敏郎・小柳陽太郎・占部賢志 |
| 36 | 〃 3年 | 厚　木 | 244 | 田久保忠衛・国武忠彦・山内健生 |
| 37 | 〃 4年 | 阿　蘇 | 257 | 松村剛・平川祐弘・奥冨修一 |
| 38 | 〃 5年 | 厚　木 | 271 | 村松剛・佐伯彰一・白濱裕 |
| 39 | 〃 6年 | 阿　蘇 | 253 | 徳岡孝夫・小堀桂一郎・絹田洋一 |
| 40 | 〃 7年 | 厚　木 | 240 | 小川三夫・長谷川三千子・東中野修道 |
| 累計・参加人員　11,469名 | | | | |

# 第四十回〝合宿教室（厚木）〟全参加者の感想文と短歌詠草

とき　平成七年八月四日（金）から八日（火）まで四泊五日間

ところ　神奈川県・厚木市・「厚木市立七沢（ななさは）自然教室」

参加総数　二四〇名

目　次

〝はしがき〟に代へて……理事長・小田村寅二郎……2
大学別参加者数・その他の人数の内訳……5
〝合宿教室〟の日程表（四泊五日）……6
第40回〝合宿教室〟のあらまし……7
感想文と第二回目の〝短歌詠草〟……参加者全員……27
短歌詠草……合宿中の第一回目の創作作品……参加者全員……105
あとがき……128
カメラ・レポート32枚（29ページから91ページの左頁に掲載）

# 〝はしがき〟に代へて

小田村寅二郎（数へ、八十二歳）
（本会理事長・元亜細亜大学教授）

昭和三十一年（一九五六年）の本会創立以来、毎年の八月に、一年も欠かさずに続けて来ましたこの〝合宿教室〟は、今年で第四十回目といふ節目の年を迎へ、神奈川県厚木市の「市立七沢自然教室」で、八月四日（金）から八月八日（火）までの四泊五日間の日程で開催致しました。この施設を利用させていただくのは、一年置きでの三回目となりますが、今年も〝厚木市〟と〝厚木市教育委員会〟の御後援をいただき、「自然教室」の所長さん以下全職員の献身的な御協力を得て開催できましたことは、まことに有難い極みでありました。

厚木市が、前市長・足立原茂徳氏（四期在任）の時代に、「丹沢・大山国定公園」の丹沢連峰の端に位置する「鐘が嶽」の山麓、三〇、五七八平方米の聖域に、四十一億二千万円の巨費を投じて、厚木市の次代の青少年男女の屋外教育の場として建設された施設でありますだけに、行きとどいた施設を活用させていただけたこの〝合宿教室〟は、まことに恵まれた環境のもとに開かれたもの、といふべきでせう。厚く感謝申し上げる次第です。

全国津々浦々から馳せ参じてくださった参加者諸君（五十三大学から、男女学生一一七名、社会人および関係者一一三名、計二四〇名）は、旅装を解く間もなく、開会式（八月四日午後二時）に列席し、開会宣言（東大工学部三年・松岡勲君）、国歌斉唱二回、ついで〝祖国のために尊い生命を捧げられたすべての先人の御霊〟に一分間の黙禱を捧げたあと、合宿運営委員長・山口秀範氏（大成建設㈱・国際営業部企画室長）は、「夏休みの過し方として、これほど中身の濃いひとときはない。どうか四泊五日間を心を働かせて過していただきたい」と訴へられました。

今回の〝合宿教室〟にお招きした講師のお二方、長谷川三千子先生（埼玉大学教授）は、この教室初めての女性講師であられ、「敗戦の克服」と題してのお心こもるお話を展開してくださいましたし、今お一人は、この教室としては異色ともいふべき宮大工・小川三夫先生（鵤工舎・舎主）で、「木のいのち・木のこころ――西岡常一棟梁と私――」と題されて、法隆寺宮大工の道を選ばれた御体験を、心にしみ入るやうにお話くださいました。両講師とも、戦後のお生れの方であられる、といふことも、この〝合宿教室〟としては劃期的なことであったのではないでせうか。

さて、この〝合宿教室〟では、日本の歴史と伝統を軽視しがちな現代日本の社会風潮に鋭い眼を注がねばならぬことを強調すると共に、さきの「大東亜戦争」の本義を明らかにすることに、初日・第二日目の講義を集中的に行なひました。東京裁判史観からの脱皮が刻下の急務であることも、合せて力説されたのです。また、大学内での〝友だちづきあひ〟は、〝上っつらだけの遊び友だちではなく、真にお互ひに心を許し合ふことの出来る友だち〟を求め合ってこそ、〝学問の友〟〝人生の友〟が得られることを、すでに社会に出てゐて〝合宿教室〟の先輩に当る助言者たちが訴へてくださったので、胸襟を開いての「班別討論」「班別輪読」「各自が創作した和歌についての班別相互批評」などの時間は、さうした意味で、今年の合宿での重要な時間帯となっていきました。それ故に、参加者諸君は、それぞれに初めての体験の中から得難い収穫を心に宿してくださった、かと思ひます。

なほ、今年の〝合宿教室〟のために一年前に選任された「実行委員会」は、委員長の本会常務理事・澤部寿孫氏（日商岩井㈱ガス石炭本部副部長）以下の方々が精力的な活躍を展開されましたし、その委員会によって選任された「第四十回合宿教室・運営委員会」には、委員長の本会理事・山口秀範氏（前出）以下の方々が、斬新な日程プランをはじめ、全国的な運動による助言者層の研鑽への努力を、一年間にわたって展開してくださいました。両委員会の委員各位には、多忙な各自の日常勤務にもかかはらず、絶大な尽力をしてくださったことに、深甚の謝意を表して、ここに報告させていただきます。

また、ここに編したこの『感想文集』は、全参加者が〝解散の間ぎは〟に〝走り書き〟で提出してくださったものです。紙面の都合で、全文をそのまま載せ得なかったことは、お許しいただきたいと存じます。この「文集全体の編集作業」には青山直幸氏（戸田建設㈱開発計画部計画課主任）、藤井貢氏（㈱講談社校閲第三部次長）をはじめ、十名前後の会員（編集後記のあとに人名記載）が、公務・社務の余暇をさいて取り組んでくださったことを、心から感謝申し上げます。

また、最後になりましたが、この〝合宿教室〟事業を行ふに当りまして、本年もまた、朝野からお寄せくださいました多大の御支援御激励の数々に対しまして、会員一同と共に、心から厚く御礼申し上げる次第でございます。

来年（平成八年）の「第四十一回合宿教室」は、八月二日（金）～六日（火）の日程（四泊五日間）で、熊本県阿蘇国立公園内の「阿蘇の司・ビラパークホテル」で行ふことに決定し、合宿教室運営委員長には、九州・福岡市在住の與島誠央氏（福岡県立春日高校・教諭）を煩はすことになりました。改めて各位の格段の御協力をお願ひ申し上げます。

「第40回合宿教室」記念撮影（参加者 240名）　於・厚木市・「厚木市立七沢自然教室」

## 参加者

**（学生班　五三大学）**（洋数字は参加学生数）

北海道大1　東京大3　防衛大2　横浜国大1
海上保安大1　新潟大3　金沢大1　富山大3　京都大1
大阪外語大1　大阪府立大1　奈良大1　山口大1
香川大1　九州大2　福岡教育大1　佐賀大1　熊本大2
鹿児島大1　琉球大1　東北女子大1　東北女子短期大4
拓殖大35　亜細亜大6　早稲田大4　日本大3　中央大2
桜美林大2　慶応大1　青山学院大1　東京工科大1
法政大1　玉川大1　明治大1　国学院大1　日本文理大1
実践女子大1　東京電機大1　福井工業大3　金沢工業大2
関西大1　同志社大1　高野山大1　佛教大1
西南学院大1　中村学園大2　中村学園短期大2　尚絅大1
熊本学園大2　第一経済大1　鹿児島経済大1
日本デザイナー学院1　東京法律専門学校1

**計　一一七名**（うち女子四二名）

**（社会人・教員参加者）**　二七名
**（招聘講師）**　二名　**（国民文化研究会）**　八四名
**（事務局）**　八名　**（写真）**　一名
**（見学参加者）**　一名

総計　二四〇名

# 第40回“全国学生青年合宿教室” 日程表 平成7年（1995年）

| 8月4日(金)（第1日） | 8月5日(土)（第2日） | 8月6日(日)（第3日） | 8月7日(月)（第4日） | 8月8日(火)（第5日） |
|---|---|---|---|---|
| | (起床) | (起床) | (起床) | (起床) |
| | 洗面・清掃 | 洗面・清掃 | 洗面・清掃 | 洗面・清掃 |
| | (7:00) | (7:00) | (7:00) | (7:00) |
| | 朝の集ひ（国旗掲揚と国歌斉唱・体操） | 朝の集ひ（国旗掲揚と国歌斉唱・体操） | 朝の集ひ（国旗掲揚と国歌斉唱・体操） | 朝の集ひ（国旗掲揚と国歌斉唱・体操） |
| | 朝　食 | 朝　食 | 朝　食 | 朝　食 |
| | | | | (8:00) 合宿生活振り返り 合宿運営委員長　山口秀紀氏 |
| | (8:30) | (8:30) | (8:30) | (8:20) |
| | （講義）<br>評論家・埼玉大学教授<br>長谷川三千子　先生 | （講話）<br>宮大工・鳥工舎・舎主<br>小川三夫先生 | （社）国民文化研究会 副理事長<br>小柳陽太郎　先生 | 参加者による（全体感想自由発表） |
| | | (09:20) | | |
| | | (09:40) 質疑応答 | | |
| | (10:00) | | (10:00) | |
| | (10:10) | (10:10) | (10:10) | 感想文執筆及び第2回短歌創作 |
| | 質疑応答 | (10:20) | 質疑応答 | |
| | (10:40) | 班別研修 | (10:30) | |
| | 班別研修 | (11:30) | 班別研修 | (11:30) |
| | | （短歌創作導入講義）<br>戸田建設（株）<br>青山直幸　先生 | (12:00) | 班別懇談 |
| | 記念写真撮影 | | 昼食・休憩 | 清掃 |
| | (12:30) | (12:30) | | (12:30) |
| | 昼　食 | レクリエーション（弁当持参） | | 閉会式<br>（挨拶）国文研・副理事長<br>千代田コンサルタント（株）代表取締役専務　上村和男氏<br>（このあと昼食）<br>（解散） |
| | 休　憩 | | (1:00) | |
| (2:00) 閉会式<br>（挨拶）国民文化研究会理事長　小田村寅二郎氏<br>オリエンテーション（合宿趣旨説明）<br>合宿運営委員長・大成建設（株）国際室長　山口秀紀氏<br>（諸注意伝達）<br>合宿指導班長<br>日産自動車（株）　内海勝彦氏 | (2:00) | ハイキング・短歌創作 | （創作短歌全体批評）<br>福岡県立春日高校教諭<br>與島誠央　先生 | |
| | （講義）<br>神奈川県立百合丘高校校長<br>国武忠彦　先生 | | (2:00)<br>(2:10) | |
| (3:00)<br>(3:10) 班別自己紹介<br>班別事前話し合い『日本への回帰』第30講<br>事務連絡<br>打ち合わせ | (3:30)<br>(3:40) | | 班別・短歌相互批評 | |
| (4:30) | 全体研修 | (4:30) | | |
| 休　憩 | (5:00) | 休　憩 | (5:00) | |
| 夕　食 | 休　憩 | 夕　食 | 地区別懇談会<br>(5:30) | |
| 入　浴 | 夕　食 | 入　浴 | 休　憩 | |
| | 入　浴 | | 夕　食 | |
| | | （短歌提出） | 入　浴 | |
| (7:00) | | (7:00) | | |
| 合宿導入講義<br>亜細亜大学教授・文学博士<br>東中野修道　先生 | (7:30)<br>（体験発表）<br>長澤一成氏：西尾病院<br>中田一義氏：(株)BBS金明社員<br>竹内孝彦氏：船橋市立法典東小学校教諭 | （講話）<br>（社）国民文化研究会 常務理事・事務局長<br>長内俊平　先生<br>(8:00) 慰霊祭の説明<br>北村公一氏：(株) 神戸製鋼所 | (7:30) | |
| | | (8:20) | 班別研修 | |
| (8:30)<br>(8:40) | (8:30)<br>(8:40) | (8:30) | | |
| 班別研修 | 班別研修 | 慰霊祭 | | |
| | | (9:30) | (9:30)<br>(9:40) | |
| | | 班別懇談 | 夜の集ひ | |
| (10:00) | (10:00) | (10:00) | | |
| 就　床 | 就　床 | 就　床 | (10:30) | |
| (10:30) | (10:30) | (10:30) | 就床・消灯 | |
| 消　灯 | 消　灯 | 消　灯 | | |

# 第四十回〝合宿教室〟のあらまし

## 第一日

（八月四日・金曜日）

猛暑の中、いよいよ第四十回全国学生青年合宿教室開催の日となり、丹沢山系の中腹、ここ厚木市立七沢自然教室には、全国各地から学生・社会人が次々に参集した。長く九州各地で開催されてゐた合宿教室がこの神奈川県七沢自然教室で行はれるのは、一昨年に続き今年で三回目になる。参加者は自然教室進入路に張られた「友よと呼べば友は来りぬ！」の横断幕に迎へられて受付を済ませ、ただちに宿泊棟に向かひ、開会式に備へた。

### 開会式

第四十回全国学生青年合宿教室は、東京大学工学部三年の松岡勲君の清々しい「開会宣言」によって始まった。壇上の国旗を仰ぎつつ国歌を二度唱和した後、戦時平時を問はず祖国日本のために貴い生命を捧げられた全ての祖先の御霊に一分間の黙禱を捧げた。

次いで主催者を代表して国民文化研究会理事長小田村寅二郎先生が登壇され、「この合宿には長幼の序は保ってほしいが、年齢、学年、大学等の外的差異を取り払って研修に取り組んでもらひたい。頭の働きによって学問は伸びてゆくが、心の働きによって人間生活は豊かに奥深くなってゆくので、心を鍛へてほしい」と語られた。来賓を代表して厚木市長代理の市教育長中島久雄氏が「国文研の先生方のご協力によって、立派な合宿施設ができましたので、素晴しい合宿にして下さい」と挨拶され、最後に大阪外語大学卒・福田仁君が

「生き生きとした感動を学問の出発点にしよう」と力強く参加者に呼びかけた。

開会式終了後、オリエンテーションに移り、合宿教室運営委員長・山口秀範氏（大成建設㈱勤務・46歳）が「夏休みの過し方としてこれほど中身の濃いひとときはない」と語り、合宿の概要・趣旨について詳しく説明した。続いて、指揮班長の内海勝彦氏（日産自動車㈱勤務・41歳）によって合宿生活細部にわたる注意事項が伝へられた。

この後、参加者は宿泊棟の各班室に戻り、班ごとに参加した動機やどういふ学生生活を送らうと思ってゐるかなどを互ひに披瀝して自己紹介を行ひ、昨年の合宿記録集『日本への回帰第30集』を輪読した。

## 合宿導入講義　「歴史の解釈」

亜細亜大学教授　東中野　修道　先生

先生はまづ戦後を形づくってきた思想的な枠組が四つあること、即ち「階級闘争史観に象徴される社会主義といふイデオロギー」「自衛・侵略を問はず全ての戦争は悪、平和は善といふ硬直した平和主義」「満洲事変以降日本は犯罪国家であったと解釈する東京裁判史観」「戦後民主主義」であることを指摘された。そしてこれらがお互ひに絡まりあって戦後五十年の日本の思想を形成してきた事と、かうした思想から脱却して、大東亜戦争を文献に即して再検討し解釈する必要があることを述べられた。

戦前の大日本帝国憲法によれば天皇は神聖不可侵と規定され、国務大臣が政治的責任を負ふものであったが、昭和天皇は全ての責任をお一人で負はうとされた。その時のことを終戦の御製三首とマッカーサーの回顧録で紹介された。

次に、先生は「日本は戦争犯罪（捕虜虐待・捕虜抹殺）に対しては戦犯の死を以て謝罪し、昭和五十一年に賠償も完了してゐる。ドイツは謝罪も賠償も一切してをらず、ユダヤ人抹殺といふ戦争犯罪とは全く別の、一般の殺人行為に対して賠償

を続けてをり、それが戦後のドイツの生き残り戦術であった」と語られた。このことは世間一般に言はれてゐることとは正反対であり極めて重要な指摘であった。

所謂「従軍慰安婦問題」にも触れられ、強制連行されたといふ事例はなく、慰安婦は多額の契約待遇であった事実を述べられた。

最後に、「日本はハル・ノートを突きつけられ、自殺するか降伏するか戦ふかの選択しか残されてゐなかった」と語られ、さらに「自分の国だけが侵略戦争をしたと必要以上に自分を痛め付けるのは自虐的である。私達は静かな誇りを取り戻して戦争といふものを直視しなければならない」と結ばれた。

講義終了後、参加者は宿泊棟の各班室に戻り、導入講義を受けて班別研修に移った。オリエンテーション資料の「班別研修について」に従って先づ皆で講義内容を確認し合ひ、そして講師が一番伝へたかったことは何か、どこが最も重要なことだったかに留意して討論が進められた。

なほ、この班別研修は以後の各講義の後に行はれた。全国から集まった見ず知らずの班友を前にして、最初は緊張のためか意見も少なく、発言者も限られてゐたが、班員がお互ひに打ち解けるに従ひ、次第に発言も多くなり、時には反論し、時には共感し合ひながら、班員相互の心の交流が深められていった。

第二日

（八月五日・土曜日）

## 講義　「敗戦の克服」

埼玉大学教授　長谷川　三千子　先生

最初に先生は「子供たちの戦後五十年」と題する、原爆で亡くなった弟を背負った、悲しみの中にも毅然とした態度の少年の写真を全員に配られ、「週刊誌に掲載されたこの写真を見た時、私の探してゐたものはこれだったと思ひ、本日皆さんに是非見せたかった」とおっしゃってから講義を始められた。

この後「本日は徹底して理屈の話をしたい」と述べられ、クラウゼビッツの「戦争論」から説き起こし、戦争を本質的普遍的に定義し、若い学生にも解りやすく明晰な論理を展開された。

近代の戦争とは勝った国がその自国の正義と意志を負けた国に強要するものであるとし、これを踏まへて「ポツダム宣言」の原文を遂一解説してゆかれた。そして「日本は軍事的に敗れただけではなく、連合国側の正義と意志を強要された訳であるが、このことがつまり『近代戦』に敗れるといふことである」と指摘された。

続いて「終戦の詔書」を読まれ、その中の昭和天皇の『堪へ難キヲ堪へ忍ビ難キヲ忍ビ……』の御言葉の意味についてふれられ、「敗者として賠償や奴隷化に耐へてゆくことではなく、戦勝国の正義を押し付けられたことに耐へて、いつの日か自分達の正義と誇りを取り戻してほしいといふ意味である」といはれ、「その為には内戦等の国内的分裂を最も恐れるものであり、どうか日本の国柄を保ちつつ、この敗戦に耐へていってほしいといふことが詔書の主旨である」と説かれた。

また、「現在の日本をみると、先般の『終戦五十周年の国会決議』は全く戦争に〝敗ける〟といふことの意味を理解しない的外れの行為である。報復戦ではなく独力で自国に自らの正義と誇りを取り戻すことこそ、真の反戦的な行為なのではな

いか」と力強く語られた。

さらに、昭和二十一年の昭和天皇御製

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ松ぞををしき人もかくあれ

を紹介され、「これが敗戦国の国民として取りうる唯一の正しい態度である」と述べられ、「詔書と御製の御心は五十年後の現在の我々の上にも示され続けてゐる」と指摘された。そして御講義の最初の写真に立ち返られ、「敗れても誇りを失はないこの少年の姿こそ、若い皆さん方にも今なほ、求められてゐることではないか」と話を結ばれた。

## 講　義　「戦争と文学」

神奈川県立百合丘高校校長　国　武　忠　彦　先生

先生は、父上の出征そして復員後、まもなく亡くなられたことなど、幼少時の戦争の思ひ出からご講義を開始された。「戦後、戦争のことを考へる機会もなかったが、大学生時代に文芸評論家の小林秀雄氏の著作に導かれ、作家の火野葦平氏や吉田満氏らの作品を読んで、戦争のことを考へるやうになった。特に兵隊がどういふ生活を送り、どういふ思ひだったのか、自分は知りたかった」と言はれ、火野葦平氏の『麦と兵隊』には何の誇張もなくありのままの兵隊の姿が描写されてをり、その根底には兵士に対する作者の深い愛情があることを指摘された。なぜ言語に絶する苦しみに兵隊は耐へられるのか。先生は火野氏や吉田氏の文章を引用されながら、「それは祖国といふ思ひが兵士を支へてゐて、祖国のためには尊い命を犠牲にしても悔いないといふ精神が生きてゐた」と述べられ、そして戦後、祖国といふ言葉や精神が忘れられてゐることを指摘された。

次に支那事変に対する小林秀雄氏の見方や生き方について触れられ、未曾有の事変に対し、国民と一体となって考へ、戦

ひに勝つことを願った小林秀雄氏の真摯な姿を紹介された。戦後、過去の歴史に対する批判や清算が安易に行はれるなかで、「戦ひの日の自分は、今日の平和時の自分と同じ自分だ。二度と生きてみる事は、決して出来ぬ命の持続がある筈である」といふ小林秀雄氏の文章は心に深く残るものであった。

最後に先生は、吉田満氏の『戦艦大和ノ最期』を読まれ、大和の轟沈に至る乗組員らの壮烈無比な戦ひの様子を生き〳〵と語られていった。先生は、「戦争といふ悲劇的な運命に直面し、国民は一丸となって祖国防衛のために全力を尽して戦ったのである。私達は今までそのやうな死者の思ひを正面から受け止めたことがあっただらうか」と言はれ、物言はぬ死者の思ひを受け継いで日本人としての誇り、正義を取り戻さうと仰しゃられてご講義を終へられた。

## 全体研修

初日、二日目と検討してきた戦争の問題をテーマに、長谷川先生、東中野先生、国武先生に再度ご登壇頂き、参加者全員による「全体研修」の場が持たれた。まづ、各班の研修状況が司会者である運営委員長の山口秀範氏から報告され、「何故私たちが戦後を克服する必要があるのか」「大東亜戦争が自存自衛の戦争であったにせよ、やはり戦争は悪いものではないか」「どうすれば戦時の日本人の思ひに迫れるのか」といった問題が提起された。これに対し、講師の方々からコメントを頂き、また、年輩の会員から戦争当時の青年の思ひなどが披露された。この中で長谷川先生は、「先人の思ひに迫るためには、今の自分を〝マイナス〟の状態と見うるやうな想像力——精神の冒険が求められる。『麦と兵隊』のやうな上質の文学もその手助けとならう。先人との共感の中から何を克服すべきかが見えてくるのではないか」とコメントされるなど各講師間の意見交流も行はれた。

## 体験発表

初めに、麻生飯塚病院医長の**長澤一成氏**（写真下右・九州大学医学部・昭58卒）が登壇され、ドイツへ医師留学した折の体験の中から、ドイツでは経済が振るはない現状にあっても、科学の基礎実験を重視して長期的な国家展望を持ってゐること、またドイツ人は家庭で作る料理を母の味として大事にしてゐること、さらにウィーンの新年音楽祭ではオーストリアの第二の国歌として「美しき青きドナウ」が必ず演奏され、国家に対する絆が人々の胸中に脈々と息づいてゐることを話され、我々も自国の文化や歴史の独自性に着目すべきである、と語られた。

次いで、金沢市で㈱ＢＢＳ金明といふ機械製造業の会社を経営する**中田一義氏**（写真下中・富山大学工学部・昭43卒）が登壇され、家業を継いで今日に至った苦労と喜びを語られた。「私が会社倒産の危機を乗り越えることができたのは、父が長年にわたって築いてゐた信用のおかげでした。会社が大きく再建できたのも社員が相互に信頼し合へたからでした。母や妻がいつも私を深く気遣ってくれることも有難いことです。人に迷惑をかけないこと、人と信頼し合ふことは人生でとても大切なことです」と語られた。

最後に船橋市立法典東小学校教諭・**竹内孝彦氏**（写真下左・千葉大学教育部・昭61卒）が登壇され、学生の時に合宿教室で短歌に出会って以来、歌会を通じて定期的に短歌を作り続け「自分の心の中の動き、うづき、叫びが一首の調べに整っていく楽しさを感じ始めてゐる」と話され、通知表作成や運動会、卒業式等折々の生徒への思ひや、片想ひ、今上陛下御即位の大典のこと等、小学校教師となり十年の歳月の間に詠まれた歌を発表され「恥づかしさと共に懐かしさを感じる。皆さんも心の動きを形に留めてみてはどうですか」と語られた。

第三日

（八月六日・日曜日）

講話

# 「木のいのち木のこころ――西岡常一棟梁と私――」

宮大工・鵤工舎舎主　小川三夫先生

先生は先づ西岡常一棟梁への弟子入りが叶ふまでの経緯に触れられ、何故法隆寺宮大工の道を選ばれたのか、また宮殿師の元での住み込み修業時代のことや、お一人で日ノ御碕神社復元図に取り組まれた時代のことをお話しになり、次第に精神が鍛へられて行った様子を語られた。そして棟梁の下で始まった緊張した修業の日々を振り返られ、「自分の時間が全く無い、厳しい徒弟修業の中で自分の個性が明らかになる」と語られた。次に「木の話」として、木は育った環境の違ひにより用材として使ひ分けられるべきこと、様々な木が混在する林の大切さ、木の寿命等について語られた。また「技術の話」として、古代の建物が何故千年以上も持ってゐるか、その理由を教へて下さった。さらに「弟子の話」として鵤（いかるが）工舎の若い方々の話を紹介され、「知識が邪魔をする」「刃物研ぎによって、工人としての精神が養はれる」等と語られ、弟子の方々が共同生活の中で「素直な心」と「本当のやさしさ」を身につけられ、古代建築の技を体で覚えて行かれる様を話された。最後に、西岡棟梁から学ばれた口伝を紹介され、「これからは、時間を超えた、安心感のある建物づくりを目指す」と述べられ御講話を終へられた。終了後、〝ヤリガンナ〟（注・台木がなく、身〈刃物〉が槍の穂先のやうなもの。柄を両手で持って用ひる）の実演を交へ、学生からの質問にも答へて下さった。

## 短歌創作導入講義

戸田建設㈱開発計画部主任　青山直幸先生

青山先生は、この合宿教室では、なぜ短歌創作・短歌相互批評に取り組むのか、といふことから話に入られた。「はじめて短歌を創られる方は、不安感をもってをられることと思ひますが、必ず短歌はできます」「現代の学校では、知識教育が優先し心を鍛へる教育ができてゐない、現代は情意を否定するといふ誤まった考へ方がある」「短歌は、五七五七七の定型詩であり、三十一文字の中に自分の思ひを込めることが大切である」「短歌創作の心構へとしては、体験に根差した切実の感動を素直にありのままに詠むこと、理屈や観念を詠むことは避ける、詠まうとする対象に心を集中すること、自分の感動を正確に表現することが大切です」と短歌創作の要点について話された。明治天皇御製、昭和天皇御製、良寛、正岡子規、若山牧水、阪神大震災被災者等の短歌を例に取り上げて御講義をしめくくられた。

## レクリエーション

講義終了後、直ちに班ごとに順礼峠へのハイキングに出発した。途中でおにぎり弁当とお茶とジュースを受け取り、汗をふきふき山道を登って、眼下に厚木の町が一望できる「ながめの丘」で昼食をとる。友との語らひがはずむ。尾根をしばらくゆくと「おほやま広場」に出るが、まだまだ日は高い。芝生では自然教室の職員の方々によるアコーディオン伴奏入りのジャンケンゲームが始まる。ゲームのあとはダンス。そして帰路は山陰だが、又登り下りを辿る。汗がふき出す。汗まみれの体で宿に帰り、湯船につかって疲れをいやしつつ短歌をつくる。

講話

# 「若き友らへ語りかける言葉――観察の目より語りあふ仲へ」

㈳国民文化研究会常務理事兼事務局長　長内俊平先生

先生は、故郷青森での百姓仕事の体験から、「田を深く耕す（田返す）」ことによって稲に土の命が充分に行き渡り、稲の根が広く深く張る事実を指摘され、「今の学生の知識は土地の表面をかき回してゐるだけぢゃないか」と訴へられ、ついで「有機肥料を多くやると、ふくよかな稲が育つ」と語られ、日頃忘れがちな、かけがへのない〝おふくろの味〟の中にこそ「知識を生み出す知慧が育つ」と説かれた。

そして、学生時代、海に溺れてゐる人を自分の褌を外して助けた体験と、二、三年前に深夜、酒に酔って駅の階段で寝てゐた若者を起したところ撲られるといふ失敗談を披露された先生のお姿に悲喜交々の人生が彷彿とするを覚えた。

その後、昭和天皇御製「嵐ふきてみのらぬ稲穂あはれにて秋の田見ればうれひ深しも」、明治天皇御製「かれ〴〵になりぬる夜の虫のねはなかぬ夜よりもさびしかりけり」を拝誦され、「心豊かな国になるには、一人一人が〝観察の目〟でなく、〝心を働かせる努力〟をすることです」と語られた。

## 慰霊祭

北村公一氏（神戸製鋼所勤務・29歳）は阪神大震災の体験を語ってから慰霊祭の意義についてのお話と祭式の説明をした。その後、参加者は屋外に設けられた祭場に整列し、厳粛なる慰霊祭が執り行はれた。歌人・三井甲之先生の和歌「ますらをのかなしきいのちつみかさねつみかさねまもるやまとしまねを」が朗詠された後お祓ひがなされ、警蹕（けいひつ）と共に一同最敬礼を以て御霊をお迎へした。献饌（けんせん）

の後、古川修氏（国民文化研究会理事）が祭文を奏上、小田村四郎先生（拓殖大学総長）が御製を拝誦された。そして「小田村寅二郎先生（国民文化研究会理事長）の玉串奉奠と共に一同御霊に対して拝礼し、「海ゆかば」を斉唱した。撤饌の後、再び警蹕と共に最敬礼を以て御霊をお送りし、慰霊祭を終へた。以下に、そのとき奏上された「祭文」と拝誦された「御製」を掲げる。

祭　文

さねさし相模の国　丹沢の山なみにつらなる大山をはろかに仰ぐ　ここ厚木七沢自然教室に集ひし　われら第四十回全国学生青年合宿教室参加者一同　今宵平成七年八月六日　朝・夕に学びこし合宿教室の中日の夜を迎へぬ

今し天つ日は沈みて夕風そよぐさやけき草原を斎庭と定めきよめまつりて　とこしへにみ国守ります　み祖のみたまみ国のために尊き命を捧げまししはらから達のみたまのみまへに　海の幸山の幸をそなへまつりみたまなごめのみ祭りを仕へまつらんとす

顧れば過ぎし大御軍の終りし時より五十年の歳月が流れ　政界・経済界・教育界　更にマスコミ界は混迷の一途を辿り　あまつさへことし一月の阪神大震災・三月の地下鉄サリン事件と未曽有のまがごとの次々とおこり国民の憂ひいよいよ高まりぬ

ここに謹みて告げまつらくは　この美はしきやまとしまねの内・外にみてるまがごとのことごとを力の限り打ちはらはむと祈るわれらはたまきはるいのちをこめて　汝みことたちのみ心を偲び　汝みことたちの遺したまひしみいのちのこもれる数々のみ言葉を学び　われらが祖国日本をとことはに栄えゆかしめむともろともに力合はせ萬世かけて世のまさみちをきりひらかむと誓ひまつらむ

天がけるみ祖のみたまよ願はくは　われらのゆくてをまもらせ給へと第四十回合宿教室参加者一同に代り　古川　修

謹み敬ひ畏み畏みも白す

明治天皇御製

招魂社にまうでて

わが國の爲をつくせるひとびとの名も武藏野にとむる玉垣

夏　草

事しげき世にも似たるか夏草の払ふあとよりおひ茂りつつ

をりにふれたる

かぎりなき世にのこさむと國のためたふれし人の名をぞとどむる

述　懷

ゆくすゑはいかになるかと曉のねざめねざめに世をおもふかな

秋　夕

國のためうせにし人を思ふかなくれゆく秋の空をながめて

をりにふれて

ひとむらと思ひし雲のいつのまにあまつみそらをおほひはてけむ

昭和天皇御製

松上雪

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ松ぞををしき人もかくあれ

平和条約発効の日を迎へて

風さゆるみ冬は過ぎてまちにまちし八重櫻咲く春となりけり

國の春と今こそはなれ霜こほる冬にたへこし民のちからに

（昭和六十一年八月十五日の御製）

この年のこの日にもまた靖國のみやしろのことにうれひはふかし

全國戦没者追悼式

やすらけき世を祈りしもいまだならずくやしくもあるかきざしみゆれど

今上天皇御製

硫黄島

精魂を込め戦ひし人未だ地下に眠りて島はかなしき

戦火に焼かれし島に五十年も主なき蓖麻は生ひ茂りゐぬ

第四日

（八月七日・月曜日）

講義　「天皇と国民――かへりこぬ人をおもひてうれひはふかし――」

九州造形大学講師　小柳陽太郎　先生

先生は先づ広島の原爆記念碑の言葉を例にとりながら、「今の日本は、日本の悪いことだけは目につくけれども、先人が残してくれた美しいことは全く目に入らない世の中になってゐる。これでは歴史の見やうがないではないか」「先人が残した一つ一つの業績を丹念に調べ上げながら、事実を事実として大切にしていくことをやって貰ひたい」と訴へられた。

次に天皇の問題について、「江戸時代でも人々は雛祭をし、王朝風に憧れた。幕府も天皇を軽蔑することは全くなかった。明治に入っても板垣退助が〝世に尊皇家多しと雖も我が自由党の如き尊皇家はあらざるべし〟と書いてゐるように、日本では君民一致を長い間続けて来た。天皇のために死ぬといふことは、親のため、郷土のため、美しい日本の山河のために生命を捨てるといふことと全く一緒であった。大伴家持が大君の辺にこそ死なめと歌ったのはかういふ気持だった」と述べられた。

さらに天皇と国民の間の心の通ひ合ひを御製、実話をもとに紹介してゆかれた。「今上天皇の琉歌『魂魄之塔』では、陛下は沖縄に行かれれば沖縄の言葉で沖縄の人々をお偲びになってをられる。世界に帝王多しと雖もこれ程思ひのこもった国民に対する接し方をされる方は他に絶対いらっしゃらない」と述べられた。又、昭和天皇の御製「未帰還者をおもふ『国民（くにたみ）とともに心をいたみつつ帰りこぬ人をただ待ちに待つ』」について触れられ、「戦後四年経ってもまだ帰国してゐないシベリア抑留将兵の身を思ふ肉親の情を偲び歌ひ上げてをられる」と語られた。さらに、木下道雄元侍従次長の『宮中見聞録』から、鹿児島湾を南下中、提灯を点してお見送りしてゐる薩摩半島の人々に対し闇の中を只一人艦上から挙手の礼でこれにお

応へになってをられた昭和天皇のお姿を紹介され、「ここに天皇と国民の美しい心のふれ合ひの姿があり、これが日本の国柄である」と述べられ、「一つ一つの日本の言葉を大切にし、美しいものに本当に反応する心を持って頂きたい」と結ばれて、御講義を終へられた。

## 創作短歌全体批評

福岡県立春日高校教諭　與島誠央先生

先生はまづ、国文研叢書の『短歌のすすめ』の中から中学生の短歌とそれを指導された北島照明先生の文章を引用され、「ことばはたどたどしく短歌形式も生かされてないが、真実の思ひをことばにすることが、短歌の本当の良さだと思ふ。それを理解してほしい」と、真剣に素直に詠むことの大切さを語られた。続いて、参加者の歌を取り上げられ、作者の気持ちを推し量りながら情景を再現し、丁寧に添削して行かれた。合宿中の苦しい心情の吐露や正確な言葉にできぬもどかしさを詠んだ歌をユーモアを交へて解説されると、参加者の心も解きほぐされて和やかな一時となった。また、正確に表現されてゐる短歌を紹介されると、その見事さに皆で聴き入り、その情景を味はった。最後に、「班別短歌相互批評の時間がやってくると班が親密になります。心を込めてがんばって下さい」と締めくくられた。

## 夜の集ひ

合宿教室は早くも最後の夜を迎へ、夜の集ひとなった。最初に小田村寅二郎先生の音頭により坂東一男先輩（㈱アサヒビール飲料常務取締役・近畿圏支社長）から今年も届けられたビールで乾杯し、班別・大学別に楽しい出し物が続いた。特に村山寿彦氏のハモニカ

独奏、大妻嵐山高校三年の小林祐子さんのピアノ伴奏は講義と討論に集中した日々を送ってきた参加者の心に残った。

## 第五日

（八月八日・火曜日）

### 合宿を顧みて

合宿委員長・大成建設㈱勤務　山口秀範氏

氏は「戦争のことは合宿で差し上げた資料をじっくりと読み、自分の心で折にふれて考へてみてほしい。小川三夫先生の仰った『知識が邪魔をして大学卒の弟子は刃物研ぎができない。知識をゼロに戻すことから始める』との御言葉に心打たれました。知識が邪魔をして大切なことが見えなくなってゐる。天皇についても御製を味はふことを抜きにして語ってはならないと思ひます」と合宿を振り返られた。合宿期間中、管理棟正面に掲げられた明治天皇御製「もろともに助けかはしてむつびあふ友ぞ世に立つ力なりけり」を紹介され、今後の班員同士の友情を祈念された。

### 参加者感想自由発表

最終日、参加者が自由に所感を述べる時間が設けられた。「心から真剣に話せる友達を得たことが最もうれしかった。これからも交流を深めていきたい」「外国の留学生は皆愛国心が強いが、私には誇りに思へるものがない。しかし先生、友達の言葉に素直に反応できた事は大きな自信になった」といふ喜びの声や、また「竹内さんの歌には、アルバムを開くやうに心が和んだ。私も歌の勉強を続け、私のアルバムを作りたい」「長谷川先生が紹介された写真を見てこみ上げるものがあった。今の時代の問題を自分の問題として引き受けたい」「御製や鹿児島湾での昭和天皇と国民とのふれ合ひの話を聞き、天皇と

いふものは日本の精神文化の象徴であると感じた」と講義に対する深い感動が語られた。最後に登壇され「十年前に亡くなった弟が打ち込んでゐたこの合宿で自分も勉強したいと思って参加した」と涙ながらに話された故島崎祐二氏のお兄さんの言葉には強く胸を打たれた。

## 閉会式

国歌斉唱の後、参加者を代表して東京大学文学部三年の山口花子さんが「二回目の参加で自分の思ひ上りを思ひ知らされましたが、班友の素直な心にふれて、また来年も参加する意欲が湧いてきました」と語った。続いて主催者を代表して国民文化研究会副理事長の上村和男先生は、昭和天皇の御製「広き野を流れゆけども最上川海に入るまでにごらざりけり」を紹介され「今のままでは日本はにごってしまふ。清らかな日本を取り戻す為、祖国再建の為に、皆で手を携へ、助け合っていきませう」と挨拶された。

次に、京都大学総合人間学部三年の庭本秀一郎君が「閉会宣言」を行ひ、合宿教室は無事全日程を終了した。

## 助言者の紹介

市ケ谷漢方クリニック　院長　桑木　崇秀
㈱中央塩ビ製作所　代表取締役会長　岡村　義一
㈱宝辺商店　取締役会長　星野　貢
舞岡八幡宮　宮司　宝辺　正久
尚絅学園　監事　関　正臣
拓殖大学　総長　徳永　正巳
高千穂商科大学　講師　小田村四郎
(元)サンデン交通㈱取締役　名越二荒之助
浄土真宗本願寺派　沼田組光隆寺　僧侶　加藤　善之
不動産鑑定士　岡棟　猛
二十一世紀教育開発研究所　所長　松吉　基順
航空自衛隊　航空教育隊　生徒隊　秋元　正明
神奈川県立厚木南高等学校　教頭　関口　靖枝
キューピー㈱　管理本部　部長　村山　寿彦
宗教法人　乃木神社　祢宜　福田　忠之
公務員　山本　茂夫
インフリッジ工業㈱　代表取締役　松吉　宣和
橋本フォーミング工業㈱　用品販売部長　亀井　孝之
新日本製鉄㈱　機械プラント事業部　素形材部次長　今村　宏明
㈱講談社　宣伝局次長兼宣伝企画部長　古川　修
神奈川県立厚木南高等学校　教諭　今林　賢郁
磯貝　保博
山内　健生
小田原市立富永小学校　教諭　岩越　豊雄
㈱竹中工務店　国際事業本部　企画担当部長　稲津利比古
デリカショップ谷原屋　島崎　忠
三菱重工業㈱　監査役室　主査　島津　正数
東急建設㈱　東京支店　工務部次長　奥冨　修一
建設省　建設研究所　室長　大岡　弘
神奈川県立秦野曾屋高等学校　教諭　原川　猛雄
鹿児島県くまげ農協　参事　定栄　安治
中島法律事務所　弁護士　中島　繁樹
亜細亜大学　学生課　山田　健一
熊本市役所　生活環境部事業管理課　課長補佐　折田　豊生
㈱講談社　校閲局校閲第三部　次長　藤井　貢
こんや別館　代表取締役　青砥　誠一
伊佐ホームズ　代表取締役　伊佐　裕
熊本県立第二高等学校　教諭　白濱　裕
大成建設㈱　東京支店　川井　泰彦
山口県立下松高等学校　教諭　宝辺矢太郎
武州商事㈱　企画管理部　副部長　飯島　隆史
㈱ＪＴＢトラベランド　旅館ホテル商事部　課長　松藤　力
久留米大学附設高等学校　教諭　名和　長泰
防衛庁　海上幕僚監部技術部技術第一課船舶技術班　鎹　信張
㈱増田分析センター　営業部　次長　徳富　太郎
日産自動車㈱　宇宙航空事業部営業部　内海　勝彦
㈱日本興業銀行　証券部調査係　小柳志乃夫

防衛施設庁　施設部施設対策第一課　山根　清
大阪府立交野高等学校　教諭　絹田　洋一
出光興産㈱　店主室　広島　秀明
㈱日立製作所　日立研究エネルギー1部　松井　哲也
防衛庁　航空幕僚部防衛部　通信電子課　神谷　正一
日章工業㈱　専務取締役　藤新　成信
安信住宅販売㈱　新宿センター　工藤千代子
タマポリ㈱　ラミネート営業部　松吉　基光
熊本製粉㈱　不動産部　吉川　理夫
日本青年協議会　学生局局長　吉村　浩之
熊本県立天草高等学校　教諭　星　修一
神奈川県立津久井高等学校　教諭　今村　武人
アダマンド工業㈱　海外事業部　大日方　学
千葉県庁　総務部総務課給付係　眞田　博之
小諸市教育委員会　社会教育課主事　秋山　信之
熊本県立天草高等学校　教諭　中澤　榮二
八代郡泉村立泉中学校　教諭　久保田　真
公務員　坂本　太郎
㈲岡山商事　橋本　明英
アブライド・マテリアルズ・ジャパン㈱　経理部製品事業部経理　岡山　英一
㈱太陽通商　川越工場　草野　直樹
亜細亜大学大学院　法学研究科憲法専攻　修士課程　濱田　雄一
松田　裕幸

**合宿運営委員**　山口　秀範・小柳志乃夫

**指揮班**　吉村　浩之・坂本　太郎
内海　勝彦・吉川　理夫・大日方　学
今村　武人・中澤　榮二・岡山　英一
松田　裕幸・眞田　博之・竹内　孝彦
草野　直樹・濱田　雄一

**事務局**　磯貝　保博・奥冨　修一・大岡　弘
飯島　隆史・山根　清
蘇原　幸枝・大島　啓子（本会職員）
大妻女子大学嵐山女子高等学校三年　小林　祐子・
日本女子大学附属高等学校三年　青山　詩野・金刺
博美・東京大学附属高等学校二年　伊藤千代子・川
島町立西中学校三年　小林　紘子・慶応義塾湘南藤
沢中等部三年　山口　蝶子

**放送・記録班**　松吉　基光

**写真班**　松本　篤士

# 走り書きの〝感想文集〟（各班別に収録）

これは閉会間ぎはの一時間余で参加者全員に、四泊五日間の感想を走り書きで書いてもらったものです。「仮名遣ひ」は原文のままで掲載してあります。

なほ、各人の感想文の末尾に小さい活字で載せられてゐる和歌は、この感想文とともに提出された第二回目のものです。

## 第一班―男子学生―

### 〝敗戦の克服〟は貴重な収穫

（大阪外国語大学　外国語　卒業　福田　仁）

〝敗戦の克服〟は、以前から私にとって最大の課題の一つだった。長谷川先生がご講義のあと班を訪ねて下さった際、「敗戦の克服は時間の問題ですか」と質問したところ、「黙ってゐても〝冤罪〟は晴れない。歴史の検証といふ作業が必要です。ただし時間はかかるでせう」と答へられた。このことが合宿での一番貴重な収穫だった。

「戦争と文学」は、配付された資料は別として、内容的にいささか個人的な感傷に走りすぎて残念だった。絹田先生、あるいは山内先生などに、例へば「東京裁判」などについて講義していただければ、合宿全体の流れとしても東中野・長谷川両先生のご講義とも関連して最高だったと思ふ。

国がらを守りゆかむとみ友らと夜を徹して議論するなり
敗れたりとはいへどもなほ自らの戦ひの意義を問ひ続けるべし

### 大変な収穫を得た

（青山学院大学　経営　一年　河野敬之）

恩師白濱先生に誘われ参加いたしましたが、思いのほか多くのことを学ぶことができ、また多くの友人も全国にできて、大変な収穫を得ることができました。

特に、講義のあとの班別研修では、班友の多様な考え方を知り、また自分の無知を痛感させられ、向学心に目覚めるのを感じました。他にも慰霊祭の厳粛な雰囲気、短歌創作など、この合宿で体験した一つ一つが貴重な経験となり、今後の生活の中で、見識を広める上でこの上ないものとなりました。

今後もこのような合宿には積極的に参加し、知識を深め、深く語り合える友人を増やしていきたいと思います。

仲間との永き別れを惜しみつつまた逢ふ時を楽しみに発つ

### 多くの人の話を聞けた

（拓殖大学　外国語　三年　小笠原敏昭）

開会式のとき、周りに君が代を熱唱する人たちがいて、「ヤバイ所に来てしまった」と思った。

その日の夜の導入講義は、大東亜戦争における日本の正義について語られ、「いきなりスゴイのを聞かされたなあ」と感じた。

しかし、すべての講義がそのような内容だったのではなく、会社社長の中田さんの体験談や宮大工小川さんのお話などのように、聞いていてもおもしろいものがあったのも事実である。

この合宿で得たものは何かというと、多くの人の話を聞くことが出来たのが、一番だったと思う。

六時半起床の音楽どこからと流れてくるをうらめしく思ふ

## 今回は面白くてたまらなかった

（亜細亜大学　法　二年　黒須武士）

前回の阿蘇に続き二度目の参加。前回は「つらかった」という思いがしましたが、今回は面白くて面白くてたまらなく、あっという間に終了した。

こんなに面白くさせてくれたのは友です。自分の班員だけではなく、その他多くの友と交流を持つことができからだと思います。手紙の交換などして、この築き得た友との関係を、より深く、より確たるものにしていきたいと思います。次回の合宿での友との再会を楽しみしています。

余興の祈りに

緊張で足の震へる吾がために友ら集ひて我を励ます

## 稚拙な意見でも熱心に議論

（中央大学　法　一年　橋口英明）

私は口下手なので、はじめは自分の意見も上手に言えず、沈黙が長くて気が重いものでした。しかし、次第にうちとけてきて、私の稚拙な意見でも皆熱心に議論をしてくれるようになり、御講義も私が今まで持っていた戦争観、天皇観について大きな疑問を与えてくれました。既成の考え方に疑問を抱くことは、人間を大きく成長させると言いますが、自分の心のキャパシティが少し広がった様に思います。

短歌もはじめて作り、批評し合って、短歌と言うのはとて

カメラ・レポート1

全国各地より続々と参加者が合宿所に到着する。受付で名札と資料袋を受取ってから、各自の班室へと向かふ。

も素直なものだと感じました。私は時々詩を作っていましたが、技巧に力を入れていたのでよい経験になりました。本当に感謝しております。

合宿の終はりに臨みて思ひ出す我が意見の拙なかりしことを

## 心と心をぶつけ合った

（東京工科大学　工　二年　石澤　寛）

東中野先生の御講義では、今日の「東京裁判史観」による自虐的態度の不必要を、今まで隠されていた資料を基に歴史的に徹底検証されました。先生のお言葉で、〝人間は心の中に大切なものを見失ったとき誤ちを犯す〟というのが印象に残りました。長谷川先生の御講義では、戦争の定義づけ、さらに国民は正義のために戦ったが、この正義について考えることの大事さを指摘された。この二つの講義を聞き、僕は新たに日本人としての意識が高まったような気がします。この意識の変化は、講義でなく、班別研修で班の仲間と腹の底から自分の思っていることを語り合い、心と心をぶつけ合ったからだと思います。このように語り合うことの嬉しさ、お互いに向上していくことの楽しさをこのように感じたことはありませんでした。

一生の友どちなのだと感じてもしばしの別れに心はさみし

## 無知を痛感

（福井工業大学　工　一年　高橋豊和）

初めはどう話し合えばよいか分らず、また自分の人見知りをする性格を嘆きました。それでも少しずつ話し合えるようになってきました。

今まで知らなかったことが多く、また誤解していたことも知り、自から無知を痛感すると共にいくつかの驚きがありました。そして先生方の御講義・御講話には考えさせられることが多くありました。

とにかく合宿に参加して、新しい自分を発見することが出来たことは大きな収穫だったと思います。

とまどひてひとときすごし語らふに人を知りえて自からを知る

# 第二班―男子学生―

## 新鮮な気持ちで議論できた

（防衛大学校　理工　二年　前田哲矢）

初めの二日間は戦争に関する講義が続いたが、大変に興味深かった。自分自身及び学校での授業で、多くの内容は知ってはいたが、各人によりその捉え方や解釈が異なることを目の当りにして、とても新鮮な気持ちで議論することが出来てすばらしかった。

短歌作りはどうもよくわからなかった。班付の先生は何か短歌にこだわりがあるらしく、私の歌が気に入らなかったようだった。

頭をやわらかくして、我を張らずに参加したつもりだが、頭のかたい人も多いことに気づいたし、議論だけでは現況は変わらないとも思った。しかし、大いに議論をし、よき友をつくることもまた、とても大切であることも思い知らされました。

林間に集ひし友らと語り来し五日間こそ我が糧とせん

## 班長ができるようになりたい

（日本大学　文理　三年　石井信博）

初めての参加でしたが、感動と驚きがありました。あらためて君が代や日の丸の大切さを感じました。最も気懸りで苦痛だったのは短歌の創作でした。高校時代から古典の学習に興味を持つことができず、そのために文語表現で短歌を詠めないからでした。けれども、今回はリラックスして短歌を作ることができました。今後はもっと語彙を増やして、また文法をきちんと学んで、さらに多くの作品に触れていきたいと思います。

来年もぜひ参加したいと思います。そのためにもっと多くの事について学び、それを深めて行きたいと考えてます。そして班長ができるぐらいになりたいと思います。

み友らと真面目に話せる雰囲気を作りゆくことは大事なことなり

カメラ・レポート2

開会式。主催者を代表して、㈳国民文化研究会理事長・小田村寅二郎先生が「この合宿教室では大学・学年・年齢等の枠を取り払ひ、心を働かせて学んでいただきたい」と挨拶された。

## 有意義であった

（中央大学　法　一年　草地良宣）

私は、全般的に有意義であったと感じております。講義に対しては反発を感じることもありましたが、反面教師という言葉もありますし、共感を覚える先生も少なくありませんでした。私のそれまでの学習があさはかであったという反省もありますので、やはり有意義であったことには疑いの余地はありません。また短歌の相互批評では班付の山内先生の御指導のもとで討論も行われ、この上もない充実感を感じております。

七沢は吾に知恵を与へしか吾が人生の手応へを覚ゆ

## こんなに勉強する気にさせる場は他にはない

（拓殖大学　外国語　一年　立久井謙治）

私は班員の勉強熱心に、初め驚かされました。言いたいことを適切に表現し、時には歴史上の事件を例に出すなど、僕には絶対できないと思った。だからそれを補うには、ひたすら先生方の御講義を聞くしかないと思って、睡い目をこすりながら聞きました。すると、ほとんど興味のなかった戦争の話が少し分かるようになり、それを契機にさらに聞こうとする意欲が湧いてきました。その後の班別研修で、その講義についての疑問を、どんなに些細なことであっても質問してみると、他の班員は僕が理解できるまで説明してくれるのでした。僕は、こんなに勉強する気にさせる合宿は他にはないと実感しました。

班友と自然の中で学び合ひ終はりてみれば親友となりけり

## 得るものはたくさんあった

（富山大学　工　三年　新保良成）

二回目の参加ですが、やはり他大学の人達と話し合うことが一番勉強になりました。私はもっぱら聞く方にまわってしまいましたが、得るものはたくさんありました。御講義では、小川三夫先生のお話が印象に残りました。班の仲間も皆よいキャラクターでとても楽しく過ごせました。レクリエーションも楽しかったし、夜の集いも時間が延長され良かったと思います。

たしかに勉強するための合宿ですが、もっと楽しめる時間があっても良いのではと思います。厚木なら立派な体育館もあるはずですし、班対抗のトーナメントの球技大会を組込んだら良いと思いました。

五日間友らと語りて気も晴れし気分は爽快七沢を去る

## 自分自身の人柄を磨くことが大事

（日本大学　法　四年　澤部和道）

出会った班員に自分を素直にぶつけることで、自分自身を見つめ直したいと思って参加しました。班の仲間は、それぞれに思ふところを語ってくれたのでとても楽しかった。短歌

の相互批評では、各々が自分の歌にこだはりを持ち、その妥協しない姿勢に各人の性格が出てゐておもしろかった。

戦争について事実を正しく把み、日本人として問題意識をもつことも大切だが、同時に大事なことはふだんの生活の中で自分の人柄を磨いていくことだと思ふ。全体感想自由発表の際に、女子学生が「祖父に参加を強くすすめられ、あきらめて来たけれども、その中から何かが得られたらと思ひました」と言ってゐたのを聞いて、かういふ前向きの考へ方はとても良いなあと感じました。ふだんの生活の中で前向きな考へを持ち続けることで自分自身を磨いていきたいと思ひました。

豊かなる個性をたたへし班友の君が気持ちの伝はりて来る
声援に「おう」と答へて壇上で合気道のわざを君は披露す

## 第三班―男子学生―

### 「打てば響く」合宿だった

（西南学院大学　経　二年　小島尚貴）

今年は、日本人としての「何か」をつかむ、というテーマを持ってやってきた。二度目の参加だが、今年も「打てば響く」合宿だった。どんな動機であれ、この合宿は必ず応えてくれる。僕は自分の言葉をみんなに「輸出」した。みんなは僕の言葉を心という「工場」で「加工」し、自分の言葉とい

カメラ・レポート3

来賓を代表して厚木市教育委員会・教育長中島久雄様からは「人と人との語り合ひを重視して設計したこの七沢自然教室で、人との出会ひを大切にして研修を行って下さい」とのご挨拶をいただいた。

う「付加価値」をつけ、また「輸出」してくれた。その友の言葉こそ「利潤」である。その「利潤」を生かすも無にするも、自分自身にかかっている。素晴しい友にめぐり会えたことで、また自分の存在価値が高まった気がする。来年の阿蘇合宿に来る時は、自分に対してさらに高い課題を課することができるよう、自分を磨いていきたい。

いたらざる我にはあれどあまたなる友に恵まれて喜びに満つ

## きつかった、しかし得たものは大きい

（拓殖大学　外国語　三年　小林広幸）

はっきり言って、合宿はとてもきつかったです。しかし、この合宿で自分が得たものはとても大きく、合宿の開会式で聞いた「心を働かせる」ということが、どういう意味であったのかわかったような気がします。

そして、夏休みが終って、もしくは大学を卒業した後、私の思い出の中には、間違いなく今回の合宿が残っていると思います。

真心に触れて心は広けゆき視野一変すとの感じもちたり

## 悔いが残る四泊五日だった

（熊本学園大学　商　四年　喜多村　純）

夏合宿に参加するのは今回で四度目である。去年に引き続き班長をまかされたが、自信喪失が甚しい。班長次第で班はいくらでも変わる。班員がしっかりしていてくれたので、なんとか最後はまとまったが、悔いが残る四泊五日だった。

班員が打ち解けてきたのは四日目ぐらいだった。やっと話せる様になったのに、また皆が散らばっていくのが残念だ。非常になごり惜しい。

やうやくに仲良くなれし友達とまた別れゆくは悲しかりけり

## いろいろな人に出会えてよかった

（金沢工業大学　工　一年　小林一成）

全国学生青年合宿教室にはじめて参加した。講義の内容は少しむずかしくてわからなかったが、いろいろな人に出会えてよかったと思う。

合宿も終りて別れとなりたるがまたいつの日か会はむとぞ思ふ

## 否定的になっていた期間がもったいなかった

（関西大学　商　二年　酒井拓也）

合宿一日目の夜、私はここに来たことを後悔していた。まだなじめない班員たち、理解できない講義、ついていけそうもない班別研修など、この世界が自分にとってひどく場ちがいに思えたからだ。だから目につくもの、耳にするものすべてに否定的になってしまっていた。今から思うと、その否定的になっていた期間がもったいなく感じる。もっと早くこの場に心を広げていたなら、もっと多くの人とも話ができただろうし、もっと多くのものを得ることができたであろう。今では、こういった意味で後悔している。次にこういった機会

があったら、時には最初の講義から心をフルに開いていきたいと思う。

最終日、友と語りたる折に
いまさらに心開きてみ友らと語りたしとしきりに思ひぬ

## 一番気付かされたことと感動したこと

（早稲田大学　法　一年　井上　護）

小川三夫先生の「木のいのち木のこころ」が、一番気付かされたことがあったように思います。純粋で無垢な心で、ゼロから始めないと一流にはなれない、というのが自分の心に残りました。

一番感動したのは長内俊平先生の人間性というか、人格のようなものでした。身の周りに起こることすべてが、自分の責任にあるという考えはすばらしいと思いました。長内先生は目的や理想がはっきりしているように思われました。私にも、その目的、理想がどのようなものであるか、少しは理解できますし、これからも精進していこうと思いました。

友どちと語り合ひたる五日間は長くもあれば短かしとも思ふ

## この合宿はいい勉強になった

（拓殖大学　外国語　一年　小泉直哉）

この合宿に来ている人は、まじめで、かたい人ばかりだと思い、私みたいな人間は相手にされないと思っていたけど、日がたつにつれて、いろいろな人と話をしていくうちに打ち

オリエンテーション。合宿運営委員長の㈱大成建設勤務・山口秀範氏が、四泊五日間の研修を過ごす上での心得を述べた。

とけて、最初に思っていた「早く帰りたい、つまらないだろう」などの気持が違ってきた。

合宿での講義は、戦争など普段から触れたことがないので、ほとんど理解できず、つらかった。しかし、いくつか聞いている内に、少しずつ興味がでてきて調べたくなるような話も出てきた。この合宿は、自分にとっていい勉強になったと思います。

山路を友と仲良く歩きつつ「しりとり」すれば暑さ忘るる

## 第四班—男子学生—

### 心に深く深くつながる付き合い

（熊本県立天草高等学校教諭　久保田　真　30歳）

最後の全体感想発表での庭本の話は信じられない様な気持ちで聞きました。庭本自身立派な男で自分自身全く自然体で付き合って来て、楽しく付き合ってきました。庭本が話をした一つ一つの場面もよく覚えています。庭本の話を聞きながら僕が本当に影響を受けた先輩のことを思い出してました。心に深く深くつながる付き合いは本当に得がたく有難いことだなと思いました。

合宿では久しぶりに班長をさせてもらい楽しい合宿を経験させてもらいました。班員にもめぐまれ、自然体ですごせたと思います。やはり合宿教室では、得がたい経験をさせていただけると思います。山口先輩はじめ運営にあたられた先輩方には大変お世話になりました。

壇上にのぼりゆきたるわが友の語りゆきたりわが名あげつつ

### 父祖先人の眞願を胸に新たに誓ふ

（早稲田大学　政経　四年　田中裕一）

今夏、戦後を克服すべく、マレーシアに赴かむとする私は、「慰霊・継承・創造」の三つのキーワードを心に秘めて合宿に参加しました。長内先生はじめ諸先生から「信の世界」の深さを思ひ知らされました。この合宿全ての内容は一貫してゐました。六萬のわが父祖が散華なされたインパール作戦で、兵士を支へたのはアジアとインドの獨立への願ひであると、桑木先生よりお聽きしました。また、改めて「戰艦大和ノ最期」を讀み、後世への願ひを持して征かれた大和乗組員のお姿も再拜致しました。「ますらをのかなしきいのちつみかさね〳〵守る大和島根を」このお歌の言はるるまま我が父祖先人の眞願の歴史を心で窮め、次なる五十年の国家構想を生み出さうと誓を新たにしました。どうも有難うございました。

久保田班長に捧ぐ

班友の一人〳〵にまごころをつくせるみ友の姿をろがむ

## 来年もまた参加したい

（拓殖大学　外国語　二年　大沢道雄）

合宿に参加して、最初誰もが思うように私はこの合宿にかなり強い違和感を感じていた。まず、太平洋戦争を大東亜戦争と呼んでいることにかなり抵抗があった。また、何かと日本や天皇のことを正当化しているように思えた。しかし、合宿日程が進むとともに、なぜ合宿教室でそう言われるのかだんだんと理解してきた。班別討論ではまわりの人たちは活発に論議していたのだが、私は自分の言葉が拙く、知識もないように思えてなかなかその話題の中についてこれなかった。しかし、創作短歌相互批評で班員どうしで歌をなおしてゆくとき本当に心が開かれました。今は無事この合宿を終わらせることができそうでうれしいです。勉強になりました。最後に言いたいことは来年もまた参加したいということです。

早朝のラジオ体操心地よく夕べの疲れ我は忘るる

## 勉強しようという意欲がもりもりと湧いてきた

（防衛大学校　理工　二年　末原都志実）

私は初めての参加で、最初は不安でした。合宿では前半のテーマは大東亜戦争についてでした。私は防衛大学校の学生であり、近代の戦史についても学びました。自分なりの歴史観は持っているつもりですが、戦争という問題の難しさを改めて感じました。

カメラ・レポート5

亜細亜大学教授・文学博士・東中野修道先生による「歴史の解釈」と題する「合宿導入講義」。先生は戦後を形づくってきた思想的な四つの枠組として「社会主義思想」「硬直した平和主義」「東京裁判史観」「戦後民主主義」を挙げられ、「かうした思想から脱却し、大東亜戦争を文献に即して再検討し解釈する必要がある」と訴へられた。

戦争とは神に対して最大の反抗であり最も恥ずべき行為と考えます。憲法第九条は立派な条項であると考えますが、それと国のために死ぬということは別問題と考えます。私は日本の文化について知らなさすぎると認識させられました。勉強しようという意欲がもりもりと湧いてきたのがとてもうれしく収穫でした。そしてまた多くの新しい友人と知りあえたのがとてもうれしかったです。

厚木にて出会ひし友と別れてもいつか訪ねん友の住む陸奥

## 心知る友との出会い

（鹿児島大学　法文　一年　西　真佐人）

僕がこの合宿に来てよかったと思うことは、似た考えの人が多くいたことです。なぜかというと、僕が大学で入っているサークルが左寄りのサークルで、友人は僕と違う考えの人が多いのです。中学・高校時代の仲のよい友人も、国歌「君が代」や「南京大虐殺」の考え方が僕と違うと感じていました。ですから自分の考えに近い人と知り合えたというのはとてもうれしかったのです。

講義では我々若者にとって厳しい要求がなされたように思います。僕はそのことや今後出合う新しい問題を自分自身の問題として考えていこうと思うようになりました。新しい友と出合い、さらにヤル気が湧いて、ためになった合宿でした。

五日間慣れぬことども多けれど心知る友得たるうれしさ

## 「二度と来るか」から「また来ていいかな」

（富山大学　理　一年　本守宏基）

僕は空手部にいるということでこの合宿に参加しました。最初僕はどんな思想を植えつけられるのか大変心配で警戒していました。講義を聞いていても「それは本当か？」などと感じ、抵抗や反発がありました。しかし、講義、班別研修、短歌創作と相互批評と日程が進んでいくうちに何か自分の気持がつながっていくように感じられました。合宿では「心を通わせ友をつくる」ということが強調されました。初めは無理矢理友だちを作らなければならないように感じましたが、合宿中ずっと同じ班で生活する中でお互いの心が通い合うことを実感できたように思います。あともう一つ、戦中の若者の生き方を僕らに味わわそうとしているのかなとも思いました。時代は違うが、自分の生き方を考えるきっかけになりました。

胸内には抵抗ありしを友と心通じて臨む閉会式に

## 予想以上に収穫のあった合宿

（慶応義塾大学　文　一年　松原　央）

四泊五日の短い合宿でしたが非常に得るものは大きかったです。東中野先生や長谷川先生の講義からは歴史を別の側面から見た見方を、小柳先生や長内先生の講義では日本人としての心の持ち方を学びました。そして何より素晴らしかった

のは、ここ厚木にて得がたき友を得たことです。班長の久保田さんとはいろいろなお話をすることができました。班員のみんなとは食事の時、風呂の時、そして講義の後の班別研修で時に談笑し、時に論をたたかわし、お互いを理解できました。合宿参加前は短歌創作に抵抗を感じ、当日も頭を悩ましましたが、出来上がった歌を班で披露し、互いに批評し合うという活動は想像以上に楽しく、また充実したものでした。またこういう機会があれば是非とも参加したいと思います。

厚木にてあまたの友と出逢ひ得て我の心は澄みわたりけり

## 第五班―男子学生―

### 克服すべき課題が明確になった

（明治大学　商　四年　澤部直彦）

父への義理を果たすため、今回初めて参加いたしました。

私は、祖父の影響で戦争に行かれた方々の命に対し、深い感謝を感じずにはいられませんでした。その気持は慰霊祭に参加した時に非常に高ぶり、亡き祖父や戦争で亡くなられた方、戦争を戦い抜いた方々に、今、私があるのは皆様のおかげであると感謝申し上げて、御冥福をお祈りいたしました。

当時の人々が今の日本を見たら、私は喜ぶと思います。それは、物にあふれ、貧しさを感じていないからです。そして我々はそれを先祖に感謝する『必要がある』と申しますか、

カメラ・レポート6

合宿の一日は、「朝のつどひ」で始まる。七沢のすがすがしい空気を一杯に吸ってのラジオ体操。

そう『感じずにはいられない』のです。

一つ私は疑問があることを確信し、これが大きな収穫でした。それは、私にとって天皇陛下（皇室）が何であるのかということです。短歌をよみ、短歌によってお心を偲ぶことが、私にとって天皇様のお心の全てであるということに対して、少々躊躇してしまうのです。その為、他の方々のように確信できないのです。いかにしてこれを克服するか、これが私の抱き続けていた課題であり、今回明確になった問題です。

ひと夏のうちとけ合ひしみ友らと荷物まとめる時ぞさびしき

## 友とのつきあいかたを直してゆきたい

（亜細亜大学　経営　一年　中台研悟）

私はこの合宿にいどむ前に、いくつかの約束をつくっていました。それは、「自分のやれることから進んで行う」「苦しき時こそ笑っていよう」「自ら話しかけ、堂々と発言しよう」「人の考えを聞いて、自分の考えを一八〇度変えてしまうことのないように」というものでしたが、逆にこれらのことが人間関係を築く上で妨げになっていたと思っている。行動にムリに制約をかけてしまったようで、少し皆に恐がられてしまったかのように思う。本当は皆にもっと質問してもらったり、話しかけてもらいたかった。ただ、自分にも問題はあり、反省し、自分の交友のヘタさをどうにか直してゆきたいと思う。もともとこの合宿を通して、自分を見つめ直すことを一番の目的としていたので、これを合宿の感想としたい。

布団からシーツはづせば思はるるなごり惜しかな合宿のみ友ら

## 自分の思っていることを言って気持ちよかった

（新潟大学　農　二年　片山吉人）

自分は中田先生に紹介されてこの合宿に参加しました。部活の主将づたいできたのですが、内容も知らないまま手を挙げました。後ほどパンフレットが配られ、それを見た所「やっぱりやめときゃよかった」という思いがだんだん強くなっていきました。でももう逃れられず、当日が来ました。開会式を終えて、友人と顔を見あわせて困った顔をしました。

しかし、その後の班別研修で「あっ、来てよかったかも」と思いが一転しました。班の人は皆自分の意見を持ち、人前で発表できる。自分もつられて自分の思っていることを言ってみました。なかなか気持ちよかったです。自分の中で考え方が少し変ってきたような気がしました。この合宿を新たな出発点としてこれからがんばっていきたいと思います。

東中野先生の御講義をお聴きして

心に棲む人の大事さ聞き知りて輝き増しぬ家族の笑顔

## 真剣に話ができる仲間を得た

（拓殖大学　外国語　一年　小磯好輝）

多くの人が思ったことだろうが、僕も開会式の時から、かなりの場違いな所に来てしまったな、と思った。東中野先生の講義を初日に聞き、その後の班別研修で自分だけ何も意見

が言えなかった。しかし、班員の仲間が自分のことを分かってくれてとけ込むうちに意見も言えるようになった。何より真剣に話ができる仲間を得たことが嬉しかった。また三日目のハイキングでの短歌づくりはいい経験になった。山道を歩き、びしょびしょに汗をかいて疲れたが、その後に仲間と一緒に風呂に入る。とても気持ちが良かった。最高だった。その気持ちを歌に詠んだ。その後、皆で批評し合い、お互いにいい歌をつくる努力をし合った。この頃になると最初とは違い意見もかなり言えるようになった。色々な経験がこの合宿でできた。来てよかったと思っている。

合宿のかくも厳しきスケジュールも終はりし今は気分爽快

## 自分自身の結論を出してみたい

（桜美林大学　経　四年　庄嶋　健）

初日は受付をし、期待と不安の気持ちが交錯していたことを思い出します。受け取った資料の中に「ここは人の話を聞く場です。自分の我を通したりアピールする場ではありません」という心得を見て、この合宿期間中これだけは守ろうと思っていました。しかし、講義を受ける度にそうじゃない、ああじゃないと思い、素直に受け入れられない自分に腹立つこともありました。班別研修でも、心の中でムキになっている自分と、少しでも相手の心を受け入れようとする自分が格闘していました。それが、小川先生の講義の後から、教えを受ける時は自らをゼロにして聞かなければならない事を知

二日目の午前、「敗戦の克服」と題する、評論家・埼玉大学教授・長谷川三千子先生による御講義がなされた。先生は大東亜戦争における日本の敗戦とは、連合国側の正義と意志を強要されたことであったと指摘された。そして「終戦の詔書」を紹介され、「独力で自国に自らの正義と誇りを取り戻すことが大切である」と語られた。

り、ああそうだなと気付き、素直になれたような気がします。それだけでも私が今回合宿に参加させて頂いた意義があったような気がします。

そして、戦争の問題ですが、私は、今後もう一度考えてみようと思います。今回お聴きした話をまるのみしては自分自身というものがなくなってしまう気がします。自分自身の結論を出してみたいと思います。

夏合宿にて

ふるさとの言葉が耳に入れども声かけられぬ我の弱さよ

## 敗戦の克服とは日本人の美しさを感ずること

（福岡教育大学　教　二年　宮原和久）

今回の合宿で一番楽しみにしていた研修は、長谷川先生の御講義であった。演題の「敗戦の克服」というものに妙に僕はひきつけられるものを感じた。

そして、御講義の中でアメリカの論理を歩んでいるということを自覚する機会をも得られたのだった。それはたった一枚の子供の写真によってであった。一見軍国主義によってもたらされたような、軍人の姿勢のような、しっかりとした直立の姿だった。その姿を傷ましいととらえた僕に対して、長谷川先生の、「国破れ、弟は死に、そうした悲しみを持ちつつも日本人として恥ずかしくない行動をとろうとした時の姿ではないか」という解釈をお聴きして、何とも言えない感動にうちふるえた。その時僕は思った。今の僕らは日本人として一番美しい姿を最もさげすんでいるのではないかと。敗戦の克服とはこうした日本人の美しさを純粋に感ずることではないかと思った。

敗戦後死にたる弟を背に負いながらも涙を流さず立つ姿を拝して

日の本を体現したりし美しき直立したる先人の御姿

## 自分に克服すべき点があるのではないかと問ふこと

（㈱日立製作所日立研究所　松井哲也　37歳）

戦争の問題といふことで三人の方の御講義と全体研修と続く丸一日の研修の中で問はれたことは、自分自身のどこかに克服すべき点があるのではないかと問ふことであったと思ふ。「物に不自由しない時代に育って、何を克服すべきかわからぬ」と語ってくれた班友があった。素直な気持ちだと私は思った。その班友は、この合宿を通してみづからの内心に真向かふ中で、克服すべきものがあることに気付いたといふ。その班友にとっては、それは天皇のことであった。またある班友にとっては、先の戦争のことであり、また、ある班友にとっては、友とのつき合ひであった。それぞれに自らの内心に省みて克服すべきことを自ら気付き得たのである。そのことが何よりもありがたいことと思はれてならない。

班長となりて

さまざまのえにしのありて六名の学生ここに集ひ来たりぬ

この学生を参加させむと思はれし人々の思ひをひたに感じぬ

合宿の前には何もなさざればこの人らの思ひに答へんと思ふ

別れのときに

五日間の合宿の日々つひに終り友らと別れのときは来たるも
それぞれにこの合宿で何ものか大切なるものを学びてきつるか

## 第六班—男子学生—

### 〝聖なる〟ものにあこがれる心

(㈱神戸製鋼所　北村公一　29歳)

小柳陽太郎先生の御講義の中で、木下道雄さんの「鹿児島湾上の聖なる夜景」のお話がありました。あのとき先生はなぜ〝美しい〟でも〝温かい〟でもない、〝聖なる〟夜景とお呼びになったのか。それを考へました。

誰が見てゐる訳でもない、何か実効性がある訳でもない。しかし見送ってくれる国民に応へずには居られない、そのやうな行為を神聖なもの〝聖なる〟とお呼びになったのです。

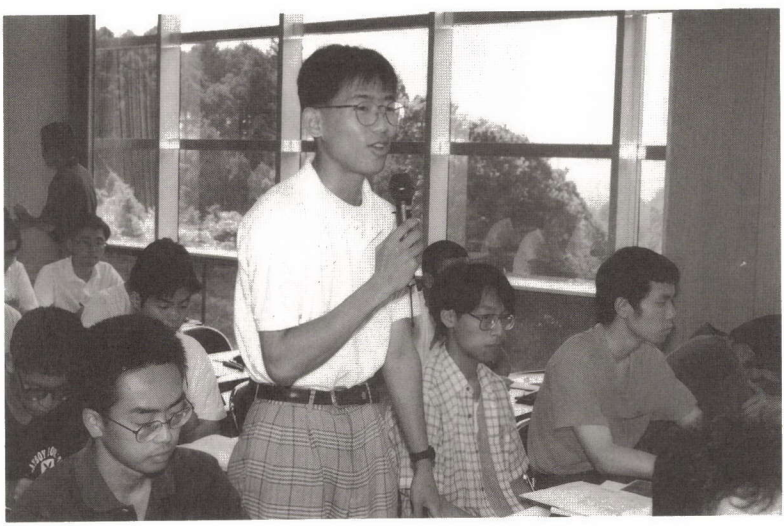
そしてまたこのお話に心動かされるのは、私たちの心の中にも〝聖なる〟ものがあるからです。〝聖なる〟ものにあこがれることが、人の人たる所以ではないでせうか。

かがり火のあかりゆにはを照らし出し今み祭りのはじまらむとす

雲間より月あらはれてわれらつどふみたま祭りのにはを照らせり

あさまだき波のごとくに打ち寄するひぐらしの声に目を覚ますなり





御講義の後には質疑応答の時間が設けられてゐる。抱いた疑問を率直に質問する参加学生。

## 心が楽になった

（東京大学　法　三年　室　健二郎）

私はもともと合宿生活というものが嫌いで、この合宿に来ることについてもあまり乗り気ではありませんでした。また国民文化研究会の考え方にもかなり反発を感じていました。

実際に参加してみると、思っていたとおり、先生方の考え方に納得のゆかない部分が多く「自分はこの合宿で何を得ることができるのだろう」と寝ても覚めてもそのことばかり考えていました。

しかし合宿四日目の小柳先生の講義のときに、ちょっとしたことから質問することになり、そのお答えを聞いた時、私の心を覆っていた反感が霧がはれるようになくなってゆくのを感じ楽になりました。人の考えの中で自分の納得のゆく部分を自分の中に取り入れればよいのだと気付かされました。

合宿最後の夜をむかへ
酒を飲み最後の夜の宴にて友との語らひつきることなし
友どちと枕並べて語り合ひふけゆく夜の名残りつきざる

## 合宿に深く感謝したい

（新潟大学　工　二年　井口良之）

もともと自分の意志で参加した合宿ではなかったが、参加できたことは決して無駄ではなかったと思う。日本国民全てが知るべきであり、また自分らが知らされずにいた過去の真実を知ることができたことは本当に貴重な体験であり、日頃考えることのなかったものを追求し考えることは本当に大切なことであると思う。

また班員である皆がとても良い人達でありとても楽しかった。できればこの合宿限りではなく後も関りあいたいと思うほどである。そのような人達と会えたこの合宿に深く感謝したい。これから自分はどのような道に進むのか今はまだまったくわからないが、どの道を進むにせよ、日本人の誇り、また自分の誇りを失うことなく生きて行きたいと思う。

初めての出合ひも今やうちとけて酒くみあはす友となりけり

## 考えるきっかけを得た

（山口大学　経　一年　重松邦昭）

はじめの二日間に五十年前の戦争についての講義をいくつか聴きましたが、あまり納得できませんでした。何となく昔日本がしたことを無理に肯定して、そういった考えを自分に押しつけようとしているように思えたからです。

また三日目の慰霊祭などについても自分が参加して何か意義があるのかと思っていました。短歌などについてもそう考えていました。自分は何事においても反感をおぼえてしまう性分ですので合宿が終ろうとしている今でも疑問に思う点が色々とあります。

しかしこの合宿で行われたことがこれから考えるための一つの資料となることは確かです。

ひたすらに心を遣ひしこの日々はまさに光陰矢の如しかも

## 心をはたらかせた五日間

（拓殖大学　外国語　三年　鍋島祐一）

この合宿で一番実感したのは〝心〟をずいぶんとはたらかせたなあと思ったことでした。何か頭で物事を考えるというより、心で考えたような五日間でした。良き班員や班長や先生に恵まれ、すごく楽しく中味の濃い充実した合宿でした。

諸先生方の講義では人生の教訓となるようなことも教えられ、また違った角度からのものの見方を提示され、新鮮な驚きと感動を経験しました。ハイキングでは自然との触れ合いの中で、友と心を通わせ、体を動かし、幼い頃に経験した喜びを久しぶりに得たような気がしました。また初めて慰霊祭というものを体験し、日本人の心、日本の文化というものに改めて感動しました。

本当にありがとうございました。

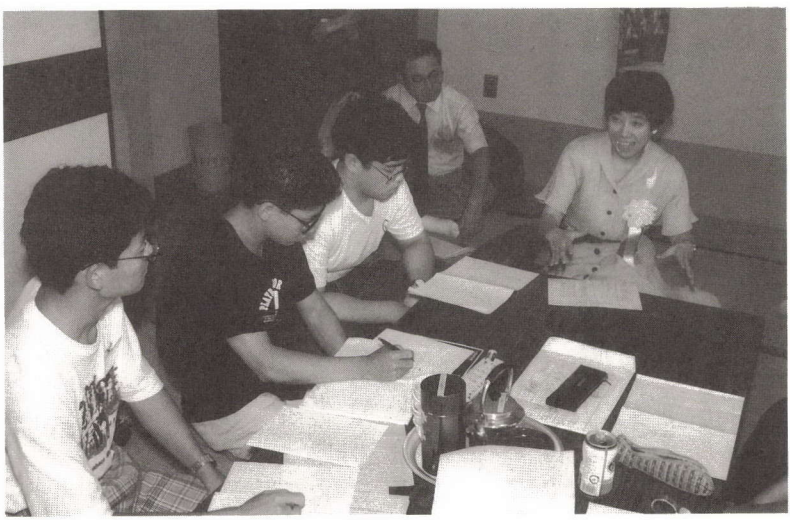
日の丸を自らかかげ仰ぎみて大和島根に誇り抱きつ

## 班の皆と本音の話が出来た

（亜細亜大学　経営　一年　肥沼祐一）

正直言うと合宿に来る前はかなり不安でした。なぜなら、『日本への回帰第30集』を読んでみるとかたよった内容の講義が多かったからです。もしかしたら、その様な考え方を強要されるのかと思ったからです。

カメラ・レポート9



班別研修の折、長谷川先生はいくつかの班室に入られ、一人一人の参加者に懇切にご教示下さった。

しかしそれは考えすぎでした。実際、かたよっていると思われる講義もありましたが、ためになる話が多く勉強になりました。また普段考えていないことや、日本の歴史の真実というものを考え直してみようと思うよいきっかけになったと思います。そして班の皆と本音の話が出来たことがうれしかったです。また班長さんに的外れな質問や単なる反発心からくる質問をしましたが、その一つ一つに真剣に耳をかたむけ、丁寧に答えてもらったことに感謝しております。

われごときの思ひも友ら真剣に耳を傾けききてくれたり

## 自分の中に敗戦の爪痕がある

（日本文理大学　工　四年　鐘築光昭）

今回合宿に参加しまして印象に残った事は長谷川先生の講義の中で少年の写真を見た時でした。先生は「みんなに是非見せたいと思って持ってきました」と語られましたが、私がこの写真を見た時に思った事は、この少年は何か悔しい思いにかられているように見え、重苦しそうにさえ見えました。しかし先生は日本人としての誇りがこの少年をしてアメリカのカメラマンの前ではなさけない姿は見せられないと思わせ、直立不動の姿勢で涙をこらえて立たせているのではないかと言われた時に本当に美しいとさえ感じました。先生がこの写真を見せて下さった事によって自分の中に敗戦の爪痕がある事を教えて下さいました。美しい物を素直に美しいと感じる事なく、醜く見てしまう心があるのを知りました。

小川先生の講話の中で
大人（うし）みづから手にとりたまふ槍がんなの刃先の光にこころうばはる

# 第七班―男子学生―

## 〝心〟を使っての勉強は不可欠だ

（東京大学　工　三年　松岡　勲）

長谷川先生の御講義をきいて、大東亜戦争当時の日本人がどういう気持ちで戦っていたかについて考えたこともなかった自分を恥ずかしく思いました。戦いにたおれていった人々が今の自分をみたらたいへん悲しむだろうと思い、ただ申し訳なく思いました。国武先生の話はその悲しみを代弁しているかのようでした。今の自分が国家のために命を捧げることができるかどうか甚だ疑問です。自分と国家との関わりを考えるにあたって、大東亜戦争当時の日本を〝心〟をつかって勉強することは不可欠だし、またそうしないと未来の日本人に誇れるような人間にはなれないと感じました。

七沢にともに学びしみ友らと今日の別れの何と悲しき

## 十八年間何をしてきたのか

（琉球大学　工　一年　今村　卓）

全国から大学生や社会人が参加するような合宿は今回が初

めてで驚いた。東中野先生の講義を聴いて、場違いな所に来た感じがしました。今まで「日本人であること」について考えたことなどなかったのに、ここでは皆よく勉強して、すごく考えている人ばかりで、自分は十八年間何をしてきたのか、落ち込んでしまった。考えてなかった自分が恥しかった。天皇なんて「昔からずっと続いている一族」程度にしか考えていなかった。高校の授業で白浜先生から戦争については色々お聞きしていたが、自分で勉強していなかったので、自分のものになっていなかった。これを機会に、戦争そして「日本人であること」について学んでいきたい。

合宿に不安抱きて来てみれば驚き隠せぬ十八の吾
会ひし友熱く語りし研修に吾もさそはれ思ひを語る
五日間終りてみればいと早く来年も来むと思ふ吾あり

## 心の大切さを考えさせられた

（新潟大学　教　一年　中野周作）

初めて合宿に参加して思ったことは早くかえりたいということでした。なぜかというと班別研修のときに一人一回は感想・意見を言わなければならないからです。僕は人前で自分の意見を言うのがとても苦手なので緊張の連続でした。これらのことを繰り返し、なんとか二日を過ごし三日目の小川先生の講義の中で〝素直な気持で〟ということを聞きました。このとき自分はかっこつけた言葉で意見を言おうとしていたことに気づきました。それからは自分の素直な気持ちを発表

カメラ・レポート10

二日目の午後、「戦争と文学」と題して、神奈川県立百合丘高等学校校長・国武忠彦先生による講義が行はれた。先生は大東亜戦争を戦った先人達の思ひを火野葦平著『麦と兵隊』や吉田満著『戦艦大和ノ最期』から偲んでゆかれた。

しようと心がけ、なんとか今日まで来ました。他にもよい講義がありましたけれど、僕はほとんど覚えていません。でもこの合宿に参加して心の大切さということを考えさせられた気がします。これからもこの合宿で学んだことを心にとめて頑張りたいと思います。

五日間寝食ともにし友どちと別れ近づく名残惜しくも

## 日本に誇りを持つことは大切だ

（拓殖大学　外国語　一年　林　耕次）

今まで僕はマスコミの報道などをそのまま素直に信じていたので講義などで語られたことはほとんど驚きでした。最初の二日間の講義ではどの先生も戦争を肯定するような内容ばかり話していたので、右翼団体の合宿に来てしまったのかと思いました。その考えは合宿が終る今になっても変っていないのですが、国文研の皆さんや何度もこの合宿に来ている人たちは、日本という国にとても誇りをもっていて大好きだから戦争を否定しないのだろうと思います。どのような状況から戦争になったか僕は知りませんが、そのような状況を作ってしまったことは悪いと思うから、国文研の考えに染ったりはしないけど、日本という国に誇りを持つことは大切なことだと思いました。

五日間友らとともに語り合ひ学びしことを吾は忘れめ

## 本当の自分の信念を得たい

（京都大学　総合人間　三年　庭本秀一郎）

今回の合宿で最も心に残ったのは長谷川先生が御講義の中で紹介された昭和天皇の御製

ふりつもるみ雪にたへていろかへぬ松ぞををしき人もかくあれ

先生はこの御製を敗戦の中においても日本人の正義を守りぬかれんとする昭和天皇の静かな決意の表れであると解釈されました。日本人の正義は自分の中で消化していかなければならないものですが、まさにこの御製に詠みこまれている松のように、本当の自分自身の信念、生きる拠り所を得たいと思います。様々な迷いや苦しさを味わうとき、この御製は自分に力を与えてくれるのではないかと思います。またその過程で忘れてならないことは「ことば」の重要さであることも痛感しました。初めての和歌相互批評を体験して、いかに自分の言葉がいい加減だったか、いい加減な表現や読みがまねく誤解のこわさを感じました。この合宿を通してさまざまな人と出会い、人間関係の深まりがあったことに感謝します。

朝起きて窓より外をながむれば霧に山の端かすみ見えけり

をさな子の頃親しみし歌々を歌ひて楽しきこの夕べなり

## 小川先生の講義は衝撃だった

（早稲田大学　教　四年　鈴木由充）

戦後日本は幾度となく危機に遭いながら、不思議と崩壊に至ったことは一度もない。やはりそこには目に見えぬ歴史の力が一貫して働いていることを今回の合宿でまざまざと見せつけられた。特に小川三夫先生のお話は衝撃だった。巷で「日本はここが駄目だ」「政治が悪い」「教育が悪い」と口汚く罵り合っている時に、一人黙々と体をはって日本の文化・伝統を守り続けている方がおられたのだ。小川先生のような方々によって、日本は決して滅びずに元に戻ってゆく。国文研の先生方もその中の一人であり、日本の歴史を後世に継承せしめんとの願いの下に四十回の合宿を重ねてこられたのだと拝察する。これまでは先輩方によって守り継がれた祖国日本だが、これからの五十年は私達がその任に当らねばならない。ここに集いし友らが一人一人そういう気持ちで己れの場に帰り、身を以て日本の文化・伝統を守り継いでゆけば、何事が起ろうと恐るるものは何もない。私もその一人でありたいと強く願う。

先輩の背（せな）を慕ひて吾もまた踏み貫かむひとすぢの道

## 新鮮で素晴しい時間を過せた

（玉川大学　農　三年　林　嗣也）

短い合宿となってしまったが（やむなく中途退場）、戦争

カメラ・レポート11

国武先生の講義の後、ひき続いて「全体研修」が行はれた。パネラーとして登壇していただいた長谷川先生、国武先生、東中野先生は、参加者から提出された、これまでの研修に対しての質問に懇切に応答された。

のこと、戦後のこと、正しい歴史認識についてのことなど、今までの自分の人生では深く考えることなどついぞなかった。今回の合宿ではこれらのことを考える機会を与えられ、またいつの間にか忘れてしまっていた、一つのテーマについて真剣に討論すること、問題を心で受けとめることと併せて、非常に新鮮で素晴しい時間をすごせたと強く感じた。

## 第八班―男子学生―

### 真実を心で知ること

（亜細亜大学　法　四年　丸山忠一郎）

班長を務めることが出来、充実感で満たされてゐます。我々八班はとても元気な班でした。この元気さが今の充実感につながってゐると、はっきり感じます。

合宿では戦争の問題が中心でした。この問題を学生が考へる時に必要なのは、真実を心で知ることです。例へば天皇陛下について考へる時、今までの私は、陛下が宮中祭儀で国民のことを祈り続けていらっしゃることを知りませんでした。しかし小柳先生の御講義で御製を味はひ、私の心は動きました。この合宿を通して、世間には真実を知らずして、また見ようとしないで物事を判断するといふ空言が、いかに多いかに気付きました。

いつの日か再び会はんと手を握り約束交はす七沢の昼

四泊の教室終はり七沢に集ひし八班別れを惜しむ

### 何でも話せる友を得た

（香川大学　農　三年　百瀬広淳）

現在の日本の教育は外国によるもので、またマスコミも毎回毎回同じことのくり返しで、ほんまにどないなってんねんと思う。

今回のセミナーでは日本のいつもと異なる一面を知った気がする。これが真実なのだということは聞かされてはいるが、まだまだ理解するのはちょっと難かしい。いってみれば、日本の歴史観、心の勉強家としてはピッカピッカの一年生だからだ。

何でも話せて一緒に騒げる友を得たのだから、これからも交流を深め、一緒に勉強していきたいと思う。

セミナーで会ひし友らと語らひき日本の心胸に刻みて

### 本音で話し合える友人を得た

（高野山大学　文　二年　廣石宗一郎）

参加しての思い出は数多く尽きませんが、一番の思い出は、本音で話し合え切磋琢磨できる班友や友人達を得たことです。この班は班長の丸山さんを中心として、うるさい時はとてもうるさいですが、とても班のつながりが良く、私も来てよかったと満足しています。特に各御講義後の班別研修に於て、七人が意見を出し合い、そこから得たものが私にとって

は非常に大きく、思った事を意見として出し合うだけでなく、「聞く」ということの重要性、そして聞く姿勢の重要性を教えてくれました。また、御講義で一番感銘を受けたのは、天皇陛下が様々な祭儀等に於て我々国民の事を祈って下さっている事実を教えて頂いた事です。また来年も参加したいと思っています。

国民のことを祈られる天皇の御心知りてかなしく思ふ
七沢で学んだ事を教訓に吾合宿の学舎後にす

## 短歌を通じて日本人としての心を学んだ

（拓殖大学　外国語　二年　薬丸賢吾）

戦争についてここまで深く勉強するとは思わなかった。今回の合宿に参加して私なりに一応結論が出た。戦争に関しては天皇が問題になる。天皇を語るには天皇の御心を知らなければならない。そのためには、陛下について書かれた本を勉強するのではなく、陛下が直接詠まれた御製を勉強しなければならないと教わった。私はここで短歌を作る、あるいは勉強する意義というものが少しわかった。それは、短歌では絶対にウソは作れないからその人の心が素直に表現されるというものである。私も実際短歌を創作してみて身にしみて感じた。短歌を通じて日本人としての心と言葉の大切さを学んだことは今後の私の人生に何らかの力になることだろう。

久びさに校歌うたひていにしへの人の心の胸にせまりぬ

カメラ・レポート12

「体験発表」。飯塚病院医長・長澤一成氏（写真右）は、ドイツへの留学体験を踏まへ、「自国の文化や歴史の独自性に着目すべきである」と語られ、㈱ＢＢＳ金明社長・中田一義氏（写真中）は、機械製造業の会社を経営してきた苦労と喜びを、船橋市立法典東小学校教諭・竹内孝彦氏（写真左）は、教師となり十年の間に自ら詠まれた短歌を紹介され、心の中の動きを、一首の調べに整へていくことの楽しさを語られた。

## 今まで聞いたこともなかった話だった

（拓殖大学　外国語　一年　島田匡康）

合宿の内容や講義の題材、スケジュールを見たときには、正直いってぞっとしました。自分の考えがあって、講義を素直に聞くことができたことはなく、ほとんど流していましたが、逆に一つ一つのことについて自分が意外にも自分自身の考えを持っていることに気付きおどろきました。班別研修では他の人たちが意見を述べるたびに自分の知識のなさをおしえられることが何度もありました。短歌など一度も書いたことのない自分にとっては考えることさえ苦痛でした。しかし今までに聞いたこともなかったような話がこれからの生活の中で何かの役に立てばいいと思います。また自分でもその努力をしていかなければならないと思います。

七沢で過ごした日々に目を向けていつかは何かの役に立てたい

## 大きなものを得たような気がする

（金沢工業大学　工　一年　石原義郎）

大東亜戦争のことを初めて真剣に考えたような気がしました。今までは学校の授業で学んだこと全てが真実と思っていたので、大東亜戦争は全て日本に責任があると思っていました。しかし先生方の講義をお聴きしていくうちに、授業で学んだこと全てが崩れていきました。侵略戦争と思いこんでいた大東亜戦争がそうではなかったと、東中野先生が話された事が一番心に残りました。今までの知識を全てすてて今回の講義の内容を信じることはできませんが、戦争や日本に対する考え方は確かに変わりました。

この合宿で何か得るものはあるのか不安でしたが、初日から大きなものを得たような気がしました。この合宿に来て、自分が変わったような気がします。

七沢の峠に風が吹きぬけて心やすまる午後の一時

## 全てが目新しく自分の胸に迫って来た

（法政大学　経　一年　土生直樹）

大東亜戦争に関して思い悩み理解しきれなかった様々の諸問題が、先生方の御講義により答えをいただいたり、示唆されることによって解決し、頭の中の整理がつきました。東中野先生の従軍慰安婦問題は考えたことがなく、頭の中にあった先入観を完全に打破してくれました。そのショックは久方ぶりのすごいものでした。長谷川先生の切り口、終戦詔書やポッダム宣言などを読むことは、私には目新しいものであり「ありがとうございます」といいたくなりました。国武先生のお話の中の臼淵大尉の一言に、私の疑問が一気に解決しました。合宿中に学んだ全てが、目新しく自分の胸に迫り来る思いがしました。やはり今回心に残っている言葉は、「静かなる誇り、静かなる喜び、国民になれ」という一言。

寄せ書きを写真の裏に書きつくる友の笑顔を眼に刻む

## 第九班―男子学生―

### 自分で真実を見極めたい

（金沢大学　文　二年　熊谷真利）

合宿で教えられたことは、今まで習ってきたことと大きく異なり驚くことばかりであった。たしかに教科書をただ読んでいる教師の授業よりも、合宿で熱心に語って下さった講師の方々の話の方が真実と思えるのである。しかし、そのまま鵜呑みにすることは、教科書を盲目的に信じてきたことと同じ危険性があると思う。そこで、私はこの合宿中は、どちらが真実かという決断はしないことに決めた。これから自分で勉強し調査（大げさな言い方だが）して真実を見極めたいと思う。

夜の集ひにて定栄先輩と語し折
恐ろしく見えし先輩も語りゆけば温かき人柄の伝はりてくる

### 同胞のつながりを実感した

（熊本大学　教　四年　上甲能也）

全国から七沢に集ってきた方々、知らない人の方が多いのに、何かつながっているなあと強く感じました。大東亜戦争を戦われた年代の方、今社会の第一線で活躍している先輩方、今全国の大学でそれぞれ勉強している私たち学生が世代男女

三日目の午前は「木のいのち木のこころ―西岡常一棟梁と私―」と題する、宮大工、鵤工舎・舎主・小川三夫先生による御講話。先生は西岡棟梁のもとに弟子入りされた修業時代を振り返られ、「自分の時間が全くない厳しい修業の中で、自分の個性が明らかになっていった」と語られ、お一人で日ノ御碕神社復元図に取り組まれたときのことなどお話しされた。

を越えて話すことができたこと。相手の念いに少しでも迫っていこうとするこの合宿ならではの雰囲気があったことからです。先生方から多くのことをご教示頂きましたが、長谷川先生には「日本の正義」が失わさせられて了ったことを教えて頂きました。このことは、私が合宿中に感じた「つながり」が日常生活で喪失せしめられている原因だと思いました。国の為という時の「国」とは、肉親や故郷とのつながりから遊離したものではなく、そのつながりの中でその時々を一所懸命に生き抜くことではないだろうか、と思いました。

## 頭でものを考へてゐては人生の大事は分らない

（大阪府立交野高校教諭　絹田洋一　40歳）

長谷川先生は難しい問題を非常に平易な言葉で明快に語って下さり分りやすく感銘深かった。死んだ弟を背負ひ歯をくひしばってゐる少年の写真を全員に配布して頂き「日本人の誇りを失なふまいとする気慨の表れだ」と言はれたのが、心に焼きついてゐる。「できるだけ分り易く」とご配慮下さる先生のお心遣ひが感ぜられ有難かった。

小川先生のお話は、それまでの戦争の話から一転したのだが、不思議と全く違和感がなく、むしろ「頭でものを考へてゐては、人生の大事は分らぬものだよ」としみじみ語りかけていたゞいてゐる様で、合宿で学ばうとしてゐる事の本質を衝くものであったと思ふ。このお二方においでいたゞいたのは本当に良かった。単に「成る程」で終はらぬために、肝腎なのはこの合宿後の勉強であらうと思ふ。

長谷川三千子先生の御講義をお聞きして

幼な子を背にくくりつけ直立せし少年の写し絵を師は配ります
あどけなく寝入りたるかと見えし子はすでに死にをりと聞きて悲しも
弟の亡きがらを背にくくりつけ焼き場に立つ少年の思ひはいかに
涙こらへ歯をくひしばり少年はくにのほこりを失なはずをりしを
十才（とを）まりの少年も共に戦ひし敗残の兵たるほこり持ちしか
ほこり懐き耐へ忍ぶ時は今もなほ続いてをりしと師はのたまへり

## 自分で考えることの大切さを知った

（第一経済大学　経　四年　田町康貴）

合宿に参加してみて、私自身が全く考えたことのないことばかりだったので、困ってしまいました。講義後の班別研修は特にそうだった。班の中で話をしているとき、これはまいったな、と思いました。話についていけない自分が恥かしくなってしまいました。班員の皆さんに「どう思う」と聞かれても、これといって話すことがなく、ただ自分が納得したことを「私はこう思いました」と言うことしかできませんでした。三日目に「心が伝わらない」と言われた時に、自分自身とても反省しました。

最後に体調を崩し迷惑を掛けましたが、班員の皆様に感謝します。

合宿の波にのれずか体調を崩して去るは口惜しきかな

## 喜びと感動でいっぱい

（鹿児島経済大学　経　一年　吉福浩介）

私は、今この合宿の全日程を終えるに当り、とても良かったと思っています。二・三ケ月前に高校時代の担任の先生に合宿のパンフレットを渡され、是非出席するようにすすめられたときは、本当に困ったものを渡された、という思いでいっぱいでした。申し込み締切日まで、先生への義理を果すべきか、それともこれまでと同じ安易な日々を過すか、二つの気持ちに揺れてましたが、いずれにしろ積極性に欠けたものでした。しかし、初めての人にめぐり会い、真剣に語ることは自分を磨くことであり、恩師への義理を果すことであると自分に言い聞かせて合宿に参加しました。合宿では初めはとまどいましたが、班員その他の人と交わりすばらしいものを得ることができ、今は喜びと感動の念でいっぱいです。

みな友と別れのときはせまり来れどこれが終りと我には思へず

## 「無垢で素直が一番」に感銘を受けた

（日本大学　農獣医　三年　安東高明）

多くの事を学び、多くの友をつくる事ができたことをうれしく思います。合宿で強く感銘をうけた事は、知識や先入観に左右されず、素直に受け入れる事が大切だという事でした。先生方の御講義や短歌相互批評を通じて、自分は先入観や知識で物事を見ていることを気づかせて頂くと同時に、自分の

小川先生のお話を真剣に聴く参加学生。

気持ちと相手の気持ちが通いあった時の何ものにも代え難い喜びを感じさせて頂きました。そして、感動する素直さ、通じ合う心こそ今後の日本を築いていく本となるのであることを学ばせて頂きました。小川三夫先生の御講話の「無垢で素直が一番」とのお言葉に新鮮な感銘をうけましたので、今後自分の心がそうあるように努めたいと思います。

素直なる無垢な心が一番とふ師の御言葉を我は忘れじ

## 第十班―男子学生―

### 本当に来て良かった

（福井工業大学　工　一年　久保博之）

この合宿に来た時は「何とかなるだろう」という心境だった。しかし開会式の時に山口秀範さんが「今日と明日の二日間は徹底して戦争のことを問題にします」と言われるのを聞いて、「何という所に来たんだ」と感じました。東中野先生の導入講義の内容は自分の知識と常識では考えられないことであった。班別討論では自分の考えが打ち砕かれる意見が続出し、身構えてしまった。しかし長谷川先生、国武先生の講義をお聞きして、だんだんと討論に参加できるようになった。そして三日目の小川先生のお話しからは建築学専攻の自分にとって「家はただ建てるだけでなく心も必要だ」と再認識できた。長内先生のお話しでは成年とは何たるかを知った。小柳先生のお話しからは天皇が我々を思われるお気持ちの強さを感じた。短歌相互批評、これは骨の折れるものであったが、班付の東中野先生から「理系の人なのに言葉をよく知っているね」と言われたのが嬉しかった。こうして一日一日が過ぎるごとに「勉強になり、いいなあ」と思うようになり、この感想文を書いている今の気持ちは「本当に来て良かった」という思いです。

五日間さまざまなお話しありにけり終りてみれば良き思ひ出かな

### 様々な意見のあることを知った

（拓殖大学　外国語　一年　宮内一浩）

この合宿には大学の単位を取るために参加したから、合宿が終った今の気持ちは正直言ってとても嬉しい。でも講義を聞いたり班別研修に参加して世間にはいろんな意見があると知りました。私は皆さんとは全く違う意見でしたし、皆さんに合わせる気もありませんが、あえてこの合宿の意義を探すとしたら、先に述べたように様々な意見を持った人がいると知ったことです。これからも違った意見に出会うと思うけれども、それはそれとして認められる人間でありたいと思う。

もう二度と来るものかとは思ひしが学びしことのありし気がする

### 想像だにしなかった新しい視点を得た

（同志社大学　文　二年　船井隆作）

この合宿に参加した直接的な理由は、長谷川三千子先生の

「敗戦の克服」というテーマに興味を持っていたからである。大東亜戦争をとらえ直すための新しい理論的展開を知ることができればと思っていた。その点において長谷川先生の講義、あるいは東中野先生の講義からは得たものは大きかった。が、しかし、正直に言えば、他の講義、特に天皇についての講義においては、そうでなかった。

私は「戦争」や「天皇」といった高度に政治的なものは客観的理論的な認識が必要であり、心情的な認識は誤謬の原因となると考える。ゆえに短歌を通して天皇の「まごころ」を理解することは正確な認識において有害ではないかと思われた。このことを班別研修で話したところ、藤新班長や東中野先生初め班友からも反論された。「こころ」や感動が重要だと言うのだが、私には納得できるものではなかった。

しかし今こうして振り返ってみると「こころ」や感動による理解の可能性を感じざるを得ない。というのは先生や班長や班友の私にたいする理解の仕方がそうであるからだ。対象を認識するためには感情や「こころ」はいらない、この確信は今も変らない。しかし対象を理解するためには感情や「こころ」こそが重要である可能性がある。今回の合宿で得たものは以上のような想像だにしなかった新しい視点であった。

酒飲みつつ初めて歌ひし我が校歌その美しさを新たに感ず

カメラ・レポート15

御講話の後、小川先生は“槍鉋（やりがんな）”の使ひ方を実演された。

## 本当にありがたうございました

（国学院大学　文　三年　高澤一基）

この合宿には二度目の参加です。昨年の阿蘇合宿では全国の学生と知り合ふことができ、多くのことを得ました。人のつながりは「運動」等の面で貴重な財産だと思ひます。今年も参加して人脈がより広がりました。この合宿の意義は他大学生と交流し人との繋がりを作る点にあると思ひます。

本合宿では講義を聞き班別研修に参加する時間が多く、とても素晴しいと思ひます。しかしそれに止まるだけでなく、他の班や女子班とも合同で論議したりすることも、世界を広げると思ひます。最後に、このやうな合宿を企画実行された主催者の皆様、本当にありがたうございました。

大山のまもらせ給ふ学び場にをちこちからの友が集ひ来ぬ
合宿の夜もふけゆくも友どちと己が母校の誇りを歌ふ

## ゼロに戻る努力をしていきたい

（日本デザイナー学院　グラフィック　三年　安部雅俊）

東中野先生の導入講義で「日本の戦後処理は全て完了している」と聞いた時、日本人としての誇りが改めて生れてきた。自分は誠実に自分の過去を見ていくなかで自分の未来をプラスにして行かなければならないと改めて思った。小川三夫先生はご講義で「本質を知るには今まで積み上げてきた知識を全てとっぱらわなければならない。ゼロに戻らなければならない」と言はれた。生活のあらゆる面で自分にはこういう過去があるからとか、将来には関係ないからという思いが、いつも自分の行動を止めていた。ゼロに戻るその努力をこれからしてゆきたいと思う。長内先生が「お父さんお母さんは君たちが死にそうになれば自分の身がどうなろうと助けようとする」と言われた時、自分の実家はプロパンガスの仕事をしているが、そこで誇りをもって身を立ててゆくべきか、そこで心をゼロにしてゆくべきか、考えさせられた。とにかく慰霊祭で決意したごとく大東亜戦争のことを一生懸命に学んでゆきたい。

慰霊祭にて
自己の位置を確かめながらほどほどに生きてゆかむと御霊に誓ふ

## 合宿に参加できて良かった

（亜細亜大学大学院　一年　荒川雅之）

初めて合宿に参加でき、来て良かったと感じてゐます。先生や先輩や友だちから学生のうちに一度は参加した方がよいと勧められてゐた理由が分りました。班長さん以下班員諸君と研修を通じた五日間で、ほんの四日前までは見知らない者同士であったとは思へない感じがしてゐます。

第一日目から二日目にかけて戦争にかんした講義を聞きました。そのなかで長谷川先生の「戦争を克服するためには、もう一度真実とは何なのか、自分たちの手で調べてみることが必要だ」といふお話が印象に残ってゐます。合宿導入講義

のなか東中野先生が「エコノミスト」誌の誤りを具体的事実を挙げてご指摘なさったやうに、世間一般で言はれてゐる間違ひにだまされないだけの勉強をしていく必要を感じました。

小川先生の講義では、木が環境によって育つといふお話と、芽張ってゐて日が当るのを待ってゐる木は良い木になるといふお話が、お弟子さんは一度ゼロに戻るとすっと伸びるといふお話に通じるやうに思はれました。

長内先生の、駅の階段で寝てゐる人を起されたお話から、先生の人にたいするご姿勢が伺へ、毎月一回の輪読会では素晴しい先生とご一緒させていただいてゐるのだなと改めて感じました。そして次の日本を背負って行く私たち後輩にたいする思ひが伺へ、今後更に頑張って行かなければといふ気持ちになりました。

小柳先生の講義において、天皇陛下の国民にたいする肉親の情についてのお話があり、他の国に例のない天皇を上にいただいてゐる国に生きてゐることは誇れることなのだなと感じました。

集ひ来し友らとともに声あはせ歌ふこの夜は楽しかりけり

## 多くのことを学んだ

（㈱日章工業　藤新成信　37歳）

社会人として二度目の参加ですが、全日程参加は今回が初めてです。班長として五日間全て学生諸君と生活を共にし、

カメラ・レポート16

短歌創作の前の「短歌創作導入講義」に於て、戸田建設㈱勤務・青山直幸先生は、短歌創作の意義、作り方の基本などを具体例を挙げながら判りやすく説明された。

多くのことを学ばせていただきました。社会生活の上で如何に心を働かせてゐないかを気づかされた思ひがします。

敗戦の克服といふテーマが、これからの日本がそして私自身がどのやうに生きて行くかを考へるに当たり、最も重要なことだと改めて思ひます。

合宿の内容については班別研修の際、輪読の時間がとれなかったことが少し残念に思はれます。合宿後学生諸君が直ちに取り組んでいける足掛りとしても、是非とも古典輪読の時間を設けて欲しいと思ひます。

合宿最後の夜

五日間共に過せし若きらと声のかぎりに歌ふはうれしも

## 第十一班 ―男子学生―

### 祖父母の時代のことを調べてみたい

（福井工業大学　工　二年　増村博文）

自分は、人の意見や疑問、話など全てを一旦自分の内に取り込みゆっくり時間をかけ消化する事が可能であると思う。しかしながら、時に消化不良を起す事もあり、食欲不振の時もあり大切な食物を食せない事もあった。その疾病に対する病院がこの合宿であり、医者、治療、薬が公私の先生方、御講義、討論であると考えている。何故なら、先生方の御講義はよくかみ砕かれており、吸収し易く又、その後の討論により講義内容がより鮮烈になり、不調な自身の心が安らかになるからである。今年は特に終戦五十年という事もあり、自分自身、祖父母の時代の事など調べてみようかなどと新しい食物探しに精を出そうと考え、消化不良になったらその内容を来年の合宿で消化したいと思う。

国旗には礼を尽くせとふ師の声に我の身を恥ぢぬ朝の集ひにて

### 自分自身を振り返る機会になった

（拓殖大学　外国語　三年　赤堀　晶）

合宿日程が過ぎるにつれ、自分がいかに勉強不足であるかを痛感させられ、また、回りの人たちの知識の豊富さに圧倒されました。このような体験は、若い自分にとって良い刺激になりました。さらに、すばらしい講師の先生方の話は、自分自身を今一度振り返る良い機会を与えてくださいました。特に、小川三夫先生の素直で無垢な心を持つという言葉と長内俊平先生の両親に対してのありがたみの心を持つという言葉に感銘させられました。本来当たりまえの事ですが、いったいどれほどの人たちが持ち合わせているでしょうか。私自身持ち合わせているか疑問です。

受け入れられない事もありましたが、すばらしい話も聞くことができ、四泊五日を無駄にせず良かったと思います。

夏合宿早々と過ぎ終りなばここで得しもの次につなげん

## 初めてできた短歌に満足感がこみあげる

（海上保安大学校　四年　行地明男）

合宿参加動機は日本人のアイデンティティーとは何なのかといふことを思索したいことであった。また、それは「諸君」に載った広告を見たことがきっかけとなった。したがって、合宿内容にびっくりするといふことはなかった。合宿の内容を事前にみて気になっていたことは、短歌創作についてである。短歌を作れるのか、とても不安だった。しかし、三日目のハイキングにおいて、自分の感じた気持ちについて熟考していくうちにとても完全とは言へないけれども形になった。そして、班別批評で一応の形となって初めて自分の短歌ができた。このやうな過程でできた短歌を改めてみると満足感がこみあげてくる。

御講義に感銘受けし我が心学びについて自問せししも

## 心の支えになった中田一義さん

（拓殖大学　外国語　一年　春日強志）

何をやるかも全く知らないで、とりあえず合宿ということなのでかなり期待していたものがあったが、来てみていきなり戦争の話になったので気持ちがさめてしまい、とにかく毎日帰りたいと思っていた。しかし、中田一義さんと知り合ったのは大きかった。なぜかというと、みんながみんな戦争について語るのが好きで私はなじめないと思っていたところに

カメラ・レポート17

県立七沢森林公園へのハイキング。「ながめの丘」で班員の皆と食べるおにぎりは格別の味だ。

中田さんの考えをきいていくうちに、中田さんは私の心の支えになり、気持ちも楽になっていった。本当にありがたい人だった。また、友人も増えて楽しかった。

この五日間を終えてみて考えてみると、とても早かったなと思った。

七沢で様々嫌なことあれどほこりに思ふこの五日間

## ショックだった導入講義と印象深い長内先生の講義

（東京法律専門学校　法　一年　浜田和彦）

合宿導入講義の時点でいきなり頭をガツンとやられたようなショックを受けました。僕は、前々から大東亜戦争は日本が自存自衛、東亜解放の旗印を掲げて戦った正当性のある戦争だと思っていましたが、東中野先生が説かれたような日本の正当性を主張する事実を知ったのは初めてでした。そして、そのような事実がありながらマスコミの偏向報道や世論によって事実がゆがめられていることに深く憂国の念を抱かずにはいられませんでした。

又、特に印象に残った講義は長内先生の講義です。先生は、自分の経験をひき合いに出され、父母への感謝をお説き下さいましたが、始終熱い情熱で語られるので眠けもふき飛びとても楽しく聞かせていただきました。

消灯の時間過ぎ去りて友となほ声を殺しつ語りあひしも

## 素晴しい合宿だった

（航空自衛隊　神谷正一　37歳）

講師の先生方、班友、天候等全てに恵まれた素晴しい合宿だった。序盤での大東亜戦争に関する御講義では、三人の先生のテーマに対するアプローチは三者三様であったが、事実に対する非常にきめ細かな検証に目が開かれる思ひがした。体験発表では、とりわけ中田氏と竹内氏のお人柄に触れたような気がし、自分自身の人生に対する姿勢を反省させられた。また、長内先生の御講義では、今回も激しく心をゆり動かされるやうな思ひがした。常に厳しい目でご自分を見つめておられ、変らぬ情熱を持ち続けていかれるお姿に、感銘を受けずにはをれなかった。班長として、班友の皆と充分に語り得たかどうか、反省頻りであるが、新たに学びの指針を得ることのできた合宿となった。

七沢に集ひし友らと語り合ひ学びし日々の早過ぎゆきぬ
この秋はともに代々木に集はんと戸惑ひつつも声かけあひぬ

# 第十二班―男子学生―

## もっと勉強しなくてはならない

（富山大学　理　一年　加藤俊輔）

僕は、中田さんと大学の先輩の紹介により、この合宿に参

加させてもらいました。最初パンフレットを見たとき、戦後五十年などと言う言葉が目につき、すごく不安でした。案の定、初日の導入講義を受けてみてさっぱり解らず、ひょっとして自分は場違いな場所に来ているのではないかと思いました。しかし、三、四日目になるとだんだん講義内容も解るようになり、特に、小川先生の修業時代のお話しにはとても感動しました。また、慰霊祭にもとても感銘を受けました。

班の他の人達と比べて、自分はまだまだ未熟だと感じられ、もっともっと勉強しなくてはならないと思いました。文武両道を目指して努力したいと思います。

夜の集ひにて

酒の席教授の姿見にければ真の姿に我おどろきぬ

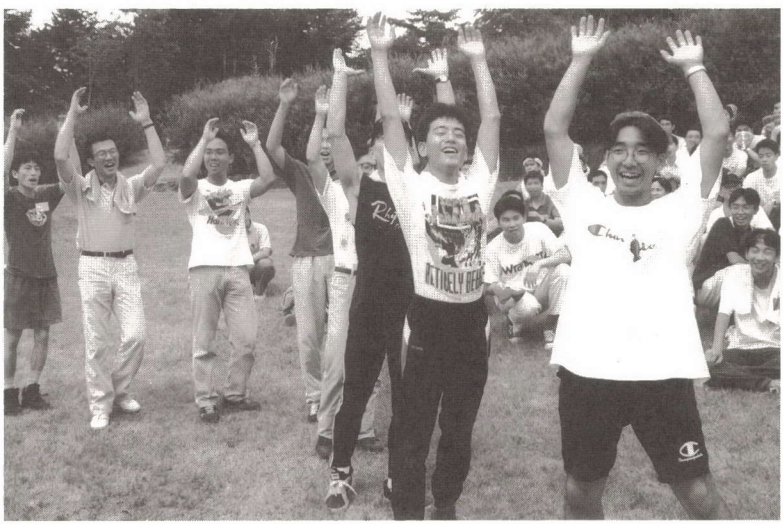
## もっと心を開いていきたい

（大阪府立大学　工　三年　小池隆寛）

僕は日頃、案外心を開いていないということが改めて分かった。それに気付かせてもらって本当にありがたく思う。気持ちを開いているときに人の見せてくれる笑顔は心にしみる。

僕は、今自分にこだわりすぎていこじになりがちだ。それは自分が確立していないせいで、人の意見に左右されそうになるのがこわいからかもしれない。いつのまにか自分がその瞬間瞬間に生きる、心を開くことすら忘れてしまっていたように思う。もっと自分を出していきたい。そして、自分を知

カメラ・レポート18



「おほやま広場」では炎天のもとでゲームを行った。暑さに負けず、元気よく万歳する優勝チーム。

り得たとき、僕には全てが分かると思う。

夏空にただ行く一羽たんたんと我も行かんかいのちのみちを
求道する心はいつかやぶに入り我が身の足も忘れたるとは

## 真剣にものを考えるきっかけがつかめた

（拓殖大学　外国語　一年　川根勝治）

合宿に始めて参加して一つのことを色々な角度から真剣に考えることができた。今の学生は世間一般では無関心と言われているが、真剣にものを考えている人もいることがわかった。僕自身、この合宿を通して真剣にものを考えるきっかけをつかむことができたと思う。もっともっと勉強して借り物の知識ではなく、血肉化した言葉を得たいと思う。

講義を聴いて一番印象に残ったのは小川先生のお話しだった。人間を育てるためには、その人が謙虚になるまでぶちのめすことが大事とおっしゃられたが、そのことがむしろ人間性を最も大切にしておられる感じがした。生きる上での大切なことを聴いた気がする。

小川先生のお話しを聴いて
大工の道耐へに耐へたるその姿胸が高鳴る我が心

## 感ずるところが多くあった

（佐賀大学　理工　一年　本庄寛行）

今回最も印象を受けたのが、長谷川先生の下さった写真です。写真を見ると、直立し、口を結んでじっと前を見る子供の姿に、どんなに苦しくても負けまいとする気概というか、誇りのようなものを感じます。白濱先生が和歌相互批評のときにこの写真を取り出し、「今の高校は生徒を大学に行かせればいいだけでしょう。私は教師として、この子のような目をした生徒を育てたいと思っている」と言われたのが印象的です。今回の合宿は感ずるところがありすぎましたが、このあと自分の心の中でこの感動を振り返ってみることが本当に楽しみです。

床に就きて
英傑になれと励ます師（名越先生）の言葉幾度も心に浮かびてやまず
先生のみ言葉思へば父母の「がんばれ」といふみ姿浮かびぬ

## 日々学び問いながら生きたい

（横浜国立大学　経営　四年　野崎　譲）

私は、この合宿教室に隔年で三回目の参加となりますが、今年の合宿ほど自分にとって辛く苦しい体験をしたのは初めてでした。というのも借り物の言葉ではなく、本当に自分の心から湧き出る言葉を話すということができなかったからです。あらためて自分の勉強不足と心を働かすということに、日常生活の中で怠けていたことを痛感いたします。

ですから三回目の参加者とあろうものが班に貢献できなかったことにとても腹立たしく情けない気持ちで一杯です。

明日からの生活では、自分自身と厳しく向かい合い、日々学び問いながらより善く生きるようにしていきたいと思いま

す。

もどかしき思ひはすれどいつの日か己が心に自信もちたし

## 天皇を敬愛する念が起きた

（東京電機大学　理工　一年　田原誠一郎）

私は知り合いに誘われて、嫌々ながらその合宿に来た。初日の夜の導入講義や班別研修を聴いていると帰りたくなった。しかし、二日目の夜やっと話にも慣れ、ほっと胸をなでおろした。三日目はハイキングでヘトヘトで夜の講義も耳に入らず、先生の言いたいことがあまり理解できなかった。

結局、第一日目から三日目までの話は拒否したり、よく分からなかったり、寝たりしてあまり身につかなかったが、四日目の小柳陽太郎先生の御講話を聴き、天皇を敬愛する念が起きた。この合宿において私は友達と天皇を敬愛する念という二つを得ることが出来た。

小柳先生のご講話を聴いて

先帝は甲板上に一人立ち陸地に向ひて挙手の礼をす

## 「敗戦の克服」が課題

（熊本県立第二高等学校教諭　白濱　裕　43歳）

講義時に、つついて起こすのに苦労した班員諸兄が、合宿が終了して、お互ひに十年来の知己のごとく別れを惜しんでゐる姿を見て、ほっとしてゐる。

二日目までは、班別研修でも、用語の意味を含めて、講義

三日目の夜、御講話をされる㈳国民文化研究会常務理事兼事務局長・長内俊平先生。先生は、百姓仕事の経験を踏まへ、「深く耕す（田返す）」ことによってこそ、稲に土の命が充分に行き渡ることを指摘され、「心豊かな国となるには、一人一人が“観察の目”でなく、心を働かせる努力をすることが大切です」と語られた。

の内容の反復に相当の時間を費やしてしまひ、論議がなかなか深まらなかった。しかし、短歌の相互批評後はお互ひの心の垣根が取れたやうな観があった。また、小川さんや長内先生の体験的なお話し、小柳先生の昭和天皇に関するエピソードなどには皆率直に感動してゐたやうに思ふ。

戦後五十年の時の経過の中で、日本人は平和に慣らされ、「敵」が見えなくなってしまった。「戦後民主主義の中で、何不自由なく育つて来たのに、なぜ、敗戦を〝克服〟する必要があるのか」といふ一学生の問ひに象徴されるやうに、この合宿において、学生に大東亜戦争の意味を問ふことが極めて困難になつてきてゐることをあらためて痛感させられた。

長谷川先生が提起された「敗戦の克服」は、戦後、日本が「独立」した年に生を受けた私自身の課題でもある。

最後の昼餉の折に

おのがじし抱負を述ぶる班友の面輪を見れば別れがたしも

来年は「阿蘇」にて会はむと約しつつ握手交はせば胸迫り来る

## 第二十一班―女子学生―

### 今まで考えたことのないことばかりだった

（拓殖大学　外国語　一年　山上鮎美）

私はこの合宿に来て、生れて始めて慰霊祭というものを見、体験しました。戦争のために命を国家のためにささげた人々をこのような形で祭るのは悪いことではないと思います。今の日本があるのはこの人たちの努力があったからこそと思います。

天皇のこと、戦争のことなど今まで考えたことのない内容の合宿でしたので、考えさせられることばかりでした。

夜の集ひ肩をならべて総長も我らとうたふことのうれしさ

### 受け身でなく主体的に学んでいきたい

（中村学園大学　家政　二年　前田美幸）

長谷川先生のご講義を聞き、大東亜戦争といふものが、今の私たちにとって無関係ではない事を実感した。今の日本があるのは当時、国のために尽してこられた方々のおかげであるし、先人の後世に対する願ひあってのことであると思ふ。「敗戦の克服」とは、真實とは何かを自分達の手で検証していくことだとおっしゃった。今追悼とかいはれてゐるが、具体的にどういふ態度をとるべきなのか分からなかったが、この言葉にはっとした。まづ私たちが真實を知ることから始めなければならない。受身でなく主体的に学んでいかなくてはならない。今後を担ふ私たちが、日本がどうあるべきなのかを考へることへつなげていくことが大切なのではないかと思った。

先輩の意見発表のをりに

壇上にのぼりて明るくさはやかに思ひを述ぶる先輩（とも）にひかるる

## 祖父母を信ずる気持ち

（早稲田大学　教　三年　伊藤佳恵）

私は全体研修での、戦争中に今の私達と同じ学生だった、宝辺先生と徳永先生のお話しが心に残っています。先生方は「ただ自分の家族や友達、故郷を守るために戦った」「民間人を殺したことは決してない」という様な事を言われました。私は、今の私と同じ位の年の方々がご自分の大切な人達の住む日本を守るために戦争へ行かれたというその気持ちは、本当に純粋なものだったんだなあと思い、又、先生方の様な人々が守ろうとしたものの中に今の私も入っているような気がしました。簡単に侵略戦争だったなんて言う人もいるけれど、自分が他国を侵略しようとか人を殺そうとか決して考えない事を信じられるとしたら、同じ様に自分の祖父母の年代に当たる方々の事を信じる気持ちも当り前に生れてくるはずだと思います。

何事も自分の中にとのたまひし師のみ言葉に我を省りみむ

## 班の人たちと話し合いはればれとした思い

（拓殖大学　外国語　二年　内田陽子）

今までそれほど真剣に考えたことのなかった、天皇や戦争について考える時を与えてくれた合宿でした。今度また機会を見つけて来たいと思います。

自分の目標であった班の人達とのコミュニケーションをと

「慰霊祭」。戦時・平時を問はず、祖国日本の為に尊い御命を捧げられた方々の御魂を心静かにお慰めした。

ることができ、とても胸がはればれとしています。

班員とすごした日々を思ひ出すいつ会へるかと胸はずませて

## 知らないことが多すぎると感じた。

（亜細亜大学　国際関係　一年　山川かなめ）

どんな事柄でも必ず相反する方面からの見方があります。その両方を理解した上で意見は出すものだと思っています。私の目標は、自分の意見を持ち相手と討論できるようになることです。その自分の意見のもとになるのは本からであり、師・友・自分の親の言葉であり、事実です。しかし残念ながら私には知らないこと、勉強していないことが多すぎると実感しました。その意味でこの合宿はたくさんのことを教えてくれました。これからもスポンジが水をどんどん吸うように、いろいろなことを吸収したいです。

次はいつ会へるか知れぬ友なれど涙ではなく笑顔で別れむ

## 様々な面から戦争を見る機会を得た

（拓殖大学　外国語　二年　池田智子）

以前から先の戦争に興味を持っていたので、合宿導入講義の東中野先生のお話しを真剣にお聞きした。教科書では教えられていないことや、一般には聞かされていないことなど様々な面から戦争を見ることが出来た。また、所懐発表の中田さんのお話し、長内先生のご講話に大変感銘を受けた。

レクリエーションは、とても疲れたが、その帰り道に聞こえてくる蟬の鳴き声が普段聞いているものと違って、一時の安らぎを私に与えてくれた。しかしレクリエーションの疲れの為か膝を痛めてしまい、最後まで参加出来ませんでした。申し訳ありません。

山もあり谷もありけるこの五日よくぞ過せしと吾が身労ふ

## 自分自身を考える貴重な経験をした

（拓殖大学　外国語　一年　野村優子）

合宿が始まってみると予想していた以上に驚くことが多く班員の意見を聞く度に感心し、意見の出せない自分を恥かしく感じました。二日目に入ると班員の人達ともうちとけて、友との出会えた喜びを感じられる様になり、少しずつ自分の意見を出せるようになりました。

この五日間で先生方の貴重なお話しをお聞きすることができ、新しい友達を得、自分自身を考えることが出来ました。大学生活最初の夏休みに、一生忘れられない貴重な経験をさせて頂きました。

合宿に不安と緊張かかへしも友の言葉に心なごみぬ

## 第二十二班―女子学生―

### 小川先生の言葉が心にしみた

（東京大学　文　三年　山口花子）

昨年の夏合宿では講義を通してたくさんの事実、考え方、思いを教えられ、とまどいながらも自分の国、日本の歴史と文化のすばらしさを感じました。そこで、今年の合宿に参加するにあたって、自分はある程度の知識を持っているのでやりやすいだろうと考えていたのですが、合宿に来てからその気持が思いあがりだったということに気付かされました。なぜなら、講義をお聴きすると自分の全く知らなかった事実を知り、先生方の日本への思いの深さに感動し、初参加の班員の皆さんの素直で純粋な意見に目のさめるような思いをしたからです。小川先生が「勉強することは大切だけど、知識を持って何かをおそわりに行くのは失礼だ」と言われたことが本当に心にしみました。

また班員の皆さんや班付の與島先生、班別短歌相互批評の折に班に来てくださった長内先生とのお話の中で、友人同士はもちろん、戦争や天皇、先人の方たちに心を開き、まごころを持って接することの大切さを学ぶことができました。

すばらしいお話を聞かせてくださった先生方、班別研修、特に短歌相互批評の時に素直で自分なりの意見、疑問等を活

慰霊祭の後の「班別懇談」。慰霊祭の感想、またこれまでの研修についての思ひを忌憚なく語り合ふ。

発に言ってくれ、うっかりものの私をささえてくれた班員の皆さん、その他たくさんの友人に感謝したいと思います。また来年、ぜひお会いしましょう!!

合宿につどひし友らと時を忘れ心開きて語る楽しさ

## 合宿で得たものは友達

（拓殖大学　外国語　二年　加藤紀子）

私はこの合宿に参加してみて、たくさんのことを経験しました。講義にしても、戦争についてなど聴いたこともないような内容のものばかりで、始めは戸惑いを覚えたものです。講義や諸先生方の言葉で理解できない部分もありました。世の中にはこう考える人もいるのかといった感じで、そういった人達に接して初めて知る考えの深さというものがありました。人の考えはそれぞれあるといったところでしょうか。

スケジュールの組み方はもう少し手直しした方が良いと思います。初めての参加者にとっては、かなりハードであるし、テレビなども見られないということから、非常に外部とのつながりをたっているような気がしました。電話にしても、十時半以降は使えないということは厳しいと思いました。

この合宿で得たものといったら友達です。同じ大学の子にしても、学科や学年が違っていてなかなか知り合えない子と話せたり、他の大学の人と友達になれて、いろいろな考えを吸収でき、有意義に過ごすことができました。私の中ではこのことが合宿での一番の収穫だと言えると思います。

過ぎ去ればあつといふ間の五日間新たな友と出逢へてうれし

## 一つの物事を考え抜くことを教わった

（拓殖大学　外国語　一年　関川香苗）

私がこの合宿に参加した理由は、他の多くの人とは異っていてとても不純で、全く何の知識もないまま始まってしまったといった感じでした。とりあえずここへ来るまでは〝何とかなるだろう〟という安易な気持ちで、友達とこれから始まる苦痛の日々を考えもせずやって来ました。ところが、合宿初日にして今までの私の生活とは無関係で私にとって無関心な講義を聴いて驚きを通り越してもう何も言えないような状態になってしまいました。班別の研修では自分の意見を求められ、あやふやな返事でごまかしていたのですが、それも二度が限度でした。というより、これほど自分の意見というものが大切で、即座に求められた時に簡単には出てこないものなのだということに気付いていなかった自分がとてもくやしく感じられたのです。そしてふといろいろと考えてみると、単に戦争のことだけでなく、日本国や天皇のことだけにかぎらず、普段の生活の中で私は自分なりに一つの物事について考え抜いたことがなかったのではないかと思いはじめました。いつも周りにいる友達や親の意見に流されていなかったか、わからない物事にぶつかった場合それに対してとことん考えてみたことがあったかなど多くの疑問を抱く結果となりました。

今、五日間の合宿を顧みて、決して楽しくはありませんでしたが、自分なりの発見もあって無駄ではなかったのかもしれないと思いました。

歌詠みに机かこみてみ友らと頭ひねりて笑顔こぼるる

## 「考える時間」が大切

（尚絅大学　文　四年　待鳥繁子）

今回この合宿に参加した私の第一目標は「とにかく世間を観る」ということであった。大学四年間あまり対外的な活動に参加したことがなく、このまま大学生活を終えていいのだろうかという思いにかられたからである。結論からいうならば、その目標は達成することができたといってもよい。そして更に嬉しく思えたのは友人、先生方の話を聞くことによって、又自分の意見を言うことによって、自分の考えを再確認し、深く掘り下げることができたということだ。

戦争のことにしても、今まで深く考えたことがないために、講義によっては私の理解能力をはるかに超えるので殆んどわからないといった結果に終わることも多々あった。しかし質疑応答や班別研修の時間を通して、一つの疑問について一生懸命考えることができ、要はその「考える時間」というものが大切なのだと気付いた次第である。講義はもちろん、ハイキング、短歌創作などを通して、初めて出合えた友人達と交流を深めたことは、なにより大きな収穫であったことを最後に記しておきたい。

四日目の午前、㈳国民文化研究会副理事長・小柳陽太郎先生により「天皇と国民―かへりこぬ人をおもひてうれひはふかし―」と題する御講義が行はれた。天皇と国民の間の心の通ひ合ひを御製を中心にお話しになり、昭和天皇の御製「未帰還者をおもふ（昭和24年）」について「戦後四年経ってもまだ帰国してゐないシベリア抑留将兵の身を思ふ肉親の情を歌ひ上げてをられるのです」と語られた。

和歌よみて心と言葉一致してそこに現はるるは我が心なり
合宿はいかなるものかと不安増し日の経つ程に喜び満つも

## 違った意見を主張しあうことはすばらしい

（拓殖大学　外国語　二年　梶原千恵子）

ここで一番印象深かったことは、みんなそれぞれが違った意見をもち、それを主張しあうことは、すばらしいと思いました。

四泊五日のセミナーで人間関係の難しさを知りました。

むづかしき人の心の裏表見る眼やしなはん今日の日よりは

## 本当の学問とは

（佛教大学　文　三年　三浦しのぶ）

初めての国文研の合宿に人との出合いを求めてきました。今回の御講義の中で一番心に残った事は長内先生のお話です。しかし本当に心に響いたのは四日目の班別短歌相互批評の時でした。長内先生に班に入っていただき小柳先生の御講義について感想を述べたのですが、「私には長内先生のように天皇陛下のことを〝天子様〟と心こめて本当に親しみを込めて呼ぶような気持になかなかなれない。天皇陛下の国民を思われる御心を知り、ありがたいなあとは思うのだが、長内先生のように実感のある言葉が言えない」というようなことを思いきっていいました。その時先生は「あなたは学んでいるつもりになっていて、本当には学んでなんかいないんだ」と言われました。「美しい景色を本当に美しいと思えるには心の中を真っ白にしてみなければならない。知識では人の心を動かせない」と言われました。私はその時、自分が学びを積みいろんなことを吸収してかえることだけしか考えていないことに気付きました。周りの人々の心を感じようとしていなかった、まごころのなさに気付きました。長内先生をはじめ諸先生方は全生命をかけて一言一言にまごころを込めて語って下さっていました。天皇陛下の御製の一つ一つの御言葉にもまごころが込められていて、私自身が感じようとしなければ何も生れないということを思いました。本当の学問とは自分自身の生き方を清く正しくしていくこと、まごころの生き方をしてゆくことだということを強く感じました。

学びとは生きる姿を学ぶとぞ師の御言葉に気付かされしも

## 好きなままの自分でありたい

（拓殖大学　外国語　一年　木村晃子）

私が十九年間生きた中で初めての人種に会った。私とは全く違った思考というか心を持っている人々である。私は単純なのですぐ信じきってしまう。三日目までは、自分の意見を言いながら他の人の考えにまどわされてしまう所があり、自分が自分でなくなってしまうと思った。幸いにも同大学の友達が多く来ていたのでどうにかならずにすみ、無事家に帰れそうでよかった。

今読み返してみてすごく失礼な事を書いたと思い言いわけ

をしたい。一つには、私は今現在の私が好きなので、こういった強制的というべき天皇思想をうえつけられたくなく、私が学びたいと思ったそういう時期までまちたいと感じるからだ。短歌に対しても自由に自分の心を詠めばいいはずなのに四時間もかけ推敲するのは私にとって苦痛以外のなにものでもなかった。私の心は私の言葉で表わしたいと切に思う。

（未熟者の良さを大事にしたいから）

先生方が自分にすごい自信をもっているのと同様、私は私が言う事に、考える事に自信をもつし好きなままの自分でありたい。

風にゆれる小さき白き山の花名をばなんとぞ問うてみまほし

## 同じ年代の人達の考え方に触れることができた

（東北女子大学　家政　三年　苫米地梨歌子）

この合宿に参加して一番良かったと思えたのは、同じ年代の人達の考え方に触れることができたということです。同じ年齢でもこうも考え方や視点が違うのかと感心すると同時に、自分の無力さを思い知らされました。これまで一つのことを一日かけて考え、意見を交わすという経験が無かったので、不安なものがありましたが、班員一人一人が私の想像以上のことを考え、新しい見方を教えてくれました。これまでありきたりの考えで通してきた私にとって班別研修は本当にプラスになりました。四泊五日という短かいようで長い合宿でしたが、強い日ざしと、蒸すような暑さに苦しみながらも

福岡県立春日高等学校教諭・奥島誠央氏による「創作短歌全体批評」。参加者全員の短歌が掲載された「歌稿」の中から数十首について、作者の心情や実際に見た情景に合ふやうに言葉を選びながら懇切に添削してゆかれた。

楽しい班員との生活を送ることができました。

今合宿を終え、この満足感を得ることができたのも與島先生を始めとする二十二班のみんなと、素晴らしい講義を聞かせて下さった諸先生方、真心を尽くして運営にあたって下さった役員の方々、そしてこの合宿を紹介して下さった我が東北女子大学の今村城太郎先生に心から感謝しております。

この合宿で得た少しの自信を今後の支えとして心の目を開き、広い心と思いやりを持って充実した日々を送りたいと思います。

合宿で学び得たのは知識より友と祖先の熱き思ひよ

## 第二十三班―女子学生―

### 「敗戦」が自分の問題として迫り心から実感した

（奈良大学　文　四年　藤本康子）

学生最後で就職活動と重なりましたが参加を決意し、よかったと思いました。長谷川先生の「敗戦の克服」から「敗ける」という言葉の意味、陛下や先人の御心を自分と離れたものと思っていたことに気づかされました。一人ひとりが「精神的なもの、正義をとり戻すこと」と言われ、「敗戦」が自分の問題として迫り心から実感することが出来ました。小柳・長内両先生の御言葉・姿勢・雰囲気に私達へ思いを伝えようという溢れる思いが痛いほど伝わりました。先生方の思いにお応えできる自分でありたいと思いました。合宿は生きる上でのしっかりした心の柱をうち建てていく糧になりました。

本当に有難うございました。

小柳先生・長内先生のお話しを拝聴して

若きらに語りたまひし御言葉の深さは痛く我が胸を打つ

慰霊祭

身を正し失せにし先人（ひと）の御心に応へゆきたし思ひ新たに

### 繰り返しの参加を願う

（主婦　工藤千代子　34歳）

御講義は全て素晴しかった。特に長谷川先生は身近な事柄から戦後思想の矛盾を見事に看破された。また紹介された写真から「しのびがたきをしのび」戦後を生きた人を思った。

小川先生は「千年の木を預かったら千年活かす」職人の誇りと、人を育てるヒントを多々与えられました。

今回は結婚・出産後六年ぶりの参加でした。以前は班長として全力で班友に対したのに今回は出来ませんでした。やはり班長は全力をぶつけていく学生がふさわしい。至らぬ班長を助けてくれた班友に感謝します。

結婚後、私は合宿での学びが生きているのを感じます。近所の人に、こちらが習いたいような美しいもの、真に日本なるものが発見できたり、家族がどんな心情でいるかを思いながら暮らすよう努めることなど、人として最も大切にすべき

ことを学びました。「賢母の多き国は最強の国」といわれます。いずれ結婚し母となる女性達よ、また合宿にご参加ください。繰り返しの参加で、さらに皆さんが「何を貫いて生きたらよいか」という確信を得られると信じます。

服部泰子さんへ

「班長さんつらくありませんか」と友どちの言の葉胸にしみてうれしき

故白井先生の横笛なき夜の集ひに

奏でたまふ横笛のなき集ひさびしとあたたかき先輩(ひと)はハーモニカ吹く

## 学びたいと思う心を忘れずに生きたい

（東北女子短期大学　生活　二年　若山亮子）

恩師の勧めで初めて参加し、講義についていけるか不安でした。予感は的中し班別研修でも思ったことをうまく伝えられないことを実感しました。

戦争、天皇陛下のこと、初めて真面目に考えることが出来てよかったです。参加していなかったら一生考えることはなかったはずです。もっと知りたいと思えることに、自分自身驚いています。

今回の合宿で色々な地域の人と話せたことも財産になりました。学びたいという心を忘れずに生きたいと思います。

ありがとうございました。

合宿三日目の夜

学びゆけどわからず悩む夏の夜の光る螢に心晴れゆく

カメラ・レポート24

短歌に詠まれた作者の思ひをくんでのユーモア溢れる輿島氏の批評に思はず爆笑する場面も。

## 班の人達と仲よくなれた

（拓殖大学　外国語　二年　佐藤　幹）

開会式から二日目までなじめないものがありましたが、班の人達とは仲よくなれました。五日間をふりかえると長く辛いと感じることもありましたが、短歌相互批評で、上村和男先生に「短歌の才能がある」と誉めていただいたのをうれしく思いました。第二回短歌詠草も頑張ります。

閉会式を前に
待ちに待ちし終（つひ）の日来りてふりかへり見ればさみしき思ひ我が胸に沁む

## 知ろうとする姿勢こそが一番大切

（中村学園短期大学　食物栄養　二年　平井　育）

先生の勧めでの参加でしたが、本当に来て良かったです。今まで習ったこととかなり違い、戸惑いや疑問、反発も出ましたが、五日間という短い時間が、大学生活以上のものと感じました。

講義で「作品を読まず夏目漱石論を読んでも漱石はわからない」といわれ、天皇陛下ご自身を知ろうとせずに否定し、天皇とはこういうものだ、と決めつけていたことを思いました。真実を見分けるのは難しいけど知ろうとする姿勢こそが一番大切だと思えます。他にも色々と大切なことを学びましたが言葉にできずにいます。話しを聴くだけでやっと、という感じでしたが、また機会があれば参加したいです。

感想文執筆
思ふこと言葉に出来ずメ切の時はせまりてあせりを感ず

## 「静かな誇り」を自分のなかに

（北海道大学　農　一年　服部泰子）

私の大学のマレーシアから来た友人に「日本について話してください」と聞かれ何も応えられない自分を恥かしく思っていました。でも合宿で御講義に胸が熱くなり、そう感じられる自分をすごくうれしく思いました。また、同世代で同じように感じている人や深く考えている人に感動しました。そしてどの先生方にも感慨深いものを頂きましたが、特に長谷川先生の「静かな誇り」という御言葉に感銘を受け、自分もそうありたいと思いました。最後に班長さんに感謝致します。班の為にあれこれしてくださいました。全体感想発表で司会をされたのに手を挙げずに終ったのが残念でした。先生方、運営の皆さま、そして出逢った全ての人々に感謝しています。本当にありがとうございました。

さまざまに尽くしたまひし先人と同じみ国に生（あ）れし喜び

全体感想自由発表
我こそと壇上に立つみ友らの姿りりしく頼もしきかな

## 班友に刺激を受けて

（拓殖大学　外国語　一年　平山尊子）

合宿が終わり、思いきり俗世間に浸ろう。でも多分たまに

ふとこの合宿を思い出すかも知れない。班別研修では班友に触発され発言もした。でも時折興味が失せていく自分が腹立たしくなることもあった。

人には色々な考えがある。様々な人の間で生きていくのは本当に難しいが、短歌相互批評は作った人の心を思いながらの作業が楽しかった。

友との別れ

み友らと別れ近づき七沢の緑も蟬の音も惜しみゆく

蟬の音のしげくなりゆく友らとの今日の別れを知るがごとくに

## 第二十四班―女子学生―

### 短歌を作るようになって、心が落着いた

（拓殖大学　外国語　一年　奈良　薫）

ぎっしりつまった日程表。覚悟はしていたが、予想以上に大変だった。部屋でも一番年下の自分は、うまくやって行けるかと不安だった。最初、戦争というテーマで、自分の意見が、年配の方とくい違い、否定され続けた事に、怒りを覚え特にこの班は五名という少人数なので、みんなカッカッし、理解されない気持ち、自分は正しいという自信で、お互い暑い中、熱のこもった討論になった。

短歌を作るようになって、心も落着き、班員とも色々言いあえる仲となった。第四日目の〝夜の集ひ〟では沢山の方々

「班別短歌相互批評」。友の作った歌を班員の皆で気持ちを推しはかりながらもう一度考へ直してみる。心と心が交ふ楽しいひとときだ。

と交流ができた。長い講義にもようやく慣れた頃もう最終日。色々な事を得ました。丸一日中、一つの事を、これでもかって位語り合い、自分の意見を発表する。こんな素晴しい機会は、めったにないと思います。ここで出合った二十四班の仲間、先生方、お友達、ありがとうございました。

良き歌を詠まむと思ひつとめしが我が見つむるは白き紙のみ

我が思ひ伝へきれないもどかしさ歯がゆいままに用紙みつむる

## 天皇陛下がなぜ敬われるのか、わかって嬉しい

（東北女子短期大学　被服　二年　今井しのぶ）

始め場違いな所に来たと思いましたが、日が経つにつれ、心が開かれ、きょう最終日にはとても良い思い出になりました。自分の気持ちを相手に理解してもらうのは本当に難しい事ですが、心を働かせる事によって、心が通い合い、友と本音で語れることを改めて感じました。もう一つ、自分の意見を述べるだけでなく、意見や講義を多く聴き、理解や疑問を持つ事も大切だと感じました。

私は天皇陛下の御製にとても感激し、涙を流しました。私の通った小学校中学校では、君が代を歌ったことがありませんでした。また、学校で学んだことやマスコミの影響で、天皇陛下は国の象徴であるだけなのに、なぜあんなに敬われているのかがわかりませんでしたが、この合宿教室に参加して御製にふれて、国民のため国のために祈られる切実な御心を知り、理解の手助けになって、とてもうれしく思います。参加してもう一つうれしいことがありました。それは良き友にめぐり逢えたことです。本当に多くの友と語り合うことができました。また参加する機会があれば、今度は喜んで参加したいと思います。

自らに素直にならうと思ふ日々こころ通はせ友と語らむ

## 歴史の真実を求めて

（九州大学大学院　比較社会文化　二年　松永典子）

この一年大東亜戦争についての本を読み、戦時中の資料を調べたりしてきたが、歴史の真実はなかなか現れて来ない。この合宿の前に送られてきた『日本への回帰』に目を通して尚更、私は混乱してしまった。何しろ、そこには私が真実と考えていたことを覆すようなことばかりが書かれていた。

合宿に入ってからの講義も納得できないことばかりだった。特に東中野先生のお話には、ことごとく疑問を持った。とにかく、私の歴史観に未熟な点があるのも事実だし、勉強不足の面もある。それでも一つだけ一致した見解を持つことができた。長谷川先生が、戦争を悪と考えるレベルにみんながまだ達していない、そこに至る道を模索している段階だとおっしゃったことを念頭に、更に、歴史を検討しようと決意した。

夏山にひととき涼を求むれば蟬時雨浴び心洗はる

## 古いイメージを取り払った歌を詠みたい

（桜美林大学　国際　三年　星野有佳子）

二年前とは違った気持ちで合宿に来ました。確かに祖父にすすめられて、半分以上、あきらめの気持ちだったのですがただ単に、義理がたつと思っていたわけではなく、来れば、自分の言いたいことを精一杯言えるし、少し自信が持てるかと思って来ました。

変わったねと言われると、照れくさいから、そんなことありませんと答えますが、二年も経っているのですから、色々なことも有りましたし、それなりに悩んだので、自分自身少し落ちついたつもりでいました。だから二年前の自分とどう違うか見てみたい気持ちもありました。歌やお話に感動はしても、まだ素直に受け入れられないところもあります。短歌は好きです。古いイメージを取り払った短歌を詠みたい。

眠れずに新しき友と語りしは今までのことこれからのこと

純粋なこころ持ちたる後輩に数年前の吾が重なる

澄みきった色のみ付かなむこの心汚れぬことをただ願ふなり

「夜のつどひ」では、各有志班、大学別、地区別に思ひ思ひの出し物が披露された。女子参加者全員による美しい合唱に、研修で緊張してゐた心も和む。

## 第二十五班―女子学生―

### 学ぶことの多い合宿であった

（拓殖大学　外国語　一年　高橋順子）

もともと特別な目的意識のないままに参加した合宿だったので初日の戦争の講義を聞いた時は本当にびっくりしてしまった。

一番印象に残った講義は竹内先生の講義だった。先生の短歌の中に心から子どもを愛する心情を読みとることができ、教員を目指す私にとって竹内先生は私の目標になったし、また長谷川先生の生徒の質問に一つ一つていねいにわかりやすく答える姿を見て私も教員になったらこうありたいと感じた。

四日目の班別短歌相互批評では拓大総長に来て頂いたこともたいへん貴重な思い出となりました。振り返ると本当に学ぶことの多い合宿でした。この合宿でえたものをこれから私の人生の上で大きく役立てたいと思う。

厚木での四泊五日つらけれど学びえたもの数多ありけり

### いつもなら経験できないことを経験できた

（拓殖大学　外国語　一年　村上尚子）

合宿がはじまって一日目や二日目は戦争のはなしばかりきいて、それについて討論して、いきなりどう思うかと聞かれても何も答えられないで、こんなのが五日目までずっと続いたらどうしようと思っていた。でもそんなことなかったし、だんだん楽しくなってきて、友達とはげまし合いながら頑張った。又班の人達も私の話が討論しなければいけないことから離れていてもバカにしないでちゃんと聞いてくれて嬉しかった。

短歌も作る機会なんて普通に夏休みすごしてたらなかったと思うし、この合宿はいつもなら経験できないことを経験できたから、いつか自分にプラスになると思う。

合宿を終へる心のすがすがしさよ確かにわれは変はりつつある

### キツイけど楽しい合宿だった

（拓殖大学　外国語　二年　西村久美子）

去年もこの合宿に参加したのですが、やはり今年も相当キツかったです。スケジュール的にもかなりキツイし、ハイキングなどもかなり疲れてしまいました。でも班の人達がすごく親切で班別研修などは楽しくやらせてもらいました。四日目の夜の集いも楽しく、かなり盛り上がったのでいい思い出になりました。講義などは難しくてよくわからなかった私ですが、五日目まで楽しんでやってこられたのは全て班員の人達のおかげです。本当に感謝しています。

友達に助けられての五日間楽しくやれて本当によかった

## 本当の日本人の心を学ばせていただいた

（実践女子大学　家政　二年　江副和美）

この合宿では班員の参加した動機も様々でありましたが、全員が〝心〟という面においては一致した意見があったように思います。初めて出会った友達とこのように意見が一致するというのはとても素晴らしいことだなと思いました。

私は長内先生がおっしゃられた「それぞれの立場、立場で真心を尽くすということが心豊かな国にもどすことに必ずなる」という御言葉が一番印象に残っています。この言葉を拝聴させていただいたとき、本当の日本の素晴らしさを学ぶのは第一に本来日本人のもっている心＝真心を知り、その心を自分自身がもっていくことから始めなければいけなかったのだということに気づきました。

長内先生の御講話をお聴きして

いつの日か真の日本にもどすため我は真心つくさむと思ふ

名越先生の朝の集ひでのお話をお聴きして

君が代の心を伝へたまふ師の熱き御姿すばらしきかな

## 自分のあり方を学んだ

（東北女子短期大学　保育　二年　中野渡　恵）

この合宿に参加して私が学んだものは「自分のあり方」であったように思います。心の持ちかた、事物のとらえ方について教えていただきました。

カメラ・レポート27

五日目午前、合宿運営委員長・山口秀範氏による「合宿を顧みて」。山口運営委員長は合宿全体を振り返られた後、合宿期間中、管理棟正面に掲げられた明治天皇御製「もろともに助けかはしてむつびあふ友ぞ世に立つ力なりけり」を紹介され、「合宿で培った友情をこれからも大切にしていって下さい」と述べられた。

中田先生や長内先生、もっともっとたくさんの心のあったかい人達に出会って、接していくうちに自分も優しくしていきたい気持になりました。やはり人間というのは心が一番だと感じました。でも人の優しさに慣れると、その優しささえ感じとれなくなってしまいます。いつでも常に「ありがたい」と思える気持を失ってはならないんだなと思いました。

ああ言ひてかう言ひてもなほ伝はらぬ心あふるる熱き思ひを

## 合宿にすんなりととけ込めた

（尚絅大学事務局　鈴木美和　23歳）

今回の参加は二回目であった。学生時代の頃とは少し違った印象を持った。当時は、何もかもが驚きの連続で「どうしてだろう」と考えこむことが多く、反感さえ持つこともあった。それが今回不思議なくらいにすんなりととけ込むことが出来た。講義においても、今の生活では絶対に語ることのない問題だった。今の私があるのは、祖父の代、父の代があるからだと感慨深く感じた。当り前のことだが、言葉で言ってもらって、目が覚めたようだ。社会人になり、自分で生活するようになって、特に両親の有難さを痛感した。合宿の全講義を理解することは出来なかったが、班長という大役につき、勉強させてもらったことは、これからの私の人生に大いに役立つことだと思う。

さはやかな緑の中を歩きつつアザミの色に心休まる

# 第二十六班―女子学生―

## 心に留まる言葉

（拓殖大学　外国語　一年　坂井恵美）

私はこの合宿を通して色々な事を感じました。一回目の班別研修の時、他の班員は考え、意見がスッと言えることにただ驚くばかりで、自分は何も言えずに終った感じがしました。でも日がたつにつれ、考え方の違いやどうしてもそうは思えぬと思うことがありました。それを伝えられず残念に思っている事もありました。でもなかにはいくつかとても良い言葉だなあと思う言葉がありました。そのことはちゃんと心に留めておきたいと思いました。五日間過して来て班員、会の人と必ずしも同じ考えにならなかった。けれどもそれだけではなかったんじゃないかと思いました。

家離れ初めて思はるるありがたさ父母の手許を遠くはなれつつ

## 自分を見直すよい機会

（中村学園短期大学　家政　二年　松本眞由美）

合宿に来てみたら班の友達はなじみやすかったが、講義の内容はびっくりするような事ばかりでとまどいを感じました。戦争の話、学校で学んだ内容をそのまま受け取っていた私には反発と納得といろ〳〵な気持になりました。班別研修

「全体感想自由発表」。次々に登壇した友らは、四泊五日の合宿教室で得た感動を湧き上がる思ひそのままに語ってくれた。

では先生方の話がとてもすばらしく、また班の人達の話を聞いているとこんな人もいるんだと視野を広める事が出来ました。同じ年代の人と一つの問題を心一つに語り合うことのなくなった生活、これから私が生きていく中で大きな出来事になると思う。自分を見直すよい機会になりました。四泊五日は長いようで短く、一番印象に残ったのは短歌作りのハイキングでした。合宿に来た動機はどうであれ、得られたものの大きさにいまとても心おだやかな気分になっております。

七沢の虫の鳴き声聞きながら友らと共に学ぶうれしさ

## 父母への感謝

（三井物産㈱　松山知香子　21歳）

今回の合宿に参加して本当によかったと思う。この五日間を通して学ばせていただいた事は数多く、中でもまごころを尽すという事を知識としてではなく体験的にわからせていただいた。

それは日本の精神がわかりかけたという事なんだと思ってみたりもする。私個人でない命の重さを改めて思った時、父母になんでもいいから一言感謝の言葉を贈りたいと思った。その事が本当にうれしい。他にも様々学んだ事はあるが、そうした事を今後いかに実践してゆくかが本当は一番大切だと思った。

語り合ふ友のあたたかなみ心につながる思ひ心なごむも

## 姿勢に表はれる人柄

（熊本大学　教　四年　松岡恵美）

班長をさせて頂き、多くの事を学び考へることが出来ました。山口運営委員長が「女子班の状況は今日の社会の縮図です」と言はれた。時代に対して憂ひはあるけれど自分の生活に安穏としてしまひがちでした。学んだことを如何に実生活で生かしてゆくかが、この合宿中の課題でした。最も心に残ったのは先生方のお姿でした。長谷川先生、長内先生、小柳先生、諸先生方の熱意を込めて語られるお姿に感銘を受けました。私はその一挙手一投足にその方の心が表れ語られる言葉が真実であるかどうかがわかると思ひます。長内先生が世の中の悪い事を人のせゐにしないで下さい。自分のやれることをコツコツとやって下さいと仰言った様に、日本の美しい文化を呼吸し自からの姿でもって表はしていけるようになりたいと思ふ。

班友の〝来てよかった〟の言の葉のこの上もなく有難きかな

## 多くの友達が出来た

（尚絅短期大学　事務局　西村幸恵）

私は今回の合宿参加を大変しぶっていました。先輩から話を聞きとてもついていけないと感じていました。七沢に着きもうどうにでもなれ、でもせっかく来たのだから、心を集中して居眠りなどするものかと思いました。最初の講義はただ

聞くだけ、しかし初めて聞く事が多く、こんなに何も考えずに今まで生活して来たのかと思いました。感動もせず、知識をつめこむだけつめこんで、点数だけを気にして学習していた十代がとても惜しく思いました。班の中の研修で同じ世代でこんなにも感じ方捉え方が違って来るのか自分が幼く感じました。寝食、学習を共にし私は最高の友達に逢う機会に恵まれました。つらい合宿教室と覚悟して来たのに、新しく出来た友達のお陰でとても楽しかった。皆様に心から御礼申し上げます。

七沢でともに学びし友どちは別れし後も忘らえぬ友

## 考え方の相違

（拓殖大学　外国語　一年　広瀬奈穂）

合宿に参加して、いろいろ異った考え方の人が多く、話し合いしてもかみ合わないことが多かった。いままでこんなにも考え方の違った人と話し合った事はなかった。勉強になったと思う。

## 自由時間がほしかった

（拓殖大学　外国語　二年　矢能宏美）

つまらなかった。何でも班別行動で自分の時間というか、自由時間がほとんどなかった。指揮班がすごく嫌だった。

せみの声夏の暑さをかきたてる涼しき秋の待たれぬるかな

カメラ・レポート29

閉会式で学生を代表して挨拶をする東京大学文学部三年の山口花子さん。「二回目の参加で自分の思ひ上りを思ひ知らされましたが、班友の素直な心に触れて、また来年も参加する意欲が湧いてきました」と語ってくれた。

## 第二十七班―女子学生―

### 日本のいのちを感じた

（中村学園大学　家政　四年　松隈香代子）

私はこの合宿に来て、とても大切なことを学んだように思います。それは、家族のなかで育くまれる真心という、本当に強くてあたたかい日本人の生き方でした。

先生方のお話をお聞きし、今の私達は戦後の「日本のいのち」を絶たれた環境の中で育ち、何も知らずに生きているのだなあと実感し、少し恐しい気もちがしました。そう思ったとき、先生方が私達に伝えようとされたのは、先生方の心の中に脈々として生きている日本のいのちだったんだなあと思いました。

私も天皇陛下の真実のあたたかいお心や、老人の方達の誠実な生き様を心に感じながら人にも伝えていける自分になりたいです。又たくさんの命ある文章に触れていきたいです。

全体発表することができて

思ふこと言ひおへしとき緊張のとけて笑顔のもどりてくるかな

### 事実を事実として捉える目を！

（九州大学　教　三年　重松はるみ）

戦争のことについては祖父から度々話を聞かされていました。しかしそれが現在普及している世論とはあまりにも異なっているため、一体どの情報を信じ、それをどのように解釈したらよいのか途方にくれることがありました。

けれど先生方の御講義をお聴きするうちに、何か考える糸口がつかめたような気がします。大切なのは真心であり、誇りであったのです。国のために戦うということは、親兄弟を愛する心や母国の文化に誇りを持つことなしには出来るものではありません。とても感性豊かな人間的感情が必要なのです。それなのにどうして日本が戦争に負けると掌を返したように戦死者の方々を、まるで冷酷非道な殺人者のように扱うのでしょうか。このような恩を仇で返すような仕打ちは、人間的感情の欠損であり、恥ずべきことなのです。侵略戦争云々以前の問題です。

私たちは安直に物事に善悪の判断を下し、一刻も早く自分の身の安定を保とうとする傾向があります。しかしそれよりも、本質を見極め、事実を事実として捉えることが出来る目を養いたいと思います。

ほとばしる想ひ伝へむふるさとのアッツ桜の花咲く庭に

### 充実感でいっぱい

（拓殖大学　商　三年　田中千晶）

合宿に参加する前は不安で一ぱいでしたが、班の人達がとてもいい人達で、すぐに打ちとけることができ、不安は一気にかき消されました。

また先生方のお話も、予想していたよりはむずかしくなく、自分の戦争についての日本に対する考え方が徐々に変わってゆき何ともいえない感動を覚えさせられました。

その他、ハイキングやみんなで推敲した短歌作りなど楽しい思い出もたくさん出来て、五日目をむかえた今の私は、充実感でいっぱいです。本当にこの合宿に参加したことを良かったと思っています。

友どちと枕をならべて語り合ひし合宿も早や五日たちたり

## 心の勉強を深めたい

（東北女子短期大学　保育　二年　石川益子）

今までの講義や班別研修などでお話をお聞きし、ずいぶんと考えを改めさせられたり、自分の無知に気づいたりと、多くのことを学ぶことができました。特に戦争に対する自分の考えが本当にマイナス面ばかり持っていましたので、講義を聞いているときは信じられない思いでいっぱいでした。そのことを班でみんなや徳永先生といろいろ討論していくうち真実にふれ、いくらかゼロに近づけたと思います。ふだん考えてもみないことを考えて、難かしかった面もありますが、とても良い経験ができました。これを機により一層、心の勉強を深めたいと感じております。

こちこちと時計の針の動く音に友との別れ近づく覚ゆ

主催者を代表して㈳国民文化研究会副理事長の上村和男先生が「祖国再建の道を次の世代に引き継ぐことができるやう努めてゆきませう」と語られた。

## 新しい自分を発見した

（拓殖大学　外国語　一年　片岡幸子）

合宿の初日は、この五日間は我慢して講義をうけなければならないと思い、辛い気持ばかりでした。しかし、そのような考え方で過ごしていたら自分が疲れるだけだと思い、少しでも何か自分に得られるものを見つけ出せたらよいと思い直しました。ふとそう思った一瞬、気分的に楽な気持でいる自分に気づきました。

講義は今までほとんど勉強したことがないような事ばかりでしたが、思ったより素直に戦争の話しや短歌作りに取り組め、自分なりに考えることができました。そのように学べたことに自分自身驚いています。また班で五人のよい友にめぐり合えたことに喜びを感じています。

語り合ひ共に過ごせしみ友らの優しき思ひに感謝わきくる

## 真実と真心を見つめたい

（㈱東芝　丹羽冬紀子）

合宿は去年に続き二回目の参加です。私はこの合宿が大好きです。なぜなら、私達には知らされなかった過去の歴史の真実を諸先輩方から伺うことができるからです。そういうお話を聞かせて頂く時、日本人の精神の奥深さに触れ、なぜか胸の中が熱く温かく懐しい安らぎに満たされるのは私だけでしょうか。けれど、そういう真実は、私が目を凝らし耳を澄まして心を寄せなければ本当に知ることはできません。とても難しいことだけれども、これからもできるだけ真実と真心を見つめるよう心がけていきたいと思います。そしてできるところから私もそれを伝え語っていけるように努力します。

朝空に掲げられたる日の丸を昔の人はいかに見給ふ

# 第三十一班―社会人―

## 改めて大東亜戦争について認識を深めた

（元小鳩グループ本部専務　小馬谷秀吉　69歳）

今回で五度目の参加ですが、その都度違った感銘をうけ、私にとっての良いみそぎとなりました。終戦五十年目の合宿教室で改めて大東亜戦争について認識を深めさせられました。全体研修でも学生諸君のきちんとした質問を聴いていて涙の出る思いでした。長内俊平先生の御講話も圧巻でした。若い人への語りかけですが、私への忠告の様に受けとめさせられました。小柳陽太郎先生の〝天皇と国民〟の御講義も、しみじみと日本国民としての自覚を促させられました。学生の受講態度にも厳しい指摘をされながらの講義でしたが、私は爽快さと共に、この様な指摘ができなくなっている世相への警鐘の様にも感じさせられました。合宿の成果は全体感想発表のそれぞれの発言にもちりばめられていると思いました。

研修を終へたる朝の七沢の鶯の声を朗らかに聞く

## 「日本人の血」が受け継がれている事を確認出来た

（出光興産㈱店主室　行成俊光　41歳）

終戦五十年にあたり、講義もそれにあわせた形で行なわれ、私の問題意識を涵養されることとなり、非常にすばらしい内容で参加して良かったという思いでいっぱいである。

今年の阪神大震災では罹災された方々の秩序ある行動に対して各国マスコミは日本民族の意識の高さに称賛の声をあげた。又、若い人たちにも〝何かをしなくては〟〝何か出来ることはないか〟という気持を芽生えさせたと思う。合宿の中でも各講師の先生の想いに心を働かせて壇上で自由発表をしている青年の姿に接し、「日本人の血」は祖先から脈々と受け継がれている事を改めて確認出来た事が大きな収穫であった。来年も是非参加し、自分自身を高めると共に、よき先輩、友、そして言葉を見いだしていきたい。

敷島のこころをもとめて本（ふみ）にむかふ友の姿を頼もしと思ふ

## 心を働かすことの大切さを教えられた

（福岡県立春日高等学校　豊原晋一　38歳）

私も社会科の教師として生徒たちに出来るだけのことを伝えたいとの思いは強く、自分なりに書物にも接しておりましたが、何かが足りないと悩んでおりました。それは心を動かす、心を働かすということだったのです。私はこの合宿を通

京都大学総合人間学部三年・庭本秀一郎君の「閉会宣言」により、合宿教室は全日程を終了した。

して、その大事なものを教えられたように思います。とにかく知識だけではないのだということです。国文研が短歌の創作を重視している意味も合宿に参加してみて理解できたように思います。私にとって短歌創作はなかなか苦痛でしたが、少しでも心を開いて、自分を飾らず誠実な生き方をしていくためにも、気持を素直にして、これからも短歌を作ってみようかなと思っています。多くの人との出会いがあり、得難い体験が出来て、参加してよかったという思いでいっぱいです。

## 天皇の御製に感動した

（佐野日本大学高等学校　荒木敏幸　25歳）

八月四日からの五日間は、私にとっては新鮮なことばかりであり、「大東亜戦争」についても、私が学校教育で習ったものとは相反するものであったと思います。その中で私が一番感動を覚えたのは天皇の御製でありました。古典を学び、指導もしておりますが、これ程の感動を覚えたことはありませんでした。お歌を読んだ時、胸が熱くゆさぶられる感じがして涙がこみあげてきました。天皇の国民をお思いになるお気持ちがひしひしと伝わってきたように思います。慰霊祭でも同様の気持ちになり私は自分が日本人で本当によかったと思いました。自分の気持ちを伝えることの難しさを実感しましたが、更に精進し、日本の文化を後世に伝えられるよう頑張りたいと思います。来年も是非参加したいと思います。

慰霊祭に参加して

ありし日の友を偲びて思はずも心ゆすられ涙こみあぐ

## 目の前が開けた

（亜細亜大学学生部　山田健一　48歳）

約二十年ぶりの参加でした。輪読がなくなっているなど、若干の時の流れを感じさせることがあったにせよ、期待どおりの五日間を過ごさせていただきました。

①教える、教わるは甘えにつながり良くない。何も教えない。しかし見守っていて本当に教わりたいと思った時に仕事を与える。②個室は良くない。集団生活をさせよ。③感じ方は皆んな同じでなくとも良い。仏さんを見たら美の対象として批評するのではなく、手を合わせるような人間がいてもよい。（以上、小川三夫先生のお話から）最も私自身が悩んでいたところであり、示唆を受けた気がします。目の前が開けました。厚木市七沢自然教室の皆様に厚く感謝申し上げます。食事もお心遣いが感じられ大変おいしくいただきました。

夜の集ひにて

若き友ら見守る中を声あはせ「進めこのみち」うたふはうれしき

師と友と声をあはせてうたひつつ胸高まりて声はふるへぬ

こころざしを受け継ぎ伝ふと心こめ歌うたひけり最後の夜に

## 民族の正義を主張し続けることの大切さを痛感

（航空自衛隊航空教育隊生徒隊　村山寿彦　57歳）

天候にも恵まれ実に快適な良い研修が出来ました。

長谷川三千子先生の負けて不正のレッテルを張られても、民族の誇りを失ふことなく負けた側の正義を持ち続けることが敗戦を克服することだとの御指摘からは、勝者の正義に踊らされて混乱してゐる日本の現状を見るにつけても、負けた側の正義をしっかりと検証し主張し続けることの大切さを痛感させられました。小川三夫先生の無垢で素直が一番といふ言葉も、宮大工の棟梁といふ先生の口から聞くと又違った新鮮な説得力と重みをもって伝はってきました。

これからは合宿で学んだことを生かすためにも知恵を身につけ、先人の思ひを胸に抱き続けてゆきたいと思ってをります。

海ゆかばこゑ高らかに唱ふなりたふれし人の思ひ偲びて

## 第三十二班―社会人―

### 学生とも話したかった

（八王子税務署　宮本久暢　21歳）

初めての参加で、とても緊張しながら自然教室へ参りましたが、到着したのが一日目の午後八時頃でしたので、東中野先生の講義を聴くことができず残念でした。もう一つ残念だったのは同じ位の年代の学生と余り話せなかったことです。ですから、同じ機会があれば学生とも話したいと思います。

別れの時は来た。「お元気で！また会ひませう」送迎バスに乗り込んだ友らを暖かく見送る。

この合宿で気になり、注意した方がよかったなと思ったことが一点ありました。街中でも学生の常識のなさには、うんざりしていたのですが、この合宿で更にそう思いました。

それで演壇から知識や知恵よりも、まず常識を身に付けるようにと呼びかけたのです。

私は「コツコツと一歩ずつ努力する」という自分の信念に、再度自信が付きました。

先達の話を聴きつつ刻々と過ぎゆく時を惜しくぞ思ふ

## 「深耕」という学び方をしたい

（出光興産㈱　山田幸治　35歳）

昨年に続いて二度目の参加ですが、今回も全日程を通じて祖国日本に対する限りない愛というようなものが感じられ心安らぐのを覚えました。そして、日本について広く浅くしか学んでいなかったことに気付かされました。長内先生が「素戔嗚尊（すさのお）様とはどういうお方かと聞かれたら諸君はこう答えるだろう」と仰有られた浅薄な例の答えを思い浮べていたからです。いまだに詰め込み型で、要点のみを表面的にピックアップすることで満足していたのかも知れません。仕事が忙しいとか家庭サービスが大変とかの理由で心を働かせる勉強をしていなかったのです。来年までには「深耕」という学び方に挑戦して祖先の素直で瑞々しい心を実感し、行動のドライビングフォースとなるようにしたいと思います。

慰霊祭にのぞみて

かしこみて祭場前に立ち並び御霊安かれとひたに祈りぬ

## 太古からの日本の心に接した

（㈱近藤フィリップス　豊澤邦雄　43歳）

戦後日本の先の大戦に関する扱い方についての講義は貴重な知識となりました。また天皇陛下の御歌の味わい方の講義についても感謝しております。

小川三千夫棟梁を合宿に招聘できたのは国文研の誇りではないかと思います。単なる講演会で拝聴するのではなく、このような合宿であればこそ、一層の魅力溢れるものとなったように感じられました。日本の太古からの知恵、その心の一つ一つに接することが出来て感謝に堪えません。

しかしマイクでの発声技術、講演表現の錬磨等、もう少し若者を惹きつける工夫は可能ではないかと思います。ただ、がなり立てるだけと感じたものもありました。

斑鳩の匠の御姿御言葉は大和の国のこころなるらむ

## 日頃の疑問を拭い去ることができた

（東北女子大学　藤田明治　45歳）

日頃の疑問を拭い去ることができた、この研修はまことに忘れがたきものとなった。これで、今まで受けてきた疑わしい教育の悪弊を排出できるだろう。また、男のロマンの極みともいえる職人の生き方、棟梁という厳しくあらねばならぬ仕事の半面にある思いやりのかけ方など、自分では体験不可

能な世界を垣間みることができ、男子たるべき姿も教えられた。もうひとつは今まで会ったこともない人に会い、良き友人に巡り会ったという邂逅のすばらしさに感動した。

これからは、残された時間で、自分の能力を至難なる真実の宣揚と祖国平穏のために使うつもりである。

末尾ながら、この研修を運営して下された若き諸士に心からお礼申し上げます。

国思ふ若き力か野太くも広場に響く頼もしき声
山路ゆく親子をみても思はるる今健やかに吾子はゐるかと

## 日本の良さまで捨てている現状

（厚木市教育委員会七沢自然教室　鈴木茂樹　46歳）

四十代も半ばとなって、自分がよくわからないままに私を育ててくれた祖父母、父母の生きてきた時代を思うことが増えてきた。戦争に負けて自信を失った日本人は、捨てなくてもよかったものまでも捨ててしまった。日本古来の伝統、文化、芸術、職人の技、美しい日本語などすばらしいものであったことに気付く。世界的に情報化して行く中では、マスコミから送られてくる情報を基にして真実を知るためには多様な情報を取捨選択することが必要で、その情報処理でうんざりし、マスコミに疑問を持たざるを得なかった。

このような時に合宿に参加して、真実を知るためにはもっと努力が必要だと再確認した。片寄った情報だけでなく、いろいろな立場からの客観的な情報にやはり説得力がある。情報の処理は常にロジカルであるべきで、情報に流されてはならないことを思った。

次に小川さんのお話を伺って、日本にはまだまだ技の世界、職人芸の世界が残っていることを実感できた。個人のレベルでもあのように古来日本の世界に生きている方を知り、大変嬉しかった。これは私には最も興味深いお話だった。

つきつめて語らひゆけば夜も更けて熱き思ひに月見上げたり

## 亡き弟を思って参加した

（デリカショップ谷原屋　島崎　忠　51歳）

弟が亡くなって十年の歳月が流れました。毎年、東京大神宮の慰霊祭には参加しておりまして、いつか合宿に出席したいと思っており、その事が今年の夏になった訳ですが惣菜業を個人経営していますので休むのが大変でした。家族の間では母と妻が、今更合宿などと言う事でしたが、弟が三十一歳で逝くまで国文研で学んでいた事は、どのような事だったのか少しでも知る義務のようなものがあるのではないかと思い、心を決め参加した次第であります。

参加して本当に良かったの一言ですが、国文研の皆様の日本国及び日本国民を心から愛し、また天皇様の今日までの在り方を尊敬されている様が胸に伝わって来るようでした。それに、わからないなりにも学生諸君が戦争の事、天皇様の事、短歌の事等を一生懸命に勉強して、最後の日に感想発表された姿には心がうたれました。

七沢のレクレーションに張り切りて帰り来たるもそのまま伏しぬ

「だいじょぶか」とのぞきこみつつ班友の声かけくるがうれしかりけり

寝てをれど慰霊祭こそ行かねばと思へて急ぐ広場への路

## 安易な勧誘の域より脱する努力をしたい

（BBS金明　中田一義　50歳）

国文研担当の方々の尽きせぬ御配慮に何一つお応えできなかった事を恥じております。学生の方々に如何に受けとめてもらうかが大事なのに、ただ参加してくれればよいとの安易な勧誘の仕方の域より脱しきれずに、地元での月例輪読会も岸本に頼り、自らの積極性不足を痛感しておりましたが、その結果が出てしまいました。

来年以降の勧誘の為に九月より毎月自ら語らいの場を設け、それを継続して「各々が学生生活の意義や将来に対する具体的な生き方を共に語って行けば、その中より国文研合宿参加の価値も見出してくれるはず」との思いでやってまいりたいと思います。

今林兄からもご指摘いただきましたが、学生への資金援助のやり方も考え直します。こちらが思いやりのつもりで気遣い過ぎても相手によっては甘えを募らせるという結果が残ってしまうかも知れません。必ずや「楽しく元気の出る合宿」と受けとめられる学生参加人数を増やしてゆきたいと念じております。

笑まひつつ語れる友の言の葉に我が身の未熟さ思ひ知らさるる

# 第三十三班―社会人―

## 己の至らなさを気付かしめられた

（神奈川県立秦野曽屋高校教諭　原川猛雄　47歳）

今年の合宿も自分の至らなさを気付かされた合宿であった。班別の短歌相互批評では、班員の方々から、表現の不正確さを指摘され、なる程と思った。自分では気付いてゐなかったことが相互批評を通じて分り、表現の未熟さと共に物の見方の好い加減さが理解されて自分の姿勢が正されていくやうに思へた。短歌といふものは本当に自分の姿を正直に現はすものだといふことを改めて痛感した。今後は折にふれて短歌創作に努めることを自分の課題としたい。

合宿参加者にとっても、三日目の短歌創作を体験した上で四日目の天皇の御歌のご講義を聞けたことは良かったと思ふ。

社会人班の班長として至らなかったことが多く、班員に迷惑をかけ申し訳なかったが、班員の協力を得て、お蔭で和やかに研修ができたことを班員に深く感謝したい。

井上桂さんの大学の恩師が死去なされ、四日目の夜帰宅されしに

卒論でお世話になりし師の君の八十路を越えてみまかりましし

四日間を寝食ともに過ごしたる友帰り行くは寂しかりけり

## ゲンちゃんに思う

（宮崎神宮　須田明典　37歳）

小川先生のお話に「ゲンちゃん」という人物が登場した。頭脳の方はあまりパッとしないが（ゲンちゃんによると、英語の成績は1ではなく、本当は0だそうだ）、ゲンちゃんがいるだけで現場の雰囲気が和むのだという。大学を出た弟子達の大工仕事の第一歩はゲンちゃんから教わる刃物研ぎだ。しかし、その大学を出た弟子達は何時までもゲンちゃんの仕事にはかなわない。それは彼らが手を動かす前に、頭を働かせてしまうからだそうだ。

小川先生は、人間は純粋で無垢なのが一番だと言われた。自分なりにゲンちゃん像を思い浮かべてみると、そこには今の自分が失ってしまった姿がある。自分は余りにも知識や理屈に偏ってしまっている。ゲンちゃんのように生きていきたい。自分は気を張らずに人生を全うしたいと痛切に思った。

全体自由感想発表を聞きて

若者は声つまらせつつも懸命に慰霊祭での思ひを語りぬ

## 友に再会し、又新しい友を得た

（㈱増田分析センター　徳富太郎　42歳）

私はこの合宿を心の支えと心得ています。そしてこの合宿で掛けがえのない友との再会ができたことに加えて、新しい友を得たことを深く感謝しています。

ただ、国文研の方、合宿を運営をされた方々に申し上げたいことは、講義を真面目に拝聴しない学生に対しては、もっと厳しく対処しても良かったのではないかと思います。

大君のやさしきみこころしをりとし日々つとめなむみ国のために

## 学生に訴えることを明快に

（亜細亜大学　情報システム部　寺尾浩一　27歳）

合宿教室の参加者の中から、最近の学生は勉学意欲に乏しく、学習態度も悪いという意見がありました。合宿運営をされる方々にお願いしたいことは、合宿で学生に訴えようとすることをもっと明快にしていただきたいということです。

現在の学生は素質としては非常に良いものを持っていますし、講義の内容も素晴しいものですので、もっと学生に興味を持たせるために、講義の手法について一工夫していただきたいと考えます。

志高くぞ持たむ明日よりはコンピュータとの日々に返るも

## 周囲の人々が新鮮に感じられた

（自営業　今村　曙　51歳）

この七沢の合宿に参加し、心が日増しに広くなってゆくような感じがしました。

学生達の純真な心、そして先生方の真摯なお姿、それに講義に真剣に取り組んでいる一般の人達、その全てが新鮮に感じられました。

私にとっては、日本の歴史に対する今迄の考えを改めて、新しく整理し直さなければならないという気持が湧いてまいりました。

歴史を有りのままに受けとめ、史実を丹念に辿るということが大切なことであると覚らされましたことは、自分の日常生活においても全てに通じることであると考えさせられました。

我もまた源ちゃんの如く生きたしと酒汲み交す友に語りぬ

## 何かが少し変った自分になった

（厚木市立七沢自然教室　井上　桂　43歳）

初めてこの合宿に参加しました。以前合宿に参加した同僚から色々と聞いてはいたもののやはり不安はありました。合宿が始まり、班員の方々の多方面での活躍に裏付けられた意見に感心することばかりで、段々と班別研修が楽しみになっていきました。

この三月迄教職にあった自分にとって興味深かったのは、講義・講話です。講師の話し方、学生達への接し方それぞれ大変参考になりました。特に小川三夫先生、長内俊平先生には感服いたしました。やはり最終的には、その方の「生きざま」なのだろうなと思いました。

そして、歴史の認識には多面的な見方が必要なのだということも再確認しました。

大学の恩師の告別式のことを和歌に詠んだ自分は、今迄にない自分です。何かが少し変ったようです。

恩師の訃報に接し、後髪を引かるる思ひで合宿地を後にし告別式に参列して

師の君は真白き菊に囲まれて今は静かに笑み給ひけり
霊前の遺影を見つつ想ひ出づ師と歩きたる信濃連山

# 第三十四班―社会人―

## 合宿で学んだ事を職場で生かしたい

（乃木神社　松吉宣和　56歳）

班長という大役を与えられ、既に社会人として活躍し、責任ある立場にある人々と共に語り、意見を出し合い、戦後五十年に当り粗筋ながらも討論が出来たと思います。

更に私達先祖の残した功績があってこそ現在がある事に感謝し、夫々の職場で正しい史実を互いに勉強し、日本人として恥ずかしからぬ国人でありたいと願い、この合宿で学んだ事を生かし、一人でも多くの方々に傳えたい所存です。

われゆかば人もゆくらむ皇國のただひとすぢの平らけき道
（乃木希典）

班長の重きつとめを果たしけり班員各位の助けのありて

## 日常の中で本研修で得た事を活かしたい

（学校法人拓殖大学　服部朋秋　35歳）

小生、本合宿初参加、平生聴く事の出来ない貴重な御講話、講義を拝聴し、大変有意義であった。合宿後も更に研鑽し、自らに言い聞かせ頑張ると共に、日常の中で本研修で得た事を活かしてゆきたい。素直な心で人に接し、常に「敬」を忘れず、日本文化の発展に邁進してゆきたい。特に短歌創作を通じて日本古来の文化に触れた事で「歌心」の重要性を痛感させられました。

又、班別研修など、全般を通して志を同じくする多くの友人を得、満足度を高められ、今後この友人関係を一層実りある強固なものとするよう努めて行き度い。

天地の恵みならむか吾もまた集ひ来たりぬ七沢の宿

## 大切な事は金ではなく心を働かせる事

（出光興産㈱　広島秀明　39歳）

私は、この合宿参加で五回目である。毎回感じることであるが、心が洗われたような気持で終了日を迎える。これはこの合宿が、生活の上での基本的姿勢はどうあるべきか、という点について、じっくりと考えさせてくれるからだと思う。豊かな物にかこまれた今の生活は、心の面では決して満足できるものではない。金銭には換算できないものこそ我々が最も大事にしなければならないものであると思う。

仕事に没頭していると世の中すべてがお金で換算できるように思い込む。然し一番大切な事は心を働かせるということである。その事を再確認できた。今日から小さな事を何か一つ生活の中に新たに加えて実行していくつもりだ。

お金では買へないものの中にこそ心を伝ふることのあるらむ

## 自分の中の国家を再確認できた

（自営　谷山良太　44歳）

雑誌「諸君」を見、講師名にひかれ申込みました。

昭和四十一年、九州佐世保より岐阜県の全寮制の学校に入学、入学式の折、校長先生は、「諸君は安保を護持したまへ」と、その成り立ちと意義を説き、そして「皇恩」を説かれました。その時、僅か十五歳の私を大人として扱ってくれたと深い感動を覚えました。この時初めて自分の中の国家観と天皇観に目覚めました。それから三十年、今合宿で御製の格調高い調べ、両陛下の御心こもる和歌に接し、涙が溢れ出、自分の中の国家を再確認する事が出来ました。

すめらぎの御製（みうた）にこもるみ心に涙あふれ来吾はますらを

## 教科書、マスコミで隠された部分を勉強できた

（日本植生㈱　小竹守敏彦　35歳）

戦争に至るまでの経緯、その後の占領政策について、教科書、マスコミ報道で、意識的に避け、真相は霧の中に隠れている感がありましたが、当合宿の講義、班別討論を通じその

部分を勉強でき嬉しく思いました。

又、合宿を通して、自分の無知を実感し、今後は、戦前の事、皇室の事を勉強していきたいと心に誓いました。

七沢で熱き思ひを語らへば時を忘れて夜はふけゆく

## 参加して〝ほんとうに良かった〟

（青森県教育振興会　原子昭三　68歳）

かねてより長内俊平先生から誘われていた国文研の合宿セミナーに参加できたのは〝ほんとうに良かった〟と思います。

その第一は素晴らしい人にお会いできた事です。名越先生、関正臣さん、岩越さんや白浜さん、まさかと思う人々にめぐり会えた事、地元弘前の東北女子大から七名も参加していることはほんとうに嬉しかった。第二は講義の内容、特に、宮大工の小川三夫先生と長内俊平先生のお話が感銘深かった。徒弟制度における人間教育の素晴らしさ、反対に知育偏重に陥っている現代教育の欠陥を痛感させられた。本合宿の特長は短歌創作を必修としている事、青山先生や小柳先生のお話を聞いて益々その大切さを痛感、自分も短歌の勉強にもっと力を入れねばならぬと感じました。

潮風のつよき南の海原に戦艦大和は永遠に眠れる

## 先祖があって今の自分がある

（㈱エイコー　向笠（むかさ）　修　34歳）

この合宿に参加して自らの勉強不足に驚きました。特に感じた点、一つは、日本がきっかけをつくりアジア各国を独立に導いた事、次には、百二十五代にわたる天皇は国民を我が子のように思い気付かってこられた事です。これらは日本人が誇りに思わなければならない事でしょう。先祖がいらっしゃったからこそ、国があったからこそ、天皇がいらっしゃったからこそ、両親、家族があるからこそ、今の自分がある。これらの方々に感謝し、尊敬し、過去から現在まで温い人間味を持った、感性豊かで情緒あふれる日本人、その素晴らしい歴史を更にすばらしい日本にする為、私は頑張ります。

# 第三十五班―社会人―

## 念願の合宿参加はすばらしい体験の連続でした

（奈良市役所　生駒　聰　43歳）

ここ数年来の念願が叶ひ、合宿に参加することができ、あっといふ間のすばらしい体験の連続でした。

東中野先生をはじめ長谷川、国武両先生の講義を貫くものは、日本人としての誇りとまごころに溢れ、「無私」となったときに初めて国民同胞の一体感が生まれるものであると確信しました。

今回の合宿では、和歌創作にあたっては、感動を素直に表現すること、また、御製を拝誦し続けることが志の継続になること、を改めて再認識することができました。

運営に当たられた方々に感謝します。合掌

待ちに待ちし今日七沢の合宿に君が代歌ひて涙あふるる

ひぐらしの聲のひびかふ七沢の尾根より見れば街ひろごれり

「海ゆかば」友らと共に歌ひなば英霊浮かび涙こみあぐ

上弦の月の下弦となりたれば別れはさみし七沢の宿

## 体験を通して語られたことに感銘を受けた

（NTT　LSI研究所　竹田忠雄　44歳）

合宿では、まず形から入り、それに伴う心の働きを参加者自身に実体験してもらおうという配慮がなされており、すばらしいことだと感じました。

講演等で感銘を強く受けたのは、長内先生のご講話の中で、二十歳頃の自分は今の自分より純真であった、という自戒を述べられ、若い方々に体験を通して語られたこと、それに、三名の方々の体験発表でした。班別研修では、班長を始め皆さんとても率直に話され、楽しく行うことができました。また、班付きの松吉さんには歌の添削指導だけでなく、多くの事を学ばせて頂きました。知人がたくさんできた事もありがたいことと感謝しています。お世話下さいました皆さんに改めてお礼申し上げます。合掌

大山の麓に集ひし友達と語り合ふ日の短かかりける

## 一人でも多くの愛国者が育ってほしい

（福井大学　荒木哲郎　47歳）

二百四十名の参加者が四泊五日真剣に講師の先生の話を聴き、討論し、学んでおられる姿に感激致しました。若き学生が、日本の歴史、日本の心を学び、目覚め、涙を流す姿は美しく、一人でも多くの愛国者が育ってほしいと願わずにはおられません。

親に感謝できる素直な心は、日本人として国を愛し、陛下を敬い、神をしのぶ心に通じると信じます。私達は日本の建国の素晴しい理念を世界に示していく使命があると思います。一人一人が、その自覚に目覚め、各々の所において日本の本来の姿、古来の精神を復活することに立ち上がらなくてはなりません。志を同じくする者達が集いて、日本を変える力になる日を願っています。

母と子が岐阜に集ひて語らひて涙流せし親子の縁

## 自分の人生の検証であった

（㈳福岡県中小企業経営者協会　小早川明徳　50歳）

戦後の歴史と共に私自身の人生がある。今回の合宿参加は自分の人生の検証であり、未来へ展望を拓く研修であった。

敗戦病の克服は歴史の検証であり、東京裁判の見直しが大事であることを教えられ、戦争に行った人の体験談でそれを裏打ちして頂いたことに感銘した。

天皇さまのご心情を御歌を通して知ることは、わが国の国体を理解する上に不可欠なことであること、作品を読まずしての作家論、御歌を知らずしての天皇論への警告に、改めて「学び方」を深く示唆して頂き感激させられた。

そして、自然界の法則、木が持つ特性、その使い方が人間社会と余りにも共通性があり、酷似していることは深く心に銘すべきことであった。

最後に、初めての和歌創作そして相互批評。作り方の極意は、無垢で素直が一番いいと学んだことは大収穫であった。

先輩に学びし和歌の創作は無垢で素直がかなめなりとぞ
未帰還者をおもふ御製を拝して
すめろぎの「ただ待ちに待つ」てふみ言葉の深きおもひに我は涙す

## 〝生き方〟についての勉強が出来た

（日本植生㈱　藤嶋泰良　33歳）

参加当初は班の構成メンバーに少々戸惑いを感じました。なぜなら、年齢差があり、有名大学の先生等のメンバーの中にあったからです。しかし、その点は今から思えば大変私にとって勉強になったと思います。様々な考え方が直接聞けた点、また、私の意見を聞いて頂き、それに対して議論をして頂いた点があり、私自身、この五日間で成長出来た様な気がします。講義の内容についても、私が日頃より会社で教わっている内容とほぼ同じ内容であった点は私自身正直言ってほっとしたというのが本当の気持ちです。

小川先生、長内先生の講話から〝生き方〟についての勉強が出来た様に思います。生まれて初めて短歌を習い、またその短歌から天皇の御気持が今の時代でも伝わると言う点に感銘を受けました。今後は自分の心を素直に歌にして行きたいと思います。

志同じく集ひし友どちと七沢に学び心満ちたり

## 小川先生の人材育成法に學ぶこと多大であった

（二十一世紀教育開發研究所　秋元正明　64歳）

昭和四十二年第十二回合宿教室（阿蘇）以来、二十八年振りに參加する機會を得て、誠に感慨無量である。毎年八月上旬に開催される、良識ある教育者による「日本教師會全國大會」が八月下旬に延期されて、參加することになった。

期待して拝聴した宮大工小川三夫先生の「木のいのち木のこころ」には絶句！　修業時代を克服されての人材育成法に學びとること多大であった。そして、「千年の木には千年の風格がある」と言ふ確信から、知識を超えた鍛錬の重みを感じとる。

「戦争と天皇」に關する大学生の疑問と不満は、彼等の受けた小・中・高校教育の歸結と言へやうか。マス・コミと學校教育の弊害からの脱却にこそ、「敗戦の克服」の道が見出されるものと確信する。

阿蘇以來再び仰ぐ恩師の目優しく我を迎へて潤む
今の世のただすさみゆく國の様に涙し語る師の聲嚴し

## アッツ島玉砕将兵に対する陛下の御言葉に涙した

（三菱重工業㈱　島津正敷　51歳）

社会人班の班長を担当させて頂いた。班員の皆さんは各人とも合宿の趣旨を十分承知され、出来るだけ多くのものを学んで帰らうと考へてをられる人ばかりだったので、学生班を預かった時と比べると導入教育の時間を全く必要としない程であった。研修中も話がはずみ実に楽しく過させて頂いた。班員の皆さんは皆、今後の勉強の為にと、沢山の国文研図書を買ひ込まれたのには正直嬉しかった。班員の皆さんが持つ共通の本が増えれば増えるほど、物の考へも共有できるからである。今後が楽しみである。

小柳先生の「天皇と国民」の御講義では、アッツ島玉砕将兵に対し、最早届かぬことを御承知の上で「それでもよいからよく闘ったと打電してくれ」と杉山参謀総長に命じられた陛下の御言葉には涙を禁じ得なかった。

小柳先生の御講義「天皇と国民」を聞きて

班友（とも）どちと講義に出で来し御製（みうた）をば声高らかに拝誦するなり

誦しをればみ国を守りし沖縄の人の姿のひたにしのばゆ

# 事務局―アルバイト―

## 父にお礼を言いたい

（慶応義塾湘南藤沢中等部　三年　山口蝶子）

今年は去年の二倍の人がアルバイトに来ていたし、二年目ということで仕事も楽しくできました。事務局でほとんど休まずに一生懸命お仕事をしていらした方々のお手伝いが少しでもできていたのなら、とてもうれしいです。一日中、夜遅くまで本当に御苦労様でした。

またこの合宿につれてきてくれた父にお礼を言いたいです。毎日一緒に仕事をしてきたお友達にも会えて本当にうれしかったです。充実し、楽しかった五日間が終ってしまうのが、とても悲しいです。来年も是非また参加したいと思っています。みなさま本当にありがとうございました。

七沢ですごした楽しい五日間夏が終ればおもひでとなる

来年も逢はうと友と約束しわかれを惜しんで帰りゆくかな

## みんなで歌えてよかった

（川島町立西中学校　三年　小林紘子）

私は今回、初めてこの合宿に参加しました。最初は何が何だか分からなくて、おどおどしながら受付をしました。でも受付を一緒にやった方々が優しくしてくれてだんだん安心し

ていきました。思っていたより大変な仕事が多くて大変だったけれど、みんなと話をしたりして仲よく出来たのでよかったです。

色々な方たちのお話や、いつもテープで聞いていた祖父の講義も実際に聞けてとてもうれしかったです。祖父の話は、とてもおもしろくて何回も笑いました。最後の夜の夜の集いも、アルバイトの六人と祖父たちとみんなで歌えてよかったです。この五日間で色々な人たちも仲良くなれ、優しくしてもらって本当に楽しい合宿でした。

最終日できたばかりの友達は我を残してバスに乗りこむ

## 友達と再会できた嬉しさ

（大妻嵐山高校　三年　小林祐子）

今回の合宿のアルバイトは三年目でしたが、そこで会ったのは、去年や一昨年共にアルバイトをした友達でした。嬉しさで緊張も何もありませんでした。しかし、以前のようにしゃべることができるだろうかととても心配になりました。私がどうしようと思っている時に、話しかけてきてくれて、私の嬉しさは、倍になりました。

中学三年の妹も来ました。妹には祖父がどんなに私達の事を思っていてくれるかを早く分かってほしいです。厳しさも私達を思っていてくれるからこそだという事も。でも今回の合宿で少し感じてくれたのではないかと思います。そして、私は、もっと妹が自慢できるような姉になりたいと思いました。

祖父がゐて妹のゐる合宿で楽しき日々はたちまち過ぎゆく
ともどちととまどひながらも出た舞台思ひ出一つ増えたと思ふ

## 人のやさしさに触れた

（東京大学教育学部附属高校　二年　伊藤千代子）

一人で知らない所で、知らない人と一緒に五日間を過ごすことは、人見知りする私には大変なことだと思っていました。しかし、着いたその時から、同じアルバイトの人に親切にしてもらい、話しかけてもらって安心し、同時に感謝しました。また、学生の方や、国文研の方とも話をすることができ、人のやさしさにも触れることができ、とても嬉しく思います。

また、長内先生の御講話をうかがって、両親のありがたさがひしひしと感じられたのを強く印象的に思い、今までの自分を見直し、両親に心配をかけないように、これからも生きようと思いました。地下鉄の駅でのお話も同様に感じ、私を変えてくれそうです。

長内先生の御講話をうかがって
両親の己れへの思ひ知りてから計画しける家出を中止

## 年の差を越えたすばらしい友を得た

（日本女子大学附属高校　三年　金剌博美）

今回は二回目なので、一昨年の経験を生かし手早く仕事を終えることができたと思います。そしてその結果、一昨年は

自分のことに精一杯で回りを見ることがほとんどできませんでしたが、今年は自分もいくつかの講義をちゃんと聞くことができたし、他の学生の方々や国文研の方々が熱心に勉強していらっしゃる姿を見ることもでき、とても勉強になったと思っています。

また、今回アルバイトには中三高二高三という全く学年の違う六人が参加したため、年の差を越えたつながりができたと思います。アルバイトを通して私も良い仲間を見つけることができました。今回の合宿での経験を生かして、残り少ない高校生活を充実させたいと思います。

高校の最後の夏に得たものは年の差こえたすばらしい友

## 来年は学生として参加したい

（日本女子大学附属高校　三年　青山詩野）

私は今回の合宿で、努力することの大切さを学び得た気がします。書籍販売の時、財布の中身を気にしながらも、先輩のすすめに耳を傾けて購入する学生の姿が見られました。書籍の値段は決して安くないのに、自分の心の財産を増やそうとするその姿に心打たれました。また、見返りを期待せず、ただひたすらにこの合宿の成功のために働く国文研の方々には尊敬の気持を抱かずにはいられませんでした。アルバイトとして参加したため、多くの講義は聞けませんでしたが、小さな発見も私には感動を呼び起こしてくれたような気がします。学生として参加するには自分の強い意志と向学心が必要だと思いますが、それを養いつつ機会があったら、是非合宿に参加させて頂きたいと思いました。

長内先生のご講話をお聴きして
先生の熱き語らひ身にしみて心打たれて鳥肌の立つ

# 写真班

## シャッター音が僕の宝です

（九州造形短期大学　写真　研究生　松本篤士）

なかなか厳しい日程でしたが、なんとかこなすことができました。各先生方の講義も聞けましたので、たいへん良い経験となりました。

数多く撮影した写真を参加者の方々に見せることができるよう何か対策を考えてほしいと思います。

皆と過した四泊五日、一つ一つのシャッター音が僕の宝です。ありがとうございました。

最終日の夜
わづかでも刻のながれよゆるやかなれ唯それだけを祈る我かな

# 合宿中に創作された「短歌詠草」

## ――しきしまのみち――

# 短歌創作について

この合宿教室では、例年、主催者を含めて参加者の全員が、短歌を作ることにしてをります。これは、この合宿教室の大きな研修課題の一つであり、今回も多くの短歌が創作されました。

短歌は、現代においては、人々の日常生活には馴染みの薄いものとなり、文学的趣味の一つとしてしか受け容れられなくなって了ってをります。従って、この合宿教室に初めて参加する学生青年諸君にとって、短歌創作に当惑するのは当然であり、かなりの負担でさへあるかに見受けられるのですが、合宿日程を追ふにつれ、自らの心の動きを言葉にすることのむづかしさ、まごころの籠った言葉の奥深い味はひを多少なりとも体験して行く中で、次第に、その意味が把握されて行った様に思はれます。

そもそも日本人は、千数百年の昔から、「万葉集」に見られるやうに、あらゆる身分階級の人々が、学問知識の深浅、老若男女の相違を越えて、五七五七七の定型の中に、折々の自己の思ひを素直にうたひ上げてきました。自己の内心を赤裸々に和歌の上に表現することは、同時に厳しい内省を伴ふものです。いはば和歌創作の過程で、厳しい心の鍛錬が行はれるのです。そこで私達の祖先は、和歌を詠むことを人生の修業の一つの手段と考へて「しきしまの道」と呼んできました。日本人は、和歌を歌ひ交すことによって、人間にとって最も大切な心の働き、情意を厳しく鍛へ合ってきたのです。現代の教育では知識の集積や論理の整合に重きが置かれ、人間にとって最も根源的な心の問題が等閑にされております。本合宿では、かうした現代教育の束縛を自ら感知し、そこから一歩でも抜け出さうとする営みが、この短歌創作とその後の参加者同士の相互批評によって集中的になされてゆきます。心の奥底に眠ってゐるまごころを呼び覚まし、人のまごころに敏感に感じる、素朴にして溢れるやうな人間性を取り戻さうとする試みが、細やかながらも実現されてゆくこの貴重な経験は、参加者全員にとって、忘れがたい印象として心の奥深く刻み込まれるに違ひありません。

合宿三日目の午後、戸田建設㈱青山直幸先生により短歌導入講義がなされ、短歌を作る上での基本的ルールが指導されま

した。その後の森林公園ハイキングを終へて夕刻までに各人が創作した短歌が提出されました。慌しい日程の中で生み出された短歌ではありますが、作者の集中された内心の働きが端々に表現されてをり、作歌上の巧拙を越えて、強く惹かれるものが籠ってをります。提出された短歌は、直ちに国民文化研究会会員による選歌・ガリ切り作業を通じて翌日には歌稿となって参加者全員に配布されました。この歌稿をもとに福岡県立春日高校教諭・與島誠央先生によって、和歌全体批評がなされました。ユーモアを交へた御話の中にも一語一語に含まれる作者の心を全身をもって偲ばれ、直されてゆく姿に、参加者は相互批評のあり方を自然に感得したのでした。

短歌創作と相互批評により互ひに友達の心に触れ合ふことが出来、合宿生活において寝食を共にし、胸中を披瀝し合って来た友情の結び付きが、一段と深まって行くことが確認されました。かうした短歌創作を通して展開された、日常生活にはまことに稀な精神生活の体験は、参加者ひとりひとりに、言ひ知れぬ喜びをもたらすことになりました。

ここに収録された数々の短歌は、その表現形式においては稚拙であるかもしれませんが、参加者各々の切実な情意の率直な表白であり、この合宿教室を通して提出された感応相称の世界の一大交響曲と言ってよいかと思はれます。これらの短歌の中に瑞々しい魂の響き合ひをお汲み取り下さればと念ずる次第です。

# 短歌詠草（しきしまのみち）合宿第一回目の創作作品（参加学生の第二回目の作品は感想文の末尾に収録）

## 第一班

大阪外語大卒　福田　仁
戦に敗れし民も五十年を経て振り返るべし自らの正義を

亜細亜大法二　黒須　武士
青々と緑の繁れる山道を歩みて行けば心和みぬ

青山学院大経営一　河野　敬之
灼熱の日差しのもとをてくてくと歩きし山路大地の香り

中央大法一　橋口　英明
寝ころがり煩悶しつつ辞書を繰り初めて出来し短歌嬉しき

福井工業大工一　高橋　豊和
鳥の鳴くこもれびの道歯を食ひしばり汗をかきかきひたすら歩む

拓殖大外三　小笠原　敏昭
ぢりぢりと流るる汗を感じつつ我が宿までの道のり思ふ

東京工科大工二　石澤　寛
合宿に連れくだされた先輩の後輩を愛する真心を知る

## 第二班

日本大法四　澤部　和道
食堂に遅れ来たりて入りしがうれしきことに班員の待つ

拓殖大外一　立久井　謙治
蟬時雨友と語らふ昼食は自然の中でさらにおいしき

日本大文理三　石井　信博
全国より友らが集ふ厚木の森に語り合ふこと楽しかりけり

富山大工三　新保　良成
山道を歩きつつまはりの木々を見て小川先生のお話うかぶ

中央大法一　草地　良宣
木もれ陽に夏を感ぜし我が影は谷間へ入りて映えにけるかも

防衛大理工二　前田　哲矢
夕暮れて若き乙女のうるはしきうなじを見つめる我に気がつく

## 第三班

熊本学園大商四　喜多村　純
新しき出会ひに期待をふくらませ送迎バスを足速に降りぬ

関西大商二　酒井　拓也
ふるさとを遠く離れて来し土地に友らの声に心安まる

拓殖大外三　小林　広幸
夏合宿短歌書かうとするけれど考へあぐね時間たちける

拓殖大外一　小泉　直哉
大自然の中歩きすぎ汗したたり塩の塊（かたまり）になるごと覚ゆ

西南学院大経二　小　島　尚　貴

幼き日我を包みし山の香はどこへ行くとも変はらざりけり

早稲田大法一　井　上　護

暑き日に汗ぬぐひつつ山道を歩む自分を思ひ返さむ

金沢工業大工一　小　林　一　成

深緑の中につつまれし山道も暑さ気になり風流感ぜず

## 第四班

国民文化研究会　久保田　真

「今日は」と明るき声で語りくる友の笑顔の輝きてあり

一年の時はたてども輝ける友の笑顔は昨日のごと

早稲田大政経四　田　中　裕　一

ゲームの折

歳の差も乗り越え心通ひたるこのひとときのありがたしと思ふ

富山大理一　本　守　宏　基

七沢で手に入れたる搭乗券あとはこれを無駄にせぬだけ

防衛大理工二　末　原　都志実

座るたびはしる痛みに思ひ知る未熟な我の膝の傷かな

慶応大文一　松　原　央

山道を語らひながら歩みゆけば汗の中にも学ぶことあり

鹿児島大法文一　西　真佐人

レクレーションよかつたことはよかつたがそれより何より暑さが勝つた

拓殖大外二　大　沢　道　雄

七沢を汗水たらし登れども頂につけばすばらしきかな

## 第五班

国民文化研究会　松　井　哲　也

だまりをりし友もみづから思ふこと語りてくるるがうれしかりけり

思ふことうちつけに語るところより学びの道ははじまるとぞ思ふ

亜細亜大経営一　中　台　研　悟

疲れたる我が身ささへて歩きつつ我が宿なりと歩幅広げつ

桜美林大経四　庄　嶋　健

夏のころ友をさがしに山に入りまくらを並べて語り合ふ夜

福岡教育大教二　宮　原　和　久

疲れたる吾の体を休めんとあたりを見れば木かげを見つけし

明治大商四　澤　部　直　彦

合宿で知らぬ道路(みちぢ)をひた歩く新たな友と話し合ひつつ

新潟大農二　片　山　吉　人

話聞きて敵に向かひて勇ましく刀抜く祖父脳裏に浮かぶ

拓殖大外一　小　磯　好　輝

山道を歩いて汗をかいたあと仲間と入る風呂はかくべつ

## 第六班

国民文化研究会　北　村　公　一

学び舎に着きしころには汗にまみれ足もこはばり息も上がりぬ

日本文理大工四　鐘　築　光　昭

木がしげり風の通らぬ山道をタオルで汗をふきつつ歩みぬ

拓殖大外三　鍋　島　祐　一

山林を友と語らひ歩くとき昔の匂ひほのかにかをる

山口大経一　重　松　邦　昭

夏の山長らく続く坂の道走りて帰る自然教室

亜細亜大経営一　肥　沼　祐　一

今までに学んだものとの隔たりにわれの内心微妙に動く

新潟大工二　井　口　良　之

ハイキングつかれあらはれ元気なく言葉も忘れひたすら歩く

東京大法三　室　　健二郎

山道を足元みつつ登れどもまだまだつづく帰り道かな

にくき蚊とパチンとやりてみてみれば哀れなる小虫弱りたるかな

## 第七班

早稲田大教四　鈴　木　由　充

色かへぬ松のごとあれと民草にさとし賜ひし御歌畏し

訃報ありて急ぎて帰る班友の道中無事にとただ祈るなり

京都大総合人間三　庭　本　秀一郎

自らの感ずる心に素直ならむとたをやかに言ひし君が思はる

すれ違ふ通りがかりの家族連れとかはしてうれし「こんにちは」の声

琉球大工一　今　村　　卓

日中のハイキングにて疲れしも友と入る風呂の心地良さかな

拓殖大外一　林　　耕　次

講義聞きみんなはあつく語れどもぼくは夏バテ何も語れず

新潟大教一　中　野　周　作

おはやうと元気にあいさつされるけれどねむけまなこの我は声出ず

東京大工三　松　岡　　勲

だんだんと近づいてくる開会の宣言くちでくり返しつつ

## 第八班

亜細亜大法四　丸　山　忠一郎

暑き中カメラ抱へて爽やかに走るよ君は前後左右に

高野山大文二　廣　石　宗一郎

長い様で短いといふ日一日時気になりて時計に目をやる

拓殖大外二　薬　丸　賢　吾

一日の疲れを風呂で流しつつ鏡にうつる己をほめる

拓殖大外一　島　田　匡　康

班研修他人の意見聞くたびに知識のなさをあらたに感ず

香川大農三　百　瀬　広　淳

締切りの時刻迫れど歌詠めず流れる雲を羨ましく思ふ

金沢工業大工一　石　原　義　郎

木の間よりさしこむ光あたたかく自然のめぐみをうけた一日

法政大経一　土　生　直　樹

静かなる誇りを持てといふ先生の御言葉胸に刻み込みけり

## 第九班

国民文化研究会　絹　田　洋　一

学生時代にお世話になりし先輩の名前見出し心をどりぬ

先輩の面輪うかべつつ部屋に向かふ歩みは知らず早まりてをり

第一経済大経四　田　町　康　貴

どうやつて作ればいいかわからずにただひたすらに指で数へる

鹿児島経済大経一　吉　福　浩　介

夏空のおほやま広場で久々にながせし汗は実

に爽快

熊本大教四　上甲能也

師の語る「大和」の戦ひありありと己が心に甦り来る

金沢大文二　熊谷真利

「強制はいけませんよね」と君が言ひ「いやまったくね」と我が言ひけり

日本大農獣医三　安東高明

昨年の感動胸に朋友(とも)つれて今年も来たりぬ学びの場に

先帝の民に願ひし御心の深き願ひに我感動す

## 第十班

国民文化研究会　藤新成信

戦ひにやぶれし国のかなしみを思へばかなし「美しき青きドナウ」

亜細亜大大学院一　荒川雅之

ジャンケンに勝ちてしまひてチームメイトを何度も走らせすまなく思ふ

わづかなる差にて一位はのがせども二着になりて嬉しく思ふ

拓殖大外一　宮内一浩

何もかも初めて出会ふものばかりとまどひかくせず我は孤立す

同志社大文二　船井隆作

ひさかたに汗をかきたる吾なればけふのシャワーはまさに極楽

国学院大文三　高澤一基

燦々と暑き陽の中進み行き木蔭に入ればここちよきかな

朝まだき窓ゆ眺むれば半旗たつ広島に消えし人の思はる

福井工業大工一　久保博之

一日中一つのことを考へるその難しさ改めて思ふ

日本デザイナー学院グラフィック三

安部雅俊

出発の頃より友と笑顔出し語りあひたる事ぞ嬉しき

## 第十一班

国民文化研究会　神谷正一

戸狩での合気道合宿を終へ醒めやらぬ眼をこすりつつ二人(ふたり)なる後輩(とも)らとともに戸狩を出でぬ

疲れたる体ではあれど厚木での合宿を思へば気も引き締まる

初めての参加の後輩(とも)らと合宿の如何なるものかを語るは楽し

懐しき景色も見えて七沢に近づきたれば心弾みぬ

拓殖大外三　赤堀晶

真つ昼間汗をにじませひた走る恋しく思ふ宿舎の畳

福井工業大工二　増村博文

宿につき風呂に入りて飯を食へど歌の内容今だ決らず

拓殖大外一　春日強志

本当の自分の意見をさがしつつみつからぬまま途方にくれる

海上保安大四　行地明男

夏空のおほやま広場の東屋に集ふ人々いと微笑ましし

東京法律専門学校一　浜田和彦

真実を探る姿勢の大事さを師は心から皆に語りぬ

## 第十二班

国民文化研究会　白濱裕

粗末なる衣まとひし少年の焼き場に立てる写真(うつしゑ)かなし

背に負ひし眠れるごとき幼な児は命絶えにし

弟といふ
かなしみに耐へて奥歯をくひしばり真直ぐに立てる少年あはれ
いとけなき少年なれど面輪には不屈の闘志の漲りて居り

横浜国大経営四　野　崎　　譲

思ふこと自分の言葉にならなくて苦しさ感ずる班別研修

大阪府立大工三　小　池　隆　寛

なつのそらただぼんやりと見上げればいちはのとりのとびゆくが見ゆ

佐賀大理二　本　庄　寛　行

敗戦の苦難にめげじとふ思ひ持つ子の写真見れば我が身正さる

東京電機大理工一　田　原　誠一郎

宿につきシャワーをあびて横になる小さくなりゆくセミの声かな

富山大理一　加　藤　俊　輔

暑き中合宿所にて床につく耳をすませばただ蟬が鳴く

拓殖大外一　川　根　勝　治

その長き道を思へばひしひしと忍ばれる姿ぞ思はるるかな

## 第二十一班

早稲田大教三　伊　藤　佳　恵

〝頑張つて〟運転手さんの一言に心新たに励まされたり

拓殖大外一　山　上　鮎　美

坂道を歩き歩きて汗流るせみの音聞こえ心は涼し

拓殖大外二　池　田　智　子

疲れたなあ友とぐつたり帰り道つかれをいやすせみの声かな

拓殖大外二　内　田　陽　子

陽のあたる頂上で食べる弁当に幼なき頃を思ひ出す吾

亜細亜大国際関係一　山　川　かなめ

夏の午後うだる私にひとときの暑さ忘るる花火の誘ひ

拓殖大外一　野　村　優　子

木々の中一人たたずみ思ふのは我が身育てた両親の顔

中村学園大家政二　前　田　美　幸

植木なれど見慣れた葉だと近づけば水につかれる稲の葉なりけり
ふるさとの稲はいかにと真夏日の父母のいたつきとともに思ふも

## 第二十二班

東京大文三　山　口　花　子

ハイキングコースの急な坂道の疲れも忘れ友と語りぬ

尚絅大文四　待　鳥　繁　子

戦ひを日頃思はぬ我心講義をききて省る吾

拓殖大外二　加　藤　紀　子

山道で偶然出会ふ人々の笑顔でわかる心と心せみの声夏を感ずる風物詩人の心をなごませるなり

東北女子大家政三　苫米地　梨歌子

日ざし浴び目覚めぬ体引きずりて坂道下る足の重さよ

拓殖大外一　関　川　香　苗

ハイキングかかる暑さの午後なれば涼しき部屋にて今残りたし

拓殖大外一　木　村　晃　子

こんなにもきつい山道歩むなら眠い目こすり講義聞きたし

佛教大文三　三　浦　しのぶ

今日出逢ひし見慣れぬ顔のともどちと心開きて語りゆきたし
様々な想ひ抱きて集ひ来しともらと共に学び

深めむ

## 第二十三班

国民文化研究会　工　藤　千代子

山内健生先生夫人・故恭子様、白井傳先生を偲びつつ

子ら三人残せし夫人ありみ病の奥様置きて逝きし大人あり

島崎忠様ご参加

急ぎ逝きし君が御魂は兄上の集ふをいかに喜びたまふか

拓殖大外二　佐　藤　　幹

涼風の中を吾が友と歩きけりはずむ会話に疲れ忘れつ

拓殖大外一　平　山　尊　子

暑さゆゑもう帰りたいと願ひつつふと見た空に涼し気な青

東北女子短大生活二　若　山　亮　子

炎天下歩きつづけて疲れてもすがすがしさよ忘れぬ思ひ

北海道大農一　服　部　泰　子

消灯で布団の中にもぐれども友との語らひつきることなし

奈良大文四　藤　本　康　子

なかなかに会へぬと思へばどうしても友の部屋へと足がむかへり

中村学園短大食物二　平　井　　育

歩いてもまだまだみえぬ頂に動かぬ我が身をもどかしく思ふ

## 第二十四班

桜美林大国際三　星　野　有佳子

若くして戦地に消えし多くの命悼む心を持たうと思ふ

東北女子短大被服二　今　井　しのぶ

森林に歌声響かせはつらつと心が開ける吾ここにあり

拓殖大外一　奈　良　　薫

耳澄まし虫の声々聴き入りて指ををりつつこの歌作る

九州大大学院二　松　永　典　子

幼な子の小さな網に麦わら帽思ひ出づるは遠き夏の日

## 第二十五班

尚絅大職員　鈴　木　美　和

何気無い会話の中の一言に友の優しさ心にしみる

拓殖大外二　西　村　久美子

息切らし汗を流して昇つた後は葉月の青空目にしみ入るも

拓殖大外一　村　上　尚　子

夏の道歩き感じるこの疲労昨夜の夜ながを切に悔みぬ

拓殖大外一　高　橋　順　子

じわじわとにじみ出る汗かきながら聞く風鈴の音のすずしさ

東北女子短大保育二　中野渡　　恵

ほほ流れしたたる汗をぬぐひつつ小鳥の声に暑さを忘る

実践女子大家政二　江　副　和　美

小川先生の御講話をきいて

今もなほ飛鳥の塔をささへつつ生きける木々のいのちにうたれり

## 第二十六班

熊本大教四　松　岡　恵　美

長谷川先生の講義をうけて

学生の述ぶる意見に真剣に身をのりだして耳かたむけらるる

うなづきつつ一つ一つの質問を聞きてメモとり答へらるるも

中村学園短大家政二　松　本　真由美

蝶が二羽たはむれ遊ぶ姿見てそのなごやかさ暑さ忘るる

尚絅短大事務局　西　村　幸　恵

食とらず苦悩重ねる短歌創作顔を上げれば仲間もそこに

㈱三井物産財務部　松　山　知香子

我が命賜りし意味を改めて思へば尊き父母がほほ笑み

拓殖大外一　広　瀬　奈　穂

人の意見聞けば聞くほど考へるこれでよいのか私の人生

拓殖大外一　坂　井　恵　美

山登り若いがなぜか足進まずまだかまだかと愚痴ばかり出る

拓殖大外二　矢　能　宏　美

ハイキング先の見えない山道をどこまで登ればたどりつくやら

## 第二十七班

中村学園大家政四　松　隈　香代子

あたたかきみこころあふるるみ友らの笑顔を見れば力湧きくる

拓殖大商三　田　中　千　晶

炎天下心ウキウキハイキング七沢の山に友の声はずむ

国民文化研究会　丹　羽　冬紀子

にぎやかな歓声の後草の上蜩の声胸に浸みわたり来る

九州大教三　重　松　はるみ

七沢の澄みわたりたる青空と樹々の緑に目のくらむ心地す

東北女子短大保育二　石　川　益　子

七沢の急な坂道辛くとも友の励まし力になりけり

拓殖大外一　片　岡　幸　子

みなの顔汗をかきつつ笑ひ声共に過ごして思ひ出づくり

## 第三十一班

国民文化研究会　村　山　寿　彦

木もれ日のさす山道を友どちと語らひつゆくは楽しかりけり

一歩一歩落葉ふみしめ登りゆく我らがうへにせみしぐれふる

国民文化研究会　山　田　健　一

写真「弟の死」を見て

口むすび背筋伸ばして直立す少年の姿に誇りのみなぎる

父母（ちちはは）はいづこにおはすや十歳の少年は背に弟を負ふ

小鳩グループ本部　小馬谷　秀　吉

丹沢の山懐の教室に友よの声に誘はれ来たり

一年に一度のみそぎ老われの合宿教室五度となれり

五十年経し敗戦を語り合ひ世代のへだたりつなぎてうれし

出光興産㈱　行　成　俊　光

渡されし資料をあけてまづ名簿前回知つた友らを探す

福岡県立春日高校　豊　原　晋　一

合宿に初めて参加してみれば真面目な姿勢に驚きにけり

七沢に集ひ来たりし若人の真摯な瞳輝いて見ゆ

佐野日本大学高等学校　荒　木　敏　幸

七沢の夏合宿にいざ行かむ不安と期待に胸ふくらませ

## 第三十二班

国民文化研究会　中　田　一　義

〝中田君早くてわからないよ〟と師の声に思ひ起せし妻の言葉を

早口で言つてもどなたもわからぬと見送りし妻の気遣ひ思ふ

厚木市立七沢自然教室　鈴　木　茂　樹

七沢の湯舟でゆきかふ郷里ことばとまり木の小鳥にもどきたるらむ

国民文化研究会　島　崎　　忠

今はなき弟の友の講義聞き胸のつまりて涙ぐむなり

東北女子大学学生課　藤　田　明　治

国思ふ若き力や頼もしく不思議なる時使命ある君

出光興産㈱　山　田　幸　治

わが国の正義のために戦つた英霊たちを誇りに思ふ

八王子税務署　宮　本　久　暢

楽しみと言はれつづけたレクレーション歩き疲れた夏の一日

近藤フィリップス㈱　豊　澤　邦　雄

学びたる知識巡りて熱き身を今七沢に鎮め行く我れ

## 第三十三班

国民文化研究会　原　川　猛　雄

登りきて汗ばみし肌に心地よく涼しき風の吹きわたりくる

谷間より吹きくる風にそよそよと木の葉ゆらぎて涼しげに見ゆ

亜細亜大学情報システム部　寺　尾　浩　一

御講義を拝聴すればわが知識とぼしかりしを痛切に思ふ

宮崎神宮　須　田　明　典

若きらと共に競へるジャンケンゲーム一位となりて万歳をする

ひぐらしのしきりに鳴ける尾根の道汗流しつつ友らと歩む

厚木市教育委員会七沢自然教室　井　上　桂

母語る体験発表声つまり若くして逝く我が母重ねる

自営業　今　村　　曙

木の命木のこゝろを思ひつつそぞろに歩く七沢の緑陰

国民文化研究会　徳　富　太　郎

つかれはて食へぬと思ふおにぎりをお茶も飲まずにペロリ四つも

## 第三十四班

国民文化研究会　松　吉　宣　和

ハイキング峠をのぼりあせあふれつかれし体に歌はうかばず

腰おろし木かげに集ひ語らへば暑さきびしくあせとめどなし

国民文化研究会　広　島　秀　明

教へずに学ぶ姿勢をつかませることがいちばん大切であると

青森県教育振興会　原　子　昭　三

巡礼のいにしへしのばるる山道の峠にほほゑむ地蔵菩薩は

ひぐらしをききつつ登る沢の道はるかにしのぶ終戦の頃

自営業　谷　山　良　太

童子（わらべご）の心にかへるレクレーション歓声高しバンザイの波

㈱エイコー　向笠　修

坂道を上り疲れて昼飯の木々の間に間に夏空見えし

拓殖大学　服部朋秋

筆執りて歌に思ひを馳せれども思ひ浮かばぬ汗一筋に

日本植生㈱　小竹守敏彦

各地より集へし人と話しをればわれの無学を思ひ知りけり

## 第三十五班

国民文化研究会　島津正数

班友どちとおほやま広場に座しをれば谷ゆ吹き来る風涼しけり

福岡県中小企業経営者協会　小早川明徳

受け継ぎし匠のこころ自然の業千年の時吾も刻まん

奈良市役所　生駒聰

待ちに待ちし今日七沢の合宿に君が代歌ひて涙あふるる

陽の落ちていよ〳〵高きカナカナの聲のひびかふ七沢の森

カナカナの聲のひびかふ七沢の尾根より見ゆる街のひろごり

日本植生㈱　藤嶋泰良

一つ志の集ふ若人七沢にここより広げむ真の日本

NTT　LSI研究所　竹田忠雄

志同じくせる友集ひ来し起ちて進まんわが国のため

福井大学　荒木哲郎

母と子が岐阜に集ひて涙する親子の縁を神に感謝する

21世紀教育開発研究所長　秋元正明

近年の荒みゆく国の風潮に涙し語る師の聲厳し

## 事務局

日本女子大附属高三年　青山詩野

目の前にふと舞ひおりた弱き蟬燃えつき散つた七日の生命

日本女子大附属高三年　金刺博美

熱心に講義聞きいる学人に心打たれしも我ゐねむりす

大妻嵐山高三年　小林祐子

汗だくで下る山道帰り路沢のせせらぎ疲れを癒す

（二回目の作品）

夜の集ひにて村山寿彦さんのハーモニカ演奏をききて

ハーモニカで奏でられたる荒城の月プレイホールに静かに響く

その音色真心こめて吹く姿今も心に深く残りぬ

東京大学附属高三年　伊藤千代子

夏の日に山登りするいま思ふつかれふきけす君がゐればと

埼玉県川島町立西中三年　小林紘子

ハイキング歩きつかれた帰りみち突然母を恋しく思ふ

慶応義塾湘南藤沢中三年　山口蝶子

事務局の窓から外をながめたら向かひにうつる青き山々

## 見学参加

公認会計士　丹羽肇

敗るれど吾は負けじと幼な子の雄々しき写し画涙湧き来も

みいくさのまことの姿伝へたき思ひさらなり古稀を迎へて

## 国民文化研究会

国民文化研究会理事長　小田村　寅二郎

隔年三回目の七沢自然教室での「第四十回全国学生青年合宿教室」を祝ぎて

さねさし相模の国の大山の麓の集ひも三度となりぬ

完備せるこの施設と職員はわれらが集ひには過分と思ひぬ

うぐひすの鳴く音聞きつつ講義室に今年集ふは二百四十余人

山口秀範運営委員長の用意せし「合宿日程」は斬新さに満つ

初日・二日を一つのテーマに繋がらしめその「まとめ」とて「全体研修」を置く

招請の講師二人も異色なる若き女性教授と宮大工の棟梁

聴講の人らの喜び限りなく劃期的企画は好評を博しをり

かく祝ぎてこれの集ひのとことはに栄え続くを祈りてやまず

㈱宝辺商店取締役会長　宝　辺　正　久

長谷川三千子先生「敗戦の克服」を聞く

身をつくしみ国の仇をふせがむと戦ひし日はきのふのごとし

いくさ敗れ天地くづるる時にして宣らしし勅を師は誦み給ふ

いくさ停むる国と民とのゆく道はかくとこそ宣らしし大みことはや

「色かへぬ松ぞををしき」と大君は大宮にひとりみうた詠みましき

「万世の為に太平を開かむ」とのぞみ給ひし大御心をいま仰ぐべき

黙しつつも隠れつつも忘るべしやわが国守る本の心を

（二回目の作品）

夜の集ひの「進めこのみち」

ピアノ弾く乙女はしかと見えねども前奏和音のひびき高しも

祐子ちゃんが弾くらむ「進めこのみち」の音のひびかひ涙ぐましも

ますらをがこの道すすむ誇りをば高らにうたふ歌うつくしき

九州造形短期大学講師　小　柳　陽太郎

突然の社命にて出張せし友澤部寿孫君を偲ぶ

戦後に生れましし若き二人の御姿をこの壇上にむかふるうれしさ

御二人を迎ふる準備に心血をそゝぎ給ひし友ありがたき

粉雪のふりしく中をもろともにいかるがの里訪ひしかの日よ

刻々に偲びますらむ海ざかるインドネシアの空仰ぎつつ

御二人の希有の御話に心をどり聞きしよろこび君に伝へむ

四十年の我らがいとなみに新たなる歴史刻みたり厚木合宿

（二回目の作品）

山口運営委員長

君ゆくところ爽やかの風吹きすぐるおもひに営まれし合宿教室

外国のつとめを終へしひまもあらず運営委員長の任につき給ふ

帰ります日を待ちわびし長き日のおもひに見事こたへたまひき

君ありと思へばうれし君ここにありと思へば心安らぐ

㈱千代田コンサルタント専務取締役　上　村　和　男

リクレーションにて

暑き中道案内にみ友らが角々に立ちませり有難きかな

（二回目の作品）

二十年三十年会はざりし友なれど語り合はずとも心通へり

鹿児島ゆ出雲の地より集ひ来し友らと語れば
昔なつかし
来年も必ず阿蘇へ行きたしと出雲の友の語る
が嬉し
み国いまだならぬ世にいかにして生くべき
かとの語らひつきず
たたかひに敗れて五十年過ぎたれど曲がれ
る教へいよよはびこる

国民文化研究会事務局長　長　内　俊　平

小川三夫先生御講話（槍鉋）

槍鉋に削られてゆくひばの木の薄き鉋屑くる
くる廻る
くるくると廻りつつ太き紙縒の形をなして
軽く飛び落つ
夕陽にうつる柱の膚あひを思ひつつ飛鳥の先
人は削りしといふ
誰かやつてみませんかのお声に応じわれは直
ちに飛び出しにけり
棟梁が心をこめて研がれたる槍鉋手にするさ
へも尊きものを
掌にとりて板に当つれど木膚僅かに削れるの
みで先へ進まず
握り方間違うとるとのひと言にまた握り直し
ひばの板に向ふ
やすやすと出来るものと思ひたるおごり心を
正されしかな
をりをりはユーモアを交へられつつ日の本の
匠の心を解きかつ語らる
述べ給ふひとことひとこと身に沁みて自づの
り出し聞き惚れにけり
忙しきなりはひならむをはるばると来ませる
み心に掌を合すのみ
ほのぼのと心あかるくなりにけり身もて伝へ
給ふそのみことばに
み身体をいとひたまひて日の本の匠のわざを
若きらに伝ふる道につくさせ給へや

（二回目の作品）

山口運営委員長心をこめしひととせのいたづ
き思へば涙ぐましも
遠くより青砥君も来つ父上にいよいよ似てき
し青砥君も来つ
海遠く旅する友も歌にのこりこの合宿にはせ
参じけり　（澤部壽孫兄のこと）
故郷の娘らもいくたり見えて朝夕に会ふよろ
こびも与へられけり
いそいそとつきてきにける愛孫とねおきを
共にするもえたりき
心しづかにかへりみる間もあらずして心せか
れつつこの文を閉づ

尚絅学園監事　徳　永　正　巳

八月六日広島原爆五十年

幾万の無辜の民草たふされし原爆の日より五
十年を経ぬ
いくさやぶれ敵に降りしくやしさを耐へ忍び
来し五十年かな
畏くもいくさのあとをめぐり給ふ慰霊の御旅
有難きかな

（二回目の作品）

讀みさしの経済原論にしをりさしまけのまに
まに出陣し日偲ばゆ
力つくし仇なす敵と戦へど矢弾尽き果ていく
さやぶれき
いくさばに果たし得ざりし責を悔い償ひの年
重ね来たりつ
国の為死すべき生命今に保つ恥づかしきかな
七十路を過ぐ

拓殖大学総長　小田村　四　郎

時折に吹く風涼し尾根道を汗を拭きつつ歩み
ゆく身に
帰り路を上りてゆけばうぐひすのしき鳴く声
のすがしく聞ゆ
ひぐらしの鳴く音もしげくなりにけり早くも
秋の立たむとすらむ

（二回目の作品）

慰霊祭

みどりなすあけぼの杉に圍まれて祭のにはは
静かに暮れぬ

気づかひし雷雨遠のき半月の光りほのかに斎庭をてらす

警蹕の声おごそかになりひびき今しみたまは
降りたまひぬ

まがごとの起りて乱るる世のさまをみたまは
いかにみそなはすらむ

みたみわれらみたまのふゆを祈りつつ力あはせてみ國護らむ

神奈川県立百合丘高校校長　国　武　忠　彦

緑濃き山の峠の腰掛に親子づれあり楽しげにみゆ

愛らしき幼子ふたりけなげにも登りきたれりとその母はいふ

橋本フォーミング工業㈱用品販売部長　古　川　　修

長谷川三千子先生のご講義を拝聴して

丁寧にことばをつくして語り給ふ師のみ言葉はさはやかなりき

「終戦の詔書」にもとづき我々の進むべき道示し給ひし

八月六日、昼間のレクレーションに参加して

照りつくる真夏の陽差し身にあびて歩みてゆけば汗の流るる

語りつつ「ながめの丘」に登り来て友といただく弁当うまし

（二回目の作品）

星影のさやかに照らす斎庭にてみ霊祭は無事に終りぬ

天がけるみ霊も共に参加してわれらの営み護り給ひぬ

新日本製鉄㈱機械プラント事業部次長　今　林　賢　郁

長谷川三千子先生の御講義

たたかひは互ひの正義のぶつけ合ふゲバルトなりと語り給ひぬ

敗れたる者こそ悲しおのが身の正義は勝者に奪はれたりしと

さはあれど掲げし正義を胸内にとどめて生きむと訴へ給ふ

（二回目の作品）

四十回てふ集ひはそのまま師や先輩の切なる願ひの継続とぞ思ふ

ただならぬ御國の様を思ふだにいよよ努めを果たさむと思ふ

講談社宣伝局次長　磯　貝　保　博

命ある木々の姿と七沢の森を見やれば生き生きと見ゆ

㈱竹中工務店国際事業本部企画担当部長　稲　津　利比古

小川三夫先生の御講話を聞きて

「邪魔なるは知識なり」とふ御言葉に我の生き方省みにけり

「頭では考へずとも身体にて記憶せよ」とふ御言葉は生きたる教へと肝に銘じぬ

弟子達の生活振りを先生は愛情こめて語り給ひぬ

（二回目の作品）

おのがじしタオル携へ霊祭る広場に集ふ老いも若きも

かがり火や祭壇もやうやく整ひて今宵の祭の心待たるる

神奈川県立厚木南高校教諭　山　内　健　生

なき妻をしのぶ

この夏もつねと変らず合宿に友らと集ふをみたまに告げん

君を知るみとの多く集ひをれば君なきわが身のなほ夢のごとしも

いつの折も君に送られ合宿へ出で立ちしこと思ひ出さるる

いつの日かわれらそろひて合宿に集ふを秘かに思ひ描きしに

わが胸に思ひ描きしもいまはただ甲斐なきこととなりはてしかな

去年の夏君に送られ合宿に出発せし日のきの
ふのごとくも
こども（長男長女）らと阿蘇へと向ふに飛行
機をつよくすすめし君ははやなし
日月を重ねてことしも合宿につねのごとくに
われは集ひたり

（二回目の作品）

故島崎祐司兄の兄君忠さん、壇上に立つ

（全体意見発表）

壇上へと小走りに向ふ兄君の姿を目にして胸
あつくなる
お会ひするそのたびごとに「われも参加した
し」と兄君は述べたまひしに
「弟は弟は」とぞ語らるるやさしき兄君いま
壇上に
弟を切に思はるる兄君の御心せまりて胸あつ
くなる

東急建設㈱東京支店工務部次長　奥　冨　修　一

飛鳥の世に使ひし匠のやりがんなで削りしヒ
バの美しくみゆ

亜細亜大学教授　東中野　修　道

思はざる君の姿のまなかひに現はれ出でし驚
きみつめつ
亡き弟の学びし跡を辿らむと出で立ち来ぬと
君は答ふる
十一年前みまかりましし弟君を思ひてやまざ
る深きみ心
今はなき弟君のまなかひに現はれ来るかな語
りてをれば
つねひごろ合宿勧誘にみ心をくだき給ひし君
にてありけり
力強くこの合宿の開かれよと君に倣ひて我も
務めむ

中島法律事務所弁護士　中　島　繁　樹

草や木をめづるゆとりもあらずして汗ふき歩
む長き坂道

（二回目の作品）

全体感想発表の折に

つと手挙げ前に進みて壇上に真情語る君は頼
もし

大成建設㈱国際事業部企画推進室長　山　口　秀　範

助言者招請に応へて参加せし会員諸氏を
迎へて
足らはざる我に力を貸し給へと呼びかくれば
友ら次々と集ひ来
十五年目えざりし友鹿児島ゆ島根の友は
二十年ぶりに
「週末だけでも来れ」と添へし文に応へ夜更
けて着きし若き友らも
中途にて職場に戻り翌日はまた帰り来てワー
プロ打つ友
「友よと呼べば友は来たりぬ」さながらに我
を支ふる頼もしき友ら

（二回目の作品）

第四十回・厚木合宿閉会式にて作れる歌

一首　短歌併せたり（八月八日）

二度唱ふ　「君が代」の調べ　高らか
に　響き渡れり　今をしも
四泊五日の　集ひ果て　別れ行く時
さねさし　相模の國の
緑濃き　丹沢の麗　恵まれし　施設の
中で　営みし　「合宿教室」
響き合ふ　歌声聞きつつ　若きらの
横顔見つつ　ふとたどる
過ぎし一年　かつ浮かび　胸に広ごる
振り返る　この一年は
様々の　思ひ出に満つ　外国の　長
き勤めゆ　帰り来て
いくだもなきに　重き任　引き受けたれ
ど　世の中の　流れわからず
学生の　気質つかめず　参加者数　更
によめざりき　さはあれど
惑ひなかりし　遠近に　心知る友
事毎に　たすけ給へり
励ましの　言葉もさはに　九州の　友

らは常に　新しき
書勧めけり　関西の　友らは春に
呼びかけし　学びの集ひ
北陸の　友は次々　新しき　友と語ら
ふ　なかんづく
身近の友らは　足らはざる　我を補なひ
細々と　心砕きて
整へし　全ての手筈　なすべきを
なし終へここに　迎へたる
二百四十人　今の世に　稀有なる集ひ
講義にも　班の語らひも
初めての　驚き戸惑ひ　若きらの　胸
を揺すりぬ　日を経るに
心うち解け　今ぞ知る　「学ぶ喜び」
積もりたる　疲れも忘れ
並びゐる　顔見れば　誇らかな
喜びにみつ　閉会の
挨拶に続き　学生の　代表として　壇
上で　思ひを述ふる
吾が娘　いと健気なり　班友や　師
に囲まれし　心通ふ
よろこび語り　知識もて　競はむとせし
自らの　さかしらも語る
四半世紀　時は移りて　娘らも　共に
連なる　有難き
学びの縁　世はいよよ　迷ひを深め
この縁　この学びの場
継ぎ行くは　いばらの道か　さはあれど
しかあればこそ　行かめこの道

反歌四首

背筋伸ばし壇上へ進むその姿わが娘なれども
尊しと見つ
「大好きなお父様へ有難う」と声つまらせつ
つ結びたりけり
師の賜ひし（注）「名入りのみ歌」と吾娘の言
二つしあれば何か望まむ
秋に向け力生れ来るきざしあり共に学びし集
ひの中に

（注）小田村理事長のお歌

山口秀範運営委員長の用意せし「合宿日程」
は斬新さに満つ

熊本市役所生活環境部事業管理課課長補佐　折田豊生

ふるさとの人の語るを聴くごとく心にしみ入
る師のみことばは
すなほなる心あらずば職人の道叶はずと聴く
もかしこし
確信にあふれてつよきみことばに日々のつと
めをしのびまつりぬ

（二回目の作品）

粗末なる衣まとひし少年の焼き場に立てる
写真かなし

㈱中央塩ビ製作所会長　星野　貢

知識去り無垢で素直が一番と大人くり返し語
り給ふも
寸法より木の性見るが先なりと匠の秘伝教
はるかしこさ

（二回目の作品）

閉会式

君が代を老いも若きも声合はせしみじみ歌ふ
この一時よ
声あはせ君が代歌ふひとときに感極まりて涙
出でくる

不動産鑑定士　松吉基順

亡き兄の導きありて七沢に友らと集ひ正道求
む
七沢に集ひし先輩は在りし日の亡き兄語る声
朗々と
國のため散りしと思へど亡き兄の歌をし聞け
ば思ひつきざり
去年の春亡き兄の歌のいしぶみを故郷に建て
にき先輩も集ひて
忘れじとはらから思ふ亡き兄のみ歌し永久の
しるべと生きむ

（二回目の作品）

新たなる友らとなごみ語らひて名残つきざる

七沢の宿
雪谷に訪ねゆかむと再会を約せし友のみ言葉うれし

元・サンデン交通㈱取締役　加藤善之

ひぐらしの死

植込みのつつじの蔭にひぐらしのうごめく見えて掌に取る
はや既に飛び立つ力失せにけむ臨終近きひぐらしならむ
数年を土中に暮し旬日を空飛び鳴きて今ゆかむとす
宿命とは雖も哀れひぐらしのゆるりと歩み動かずなりぬ
かなかなと鳴くひぐらしのうら悲し丹沢山系秋近みかも

（二回目の作品）

つまづきてころびまろびつされどなほ大和島根を拓きゆくべし
極まれば極まる程にゆく道の拓かれゆくがすめらみ國ぞ

高千穂商科大学講師　名越二荒之助

小川先生の講義を聞きて

法隆寺の寺にこもれる匠らの知慧の深さを説き給ふ君
今生の見納めにせむと出陣を前に訪ねし法隆の声
千年のいのちを秘めて建ち給ふいつかしきみ寺に手をあはせたり

（二回目の作品）

合宿の終りに近く戸をくればひぐらしの聲今をさかりと
ひぐらしの命短かしいにしへゆ聲変るなく鳴き続くかな

舞岡八幡宮宮司　關　正臣

一年は早も巡りてをちこちの友と今年も集ふ嬉しさ
起き伏しの幾日か共に送りつつみ民の道を語らはむかな
心知る友らと共に語らへばわづらひ消えて嬉しさ湧き来る
今の世に在るべき道を語らひて励まし合はむ我が友どもと

長谷川先生のお話

五十年のけぢめの年にあらためてみことのりぶみ畏みまつる
新しき事は今更何かあらむ只すめろぎに仕へまつらむ

小川先生のお話

千年のいのちこもれる木を生かすつつましきほこりを述べ給ひけり
木組みには寸法でなく木の癖を重んずべしと述べ給ひけり
ひぐらしの頻鳴く丘に亡き友のみたまなごめを仕へむ今宵は

（二回目の作品）

山田輝彦兄御静養中ならんと思ひて
相模のや厚木の郷に出でまさぬ筑紫の友を偲びやまずも

班附として

をちこちと言ふは易けれ北の果て札幌よりや来し友もあり

拓殖大学教授　松本幹男

師の君のゑみをうかべつ述べらるるみ言葉聞きて元気わきいづ

（二回目の作品）

ほどなくに巨木になると言ひ伝ふメタセコイヤの若木ながむる

無職　岡村義一

四年まへはじめて訪ひし七沢の合宿の地へと車急ぎぬ
をちこちゆ集ひ来たれる若人と語るがたのし七沢の宿

（二回目の作品）

五十年のけぢめの年にあらためてみことのりぶみ拝誦しまつる

浄土真宗沼田組光隆寺僧侶　岡　棟　猛

見上ぐれば緑濃き山まなかひにせまりて見ゆる集ひの宿はも

（二回目の作品）

若きらの心つまらせとつとつと語るを聞けば涙流るる

無職　関　口　靖　枝

みまかりし友のみたまの平らぎをけふも祈りぬ六日目なれば

生き死には吐く息と吸ふの間といふ心筋梗塞で友は逝きたり

霊の行方いづくと目覚むる枕辺にわきて聞こゆる日ぐらしの声

（二回目の作品）

短歌相互批評

友の心おしはかりつつ言葉えらび歌直しゆく集ひ楽しき

神奈川県立厚木南高校教頭　福　田　忠　之

夏蟬の啼きしきる中山道の坂登り行くものも云はずに

兵隊の行軍に比しこれしきの暑さと思へど汗流れ落つ

（二回目の作品）

班別研修

ひたすらに語らふ夜は短くてその間惜しみてなほも語らふ

己が家と國の行く末案じつつ語らひて行くひとつ心に

もろともに重なる心はうるはしき國のいのちのもととなるべし

キュービー㈱管理本部部長　山　本　茂　夫

三年前ともに語りし友どちにまた会はんとて七沢へ来ぬ

いそがしきつとめの合間を縫て来る友どちの顔見るもうれしき

小田原市立富永小学校教諭　岩　越　豊　雄

固き地（つち）に杭うち立てむと友みなと力をこめて木づち打ちつく

みな人の力合せばたちまちに斎庭もさやに整ひにけり

み祭りを進むる役をたまはりて心静めて勤めむとぞ思ふ

（二回目の作品）

斎庭場（ゆにはば）にみたまをむかへ海山の幸を供へてまつるかしこさ

祭文（さいもん）を読む友の声朗々と山にひびけり木霊となりて

大御歌に感応せしか一陣の風吹きおこり四手（しで）をふるはす

建設省建築研究所室長　大　岡　弘

小川先生の御講義をお聴きして小林秀雄先生の御講義を思ひ起す

今の人は速く分らうとしすぎるとお二人の師は共に語りぬ

鹿児島くまげ農協参事　定　栄　安　治

かけ寄りて手を差し伸ぶるわが友は二十年（はたとせ）前の君みるごとし

外国に十年あまりを勤めたる君が話を聞くは楽しも

（二回目の作品）

閉会に当りて

いくたびか呼びかけくれしわが友の念ひにこたへむと我は来にけり

いま君は開会式ゆたどりつつこの合宿教室を顧み語る

これからのまなびの道に力とならむ力を借りむと語る友はも

戸田建設㈱開発計画部主任　青　山　直　幸

長谷川三千子先生の御講義を聞きて

歯切れ良く語りゆかるる師の君の言葉に知らず引きこまれゆく

長き間忘れしことを思ひ出しぬと一枚の写真取り出したまふ

写真には背筋を伸ばしいとけなき赤子背負ひし少年のあり

背負ひたる赤子は既に死に果てし弟なりと聞けば悲しも
弟ははや果てたれど泣くまじと耐ふる姿に胸のつまりぬ
日本人の誇りを持ちて忍びゆく生き様感ずと師はのたまひぬ

㈱講談社校閲第三部次長　藤井　貢

班友林嗣也兄祖母様死去により途中退場
熊本の祖母のみ許に帰らんと言葉少なに君はいま発つ
「気をつけて」とかくる声音も湿るかな君が悲しき面輪を見れば

（二回目の作品）

慰霊祭にて
雲の間ゆ月おごそかに出で来ればみ霊降りし心地するかな

㈱JTBトラベランド商事部課長　松藤　力

先輩や同輩の顔なつかしく言葉を交す時の楽しさ

（二回目の作品）

合宿に別れし時ゆ二十余年過ぎて変らぬ友と語らふ

㈲こんや別館代表取締役　青砥　誠一

二十年振りに参加して
緊張をおし殺しつつ合宿へ向ふ道中真夏の日照り
山坂をタクシーに乗り降り立てば懐しき御顔受付にあり
わが班の学生（とも）らと共に輪読をしてゆくうちにうちとけてゆく
竹を伐り杭を打ち立て御祭の準備をしたり父思ひつつ

（二回目の作品）

朝のラジオ体操の時に
日の丸を仰ぎつつ歌ふ君が代を声朗々と朝（あした）の庭に
すがすがしき朝の空気を吸ひながらラジオ体操するはうれしき

慰霊祭

ま闇なすなか行はるるみ祭は厳かにかつ清らかにして

伊佐ホームズ㈱代表取締役　伊佐　裕

ひさびさに声はりあげて君が代を共にうたへば胸つまり来る

山口県立下松高校教諭　宝辺　矢太郎

竹内孝彦君の体験発表をききて
めだからの泳ぐを見ればさかりゆく子らの面輪の浮かびくるとふ
まごころをかたむけましてをさならとまじはる君のととせたふとし
をりをりの思ひのたけをことのはにこめて送りしこのととせかも

（二回目の作品）

小柳陽太郎先生の御講義をききて
無線機をこはし最後の突撃をかけたる山崎大隊かなし
「よくやつた」との電報むなしと思ひきや「構はぬから打て」とのらす天皇は
天皇の打ちたまひたる御嘉賞の電波は届きつ兵のみたまに

公務員　鎹　信弘

小川先生の御講義を聞きて
心こめ磨かれましけむ手にされしヤリガンナの刃の光り美し

レクリエーションから帰りて
雷の音遠く響けど未だ空明るくあれば雨降らざらむ
おごそかにみたままつりに雨なきを祈りて窓ゆ空をあふぎぬ

（二回目の作品）

北村公一君のお話を聞きて
大きなる地震（なゐ）に出会ひて人々のまごころ知りしを語り給ひぬ
大きなる地震（なゐ）に会ひたるできごとを目に見ゆるがに語り給ひぬ

日産自動車㈱　内海勝彦

長谷川先生ご講義

師の君は自らうつしゑカットして我らがもとにとどけられけり

日本人の忘れしものがここにあるとふ師のみ言葉は切々として

日の本の男の子のたましひけなげにも示してありしこれのうつしゑ

しみじみとながめてをれば胸迫りあふるる涙とどめかねつも

㈱日本興業銀行　小柳志乃夫

開會式にて

「來た以上は覺悟を決めて下さい」と運営委員長は訴へたまふ

ほがらかにまた力強く若きらに合宿の趣旨語りたまへる

指揮班長となりたる友の挨拶の聲高らかに講堂に響く

様々の友の思ひに支へられし合宿なるをしみじみ思ふ

（二回目の作品）

最終日

バスに乗り帰りゆく友との別れ惜しみ窓ごしに若きら握手かはしつ

四泊五日共に過ごせし新しき友との別れ惜しむ若きら

新しき友との交はりいよいよに深まるその日ひたに待たるる

公務員　山根清

み友らの待ちをる厚木の七沢につとめを終へて急ぎゆくなり

ひさびさに会ひ得し友とも語らへば昔に返るここちするかも

国の為命ささげし人偲び世はみだるるも生きてゆかなむ

久留米大附設高校教諭　名和長泰

とびら開け見上ぐる空に雲流れ夕焼赤く照り映ゆる見ゆ

（二回目の作品）

合宿の初めの頃はうつむきておしだまりたる君にありしに

友の短歌かくなほしてむとゑみうかべ短歌よみあぐる君となりぬる

武州商事㈱企画管理部副部長　飯島隆史

小川三夫棟梁のご講話を聞きて

槍鉋かけし柱に夕日照るほのかな光いつの日かみむ

安信住宅販売㈱　松吉基光

電話にて声を聞きつつ目をとぢてかはゆき笑顔のまぶたに浮ぶ

福岡県立春日高校教諭　與島誠央

国武先輩の御講義にて

父君の出征の日に大声で泣きたる思ひ出聞くにかなしも

母君は泣き声あぐる幼な子のそばで涙をこらへられしか

家に帰り一人風呂たく母君の御姿語りつつくぐもる御声

先輩のくぐもる御声に母君のみ姿しぬばれ涙こぼれつ

おもかげに胸ふたがれてましまさむしばし御声のとぎるるその間は

（二回目の作品）

三日目の夜ゆ始めし発表の準備苦しも眠気襲ひ来

発表の内容組み立てポイントを教へ下さる折田さん尊し

目覚めむと熱きお茶入れ折田さんに心がまへを聞くは楽しき

ドキドキと胸は高鳴る発表の時刻は迫るよみがな分らず

タマポリ㈱　吉川理夫

宮大工は無垢で素直な心こそ大切なりと師はのたまへり

日本青年協議会　星　修一

歓声のあがりて広場は一時のなごやかな顔に
満ち溢れたり

熊本県立天草高校教諭　今村武人

夏山を歩く道々険しけれど友らと語らひ心楽
しも

舟橋市立法典東小学校教諭　竹内孝彦

友どちに励まされつつやうやくにまとまりゆ
きぬわが思ふこと

蜩のひとしきり鳴く杉木立すがしく見ゆる発
表のまへに

神奈川県立津久井高校教諭　大日方　学

内海指揮班長のもとで働きて
たまりくる疲れも見せずさまざまに心くだか
る休む間もなく

たわいなき話にあれど先輩と語らひをれば疲
れを忘る

「もろともにたすけかはしてむつびあふ」大
御歌仰げば力わきくる

（二回目の作品）

長内俊平先生の御講義をお聞きして
朗々と誦しませる古事記胸底に響きくるかも
躍々として

「青山を枯山なす」とふ須佐之男のみ姿うつ
つに目に見るごとし

亡き母を慕ひに慕ひ慟哭す命のみ姿に涙あふ
れく

熊本県八代郡泉村立泉中学校教諭　坂本太郎

八年ぶり訪ひし七沢変はらねばなつかしきか
なそのたたずまひ

（二回目の作品）

我が後輩の先輩との出会ひは八代の高校二年
の世界史の時とふ

我が先輩の情熱あふるる授業にて惹かるるも
のを感じけるとふ

天草に異動決まりぬ先輩へ言ひたしお礼の言
へぬままなり

大学の受験勉強で悩みをることのくさぐさ文
にしたたむ

壇上ゆ発表しませし我が後輩は人の縁（えにし）を感
じけるとふ

アプライドマテリアルズジャパン㈱　草野直樹

過ぎし日々を共に學びし後輩の名前なつかし
班長名簿に

班員と充實せし時を過ごすらしその御姿ぞ頼
もしく見ゆ

（二回目の作品）

カブトムシミヤマクワガタミヤマカミキリ珍
しき虫を手にとる

幼き日に胸ときめかせ虫たちを捕へたりしを
思ひ出すかな

都会ではまれにも見られぬ虫たちをはぐくみ
続けたり丹沢の山は

公務員　橋本明英

若きらに一年（ひととせ）ぶりに合宿にあふがうれしき
短き間なれど

㈱太陽通商　濱田雄一

久々に集ひ来ればなつかしき先輩方の集ひて
をりぬ

亜細亜大学大学院　松田裕幸

うす暗き山路の上を黙々と友らのことを思ひ
つつ登る

山道をのぼり来たればやうやくに学び舎の見
えて心安らぐ

なつかしき先輩らの面を見るうちに合宿に来
し思ひ満ち来る

忙しきなりはひの中合宿に先輩ら馳せつけ努
められしも

運営に夜の更くるまで尽くさるる先輩の姿を
尊く思ふ

## 合宿に寄せられた会員の短歌

前・厚木市長　足立原茂徳

合宿初日に（合宿後、小田村理事長宛の

便りに添へて）

時の針いま二時さしぬ開会の言の葉高くひびき渡るか

友どちの努力実りて七沢に集ふ若人二百三十

合宿はいよよ始まるわれひとり離れて偲ぶ友のみ心

合宿に集ひし友を偲ぶれば我が身の様の口惜しきかな

元・福岡教育大学教授　山田輝彦

頭垂れ終戦の詔聞きゐたりかの夏空の烈日のもと

國の傷いまだ癒えざる時にして望み托さむ今日のつどひに

若きらの集ひの中に日の本のいのち支ふる力生れ来よ

長野県駒ヶ根市文化財団理事　宮脇昌三

重ね来し四十回の合宿のこのセミナーを幸はへたまへ

元・福岡県立若松商業高校校長　小林國男

五十年の占領体制を脱皮する節目の年とならせてしがな

合宿も四十年を経過せり世代交代着々成りて真夏日にしき鳴く蟬も合宿に学ぶ友らを励ます如し

佐世保市交通局局長　朝永清之

四十回積み重ね来し合宿の開会を偲べばこころ昂る

み友らのたゆまざる努めの実を結び今年の合宿無事開かるる

心くだき時を惜しんで励みまししみ友らの労偲びまつるも

真夏日の最中に集ひし若きらも心さやかに学びたまへや

戦後五十年この年なればこそなほさらに心尽くして学びゆくべし

日商岩井㈱ガス石炭本部副本部長　澤部寿孫

インドネシアより日本へのLNG輸入にかかはる契約延長合意書の調停式を終へ、東カリマンタンのエッカ基地訪問の途次バリ島に立寄る。バリ島にて八月五日

常夏の南の島に潮の香のにほひ豊けき風吹きわたる

大空と海面を赤くそめあげて海原のはてに日の沈みゆく

○

厚木なる七沢の合宿二日目は如何にあらむとしのぶ夜更けに

七沢の合宿しのぶバリ島の夜空をちこちに星かがやけり

待ち待ちし合宿なれば後髪ひかるゝ思ひに旅立ちて来ぬ

小川先生・長谷川先生御二人のお話し聞かばと思ひをりしに

四十回を数ふる合宿つつがなく終れと祈る夜空の星に

# あとがき

吹く風にも秋の深まりが感じられる今日この頃ですが、皆さんにはその後如何お過ごしでせうか。緑深き清涼の丹沢の麓・七沢で共に学び、語り合った「合宿教室」から早や二ヶ月半が過ぎようとしてをります。このたびやうやくこの『感想文集』を皆さんのお手許にお届け出来る運びになりました。この『感想文集』は、「合宿教室」の最後に〝走り書き〟して戴いた感想文と短歌を編集したものです。

編集作業は、まづ、それぞれの班の班長又は班付の方々（国民文化研究会会員）に、感想文と第二回の創作短歌を添削・編集していただくことから始めました。

皆さんお一人お一人の心のこもった文章・短歌を丹念に読み返し、編集してゆくことは神経を使ひ、時間のかかる作業ですが、皆さんがお書きになった生々しい言葉に心打たれ、同時に皆さんの緊張したあの時のお姿も思ひ出されました。それぞれの方々に編集していただいた編集方針は以下の通りです。

㈠「感想文」について

原文をできるだけそのまま掲載することを基本方針としました。ページ数の関係で執筆者のお心のうちが最も強く表現されてゐると思はれるところを摘録しました。文章の不明瞭なところは、執筆者のお気持を辿りながら、原文のニュアンスが損はれないやう慎重に加筆しました。なほ、「かなづかひ」については、原文を尊重し、漢字及び文法上の誤りについては訂正してをります。

㈡「短歌」について

合宿では二回にわたって短歌をつくりましたが、第一回のものは、全参加者それぞれ一首以上を洩れなく本冊の巻末の「短歌詠草」のところに収めました。また、この感想文の執筆の折につくっていただいた第二回目の短歌は、それぞれの感想文の末尾に入れました。感想文と同じく、文法上の誤り等は訂正いたしました。

この『感想文集』作成のためには、班長および班付の方々以外にも多くの方々のご協力を得ました。お忙しいお仕事の中で、休日や勤務終了後の時間をさいてご協力いただきました磯貝保博、藤井貢、飯島隆史、小柳志乃夫、山根清、神谷正一、大日方学、吉川理夫、松岡裕幸他の各氏に心から御礼申し上げます。

最後に、この『感想文集』の「あらまし」作成および第一回目の短歌の編集にご尽力いただいた国民文化研究会会員の諸氏に厚く御礼申し上げます。またカメラ・レポートの写真は福岡の松本篤士さんにお世話になりました。

いろいろな方々のご努力によって出来上がった『感想文集』を、ご精読下さるやう切願してやみません。

「合宿教室」の四泊五日間の様々な経験が鮮明に甦ってくる事と思ひます。二ヶ月半前に七沢で得た感動を単なる「思ひ出」に終らせることなく、合宿教室で得た真に語りうる友との交流に、また新たな学問の求道への出発点とされるやう切に祈ってをります。なほ、ご精読後には、是非とも班長や班付の方々、班友に一筆御便りを差し上げていただきたくお願ひ致します。

（青山直幸記）

〔資料〕
第四十回〝合宿教室（厚木）〟感想文集
非売品
平成七年十月三十一日発行
編集兼発行者
東京都中央区銀座七―一〇―一八　柳瀬ビル
電話　〇三―三五七二―一五二六(代)
ＦＡＸ　〇三―三五七二―一五二七
社団法人　国民文化研究会
理事長　小田村寅二郎
編集委員　青山　直幸・藤井　貢
飯島　隆史・大日方　学